

# 総務

## 1 任務

総務は競技実施場所で起こっているすべてのことについて責任を負い、その任務については第122条に記載されている。

競技会の規模に応じて総務員を置き、任務の一部を代行させることができる。

<主な任務>

- (1) 競技会を管理し、競技会を順調に進行させる責任を負う。
- (2) すべての役員の任務遂行の状況を監視し、競技規則に精通していなければ、その代わりに指名する。
- (3) 新記録（日本・アジア・世界）が誕生した場合の記録公認要件の確認と、申請手続きに関して関係部署への連絡・指示を行なう。
- (4) 各会議で変更になった事項や新たな決定事項があれば、競技会開始前に関係全部署に連絡、周知徹底を図る。
- (5) マーシャルと連携し、許可・権限のある者以外は競技場内に入れないように競技場内を整理する。
- (6) 抗議・上訴がなされた場合の対応を行う（裁定は審判長，ジュリー）。
- (7) トラブルが発生した際の情報収集，関係部署も含めた対応策の検討主導，指示を行う。
- (8) 式典表彰の管理を行う。
- (9) 広告・展示物規程が順守されるよう，関係部署に指示を行う。

## 2 競技会準備段階での任務と留意点

主催者や関係役員に対して大会・競技運営に必要な準備の指示を行い、進捗状況を管理する。必要に応じて、総務自らが対応する。

主催者の関係者が総務となる場合は、準備段階からすべてに関与する。

### (1) 競技施設・用器具関係

#### ① 公認競技場借用の申込内容の確認

- ・日時，借用器具，夜間照明使用可否，サブトラック借用有無，

雨天練習場借用有無 等

・競技場備付用器具，会議室，控室 等

② 競技場との打ち合わせ

・開場・閉場時間，送付物の送付先，持込物品の搬入方法 等

③ 競技会運営サポート業者等との打ち合わせ

・用器具提供会社，情報機器提供会社，映像処理会社，広告代理店 等

(2) 役員・補助員関係

① 競技役員の出欠状況確認，補充指示

・審判編成，審判員各人の経験・習熟度（場合によっては解任）

・主要役員間での事前連絡指示，部署別準備状況の確認

② 補助員の割振り確認，補充指示

③ 大規模大会では「審判員必携」の作成指示，監修

④ 服装

・大会個別の指定服がある場合の各役員への周知，配布指示

(3) 競技規則関係

① 大会要項の決定・プログラムの作成指示

・大会要項，出場資格，競技注意事項，申し合わせ事項の確認

・申込状況（種目・組数・人数）の確認

・ラウンド，進出条件などの決定

・競技日程の決定

② 特に注意を要する事項の確認

・抗議対応

手順の確認と場所の確保

・ドーピング検査有無と準備状況

関係役員（NFR・DCO・シャペロンなど）の手配と検査場所の確保

・国際大会の場合は国際ルールの確認

(4) 競技運営関係

① 主催者との各種打合せ。特に主催者が陸協以外の場合は，主催者の希望と競技運営上の課題が合わないこともあるので，その調整が重要

② 大会で使用する通信機器準備，審判部署間の通信網整備

- ③ 報道対応
    - ・TV中継がある場合はTV局との打合せ（放映時間，競技時間の微調整必要時の対応，映像・PAの場内利用 等）
    - ・報道関係者対応の準備（ビブス，ADカード，取材エリア，会見場所，作業部屋，待機場所，通信回線 等）
  - ④ 諸会議
    - ・監督会議，審判主任会議等の実施計画  
開催日時，場所，議題，決定事項の反映・伝達方法 等
  - ⑤ PC使用の場合はデータ，PC不使用の場合は流し用紙の準備
  - ⑥ 記録用紙関係の準備  
日本陸連ウェブサイト  
「競技会で使用する記録様式」  
\* <http://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>
  - ⑦ 各種計画書の作成・確認
    - ・進行計画（進行表）
    - ・式典表彰計画，プレゼンター一覧
    - ・競技場整備用具搬入計画
    - ・競技者係招集誘導計画表
    - ・荒天・地震発生等緊急時対応計画 等
  - ⑧ 医療・治療体制の確認
    - ・医師の手配
    - ・救急措置時の手順（消防・病院・競技場からの搬出方法 等）
  - ⑨ 広告ボード，場内広告掲示物の設置場所確認
  - ⑩ 道路競走・駅伝での各ポイント設置状況確認，実施に際しての道路使用許可・交通規制等について警察その他関係者との折衝状況確認
- (5) 庶務事項
- ① 物品，消耗品，賞品等の準備，管理
  - ② ナンバーカード準備，選手への配布方法
  - ③ プログラム準備，関係者への配布方法
  - ④ 関係者昼食・飲料準備
  - ⑤ 来客・来賓，スポンサー対応検討

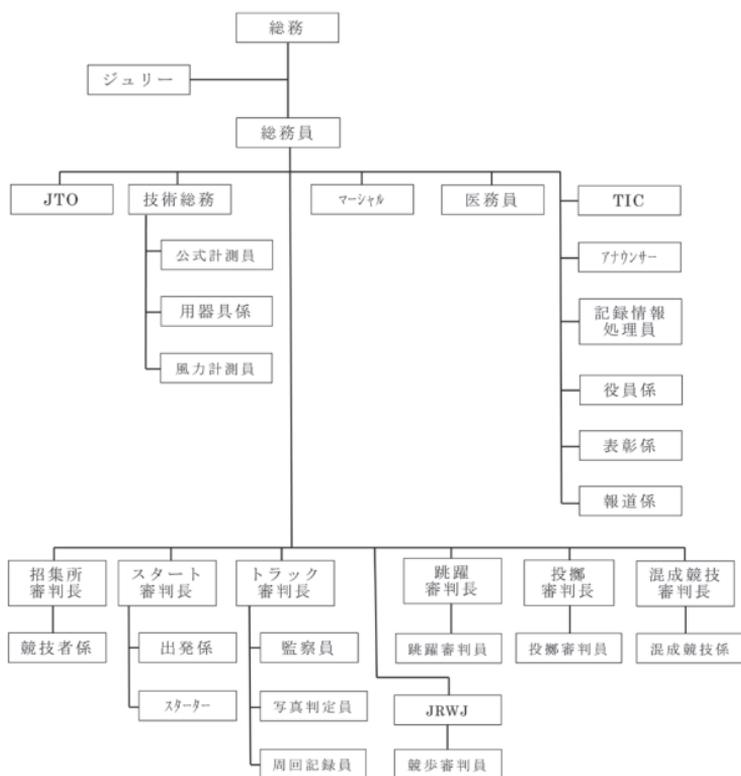
- ⑥ 道路競走・駅伝での競技役員輸送方法，随行車輛配置，役員間の連絡網整備，医師の手配，救急措置時の対応方法検討

### 3 競技会当日の任務と留意点

- (1) 競技場施設・用器具の準備状況
  - ① 主催者，技術総務と分担して必要事項のチェック
- (2) 役員の集合状態の確認，補充措置
- (3) 抗議・上訴申し立て時の対応打合せ
  - ① 総務，抗議担当総務員，審判長，ジュリー，TIC
  - ② 受付からの流れ，場所の確認
- (4) 競技場内の整理状況観察，マーシャルへの指示
  - ① 事故防止の観点から，練習場も含めて事故予防徹底
  - ② トラック競技，フィールド競技ならびに競合する個所の整理特に投てき競技の危険防止策
  - ③ コーチ席の確保
- (5) 掲示広告物のチェック
  - ① 広告ボードの位置，内容，スタンドでの展示物等のチェック
  - ② 広告規程違反物，競技運営の妨げになる物の移動，撤去指示
- (6) 審判長裁量（判断）事項への対応  
原則，判断自体は審判長だが，運営上，その内容を共有する必要あり
- (5) 掲示広告物のチェック
  - ① 広告ボードの位置，内容，スタンドでの展示物等のチェック
  - ② 広告規程違反物，競技運営の妨げになる物の移動，撤去指示
- (6) 審判長裁量（判断）事項への対応
  - ① フィールド競技場所の変更
  - ② 警告・除外
  - ③ 失格
  - ④ 競技規則にない事項の審判長裁定
  - ⑤ 混成競技の組合せ変更
- (7) 新記録誕生時
  - ① 記録の保全（写真，投擲物の再検査指示等）
  - ② 記録申請に関する部署への連絡・指示

- ③ 関係者のサイン徴求
- ④ 記録原票の保管指示
- (8) ドーピング検査
  - ① 実施方法，検査場所の確認
  - ② 関係者への連絡
- (9) 進行状況確認
  - ① 競技進行（進行担当総務員），式典表彰（表彰担当総務員）
  - ② 招集状況確認
  - ③ 遅れが出た場合の回復方法の検討・指示
  - ④ 道路競走・駅伝では審判長・関門役員・移動審判員から
- (10) 結果発表時刻の確認
  - ① 抗議に備えて，記録発表時刻の記録指示  
 あらかじめ，基準時間は何にするかを決めておく（アナウンスか，大型映像表示か，掲示板への記録用紙の掲示か）
- (11) 記録情報処理員からの記録原票の受領保管，主催者に対する記録申請指示
- (12) 報道機関等への情報提供
  - ① 記録，資料
  - ② 記者会見等の設営
- (13) その他
  - ① 競技の判定に時間を必要とし，状況を説明した方がよいと思われるケースについての報道関係者，関係競技役員，関係監督，競技者，観客への説明。説明方法，説明者・説明内容検討指示
  - ② 競技会前に準備したその他事項の実施状況確認

## 〈国内・主要審判関係イメージ〉



### 広告規程から見たユニホーム

陸上競技のユニホームには、製造会社名やクラブ名・クラブロゴが入ります。これらの表示については広告規程で大きさなどが制限されています。製造会社名はユニホームのシャツとパンツ場所に関係なく、それぞれ1カ所ずつ入れることができます。大きさは、高さは5cm以内で、面積30cm<sup>2</sup>以内の長方形と規定されています。市販されている記念Tシャツをよく見てください。この規程に違反していると競技会で着用することは「競技会における広告および展示物に関する規程」違反となり、競技役員から商標隠し用のテープを貼られたり、裏返しに着るよ

うになど指示が出されることになりますので、注意してください。

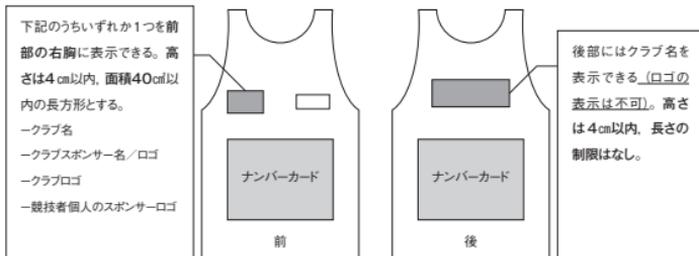
製造会社名がないから大丈夫ではありません。この規程の中でロゴとは「シンボル、デザインまたはその他の図案化された表示、キャッチフレーズ、スローガン、タグラインなど、製造会社、スポンサー、他のあらゆる会社、ならびにまたは、そうした会社の製品名を表すもの。」と規定されています。その製造会社だけが使用している図案化された表示、キャッチフレーズ、スローガンもすべてその製造会社を表現するものとしてとらえられていますので競技会で使用できないので、特に注意を払う必要があります。

また、クラブ名とクラブロゴについてです。クラブ名、クラブロゴあるいはクラブ名+クラブロゴのいずれかをユニホームのシャツの前に表示することができます。高さは5cm以内で大きさに制限は設けません。また、後ろにはクラブ名を表示することができます。ただし、高さ4cm以内で大きさに制限は設けません。

例外として、日本学生陸上競技連合、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟に加盟している学校教育法第1条、第124条および第134条に規定する学校の学校名/マークはベストまたはレオタードの前部および後部にそれぞれ1カ所表示できるものとし、大きさに制限は設けていません。これらのことを遵守してユニホームの制作をしてください。

これらの規程はすべて国内大会用に規定されているものです。IAAFの主催大会などに参加する場合はその規程に従う必要があります。実は国内でもIAAFの「競技会における広告および展示物に関する規程」を適用する大会が実施されています。セイコーゴールドエンブレム陸上やIAAFのラベリング大会がそれらの大会に当たります。ユニホームに表示できるクラブ名、クラブロゴの大きさが変わってきますので、それらの大会に出場する際は注意してください。規程は以下の通りです。

## [ユニフォームの表示制限]



※下半身の衣類(ランニングパンツ・ランニングタイツ等)

下半身の衣類には、クラブ名等を表示することはできません。レオタードの場合も、ウエストよりも下の箇所にクラブ名を表示することはできません。

ロードレース、マラソンのラベリング大会はすべての競技者が対象になるわけではありません。ラベルの色によって対象者は以下の表のようになっていますので、ご確認ください。

<対象選手> 大会のラベル種別ごとに、対象となる選手が異なります。

大会のラベル種別	IAAF規則の適用対象選手(エリート選手)			その他
	36か月(3年)以内に下記の記録を持つ			
	マラソン	ハーフマラソン	10km	
ゴールド	男子2:10:00 女子2:28:00	男子1:01:00 女子1:11:00	男子28:00 女子32:00	直近の世界選手権、オリンピックのマラソン、世界ハーフマラソンで20位以内
シルバー	男子2:12:00 女子2:32:00	男子1:03:00 女子1:12:00	男子29:00 女子33:00	
ブロンズ	男子2:16:00 女子2:38:00	男子1:04:00 女子1:15:00	男子30:00 女子37:00	

この規程を遵守するため、国際大会やマラソン・ロードレースのラベリング大会に出場する場合には、最新版の「競技会における広告および展示物に関する規程」などをご確認ください。

## スタンドからの怪しげな撮影行為に対する対応

関係者以外の怪しげな撮影に対しては、以下のような対策が考えられる。

1. そのような撮影を可能にする場所は「撮影禁止区域」とし、張り紙などで周知する。
2. 仮に怪しい人物がいた場合、マーシャル・総務員などが撮影を遮るような位置で往復するなど、撮影が困難になる状況を作り出す。
3. 女子走高跳の着地場所はトラック側に設置し、直近のスタンド側からは背面しか写せないようにする。
4. フィニッシュしたランナーの腰ナンバー回収の際、できるだけ迅速にランナーをスタンドから見えない場所に誘導する。フィニッシュ後に倒れこんですぐに動けないような場合は、補助員（できれば女性が好ましい）の協力を得ながら、できるだけ撮影を遮ることのできる位置取りをしてもらう。駅伝など道路競技の場合は、救護場所を幕で囲うなど外から見えないようにすることも効果がある。
5. また、以下のような場所も可能性があるため、マーシャルや総務員は注意が必要である；
  - ① 走幅跳・三段跳の砂場の延長線上
  - ② ハードルの正面
  - ③ 障害物競走の水濠付近

とはいえ、当然善意の撮影者の場合もあるので「熱心に撮影されていますね。選手のご家族の方ですか（選手の学校関係者の方ですか）？」などの声掛けも牽制効果がある。

それでも続く場合は、「昨今は疑われることがあるので」と説明し、少し場所を移動してもらうなどの対応をお願いする。いずれにしても落ち着いて丁寧に対応することが肝要であり、ご家族や競技関係者であればすぐに理解してくれるであろう。

## 体調に異常をきたした競技者への対応

先ほどから呼吸が荒く、大量の汗をかいて走行（歩行）していた競技者が、ふらつき、コースを逸脱し始めた……。転倒した競技者がそのままずくまり、動けない状態が続いている……。

近くにいる競技役員の貴方はどのような行動をすべきであろうか？

第144条「助力」では、主催者によって任命された医師は競技者の生命・身体保護の観点から、競技の中止を命じることができ、審判員や公式の医療スタッフが声掛けをしたり、介護のために身体に接触することを助力とは見なさない。としている。

「下手に声掛けや身体に接触してしまい、それが原因で競技者が助力違反で失格になったら……」と懸念する声もかつてはあったが、何より競技者の生命・安全を保護する姿勢を一番に持ち、勇気ある行動が望まれる。

競技場内で発生した場合、即座に審判長、総務（員）、医師の判断により、競技の中止が決定されるが、道路競技においては、必ずしも審判長や医師がそばにいるとは限らない。そういった場合、現場の審判員から審判長や総務（員）、医師に現況が報告され、対応の指示を受けて措置できる体制作り、連絡網の整備が必要である。

また、大会要項や競技注意事項、監督会議等を通じ、緊急事態発生の際には、審判長や医師の判断により、競技を中止させることがある旨を周知徹底しておく必要がある。

何より道路競技における監察員の仕事は、観客の整理やコースの整備だけでなく、選手の観察も重要な任務になっていることを理解していただきたい。

## Post Event Control

### 「国際大会」

ミックスゾーンの奥に部屋(Post Event Control Room)があり、衣服などが届けられ、インタビュールームや表彰控室までの誘導の間の、入賞者管理を指す。途中ドーピング等の指名や対応が求められることもある。

### 「国内大会」

競技を終えミックスゾーンまで誘導された競技者の退路への誘導や、入賞者の確定、フラッシュインタビュー対応までを主にミックスゾーンで行い、その後、インタビュールームや表彰控室を経て、表彰へとつながる一連の流れを指す。途中、ドーピングの指名を受けたり、対応が求められたりは国際大会と同様である。

### 「ポスト・イベント・コントロール」

国内競技会では、競技者の競技終了から競技場を退場するまでの、全ての範囲での案内・誘導ととらえたい。

主たる係・統括：(国際) PECR 担当 / (国内) 総務・総務員

国内競技会でPECに関わる主な係：マーシャル、ミックスゾーン担当、報道係、入賞者管理係、インタビュールーム担当、式典・表彰係、救護(医務)係、NFR(ドーピングと医事・救護部門統括)、DCO(ドーピングコントロールオフィサー)、シャペロン(ドーピングの通告と付き添い)、アナウンサー等



# 進行担当総務員

## 1 任務

進行担当総務員の任務は、第122条に記載されている総務の任務の中から、競技会進行に関する部分について分担し、代行することである。

進行担当総務員の任務分担や人数は、競技会の規模や性格、競技種目数などを勘案して決める。

特に大規模競技会においては、一つの種目を行うのにも複数部署の競技役員が多数関与することから、関連する部署間の連携を密接なものにするために、調整役として進行担当総務員を配置する必要がある。

以上のような観点から、進行担当総務の役割をさらに次のように分けている例が多い。

- ・総括担当（全体進行担当）
- ・トラック進行担当
- ・フィールド進行担当（跳躍担当，投てき担当）
- ・式典表彰担当

## 2 任務分担と留意点

各進行担当総務員は、無線やインカムなどの通信機器が備わり、関係部署へ瞬時に連絡できる手段が確保されている競技会では、なるべく全体の流れが見渡せるスタンドの最上階に位置し、アナウンサーと同席した方がよい。

### (1) 総括担当進行総務員の任務と留意点

- ① 競技会の準備段階において、イベント・プレゼンテーション・マネージャー（EPM）の役割も一部担いながら、主としてプログラムの円滑な進行という視点から総務に各種進言を行ない、了承と委任を受ける。

#### (a) タイムテーブルの検証と調整

- ・フィールド競技，トラック競技，表彰式の同時刻設定に注意

#### (b) 大型映像装置への映像・文字情報の表示方法とアナウンス

の連携について事前調整

- ・アナウンスのルール，用語の統一，アナウンス・スクリプトの作成
- (c) 総括進行表の策定と決定
  - ・総括進行表を作成し，総務の承認を得て主要役員へ配布
- (d) 観衆・テレビ中継対応
  - ・電光掲示板（大型映像装置）にトラック競技の写真判定中の結果やフィールド競技の途中経過をライブで表示，フィールド競技終了直後に結果を表示する場合には，その運用方法などについて，事前に関係審判員（長）の了解を得る
  - ・場内インタビューが行われる場合のカメラ位置や音声の調整
  - ・テレビ中継が行われる場合，中継局ディレクターとの連絡調整
- ② 競技中に発生しうるすべての事項について状況を把握し，総務（担当総務員）と調整のうえ，プログラムが順調に進行するように連絡調整を行なう。
  - (a) 競技役員，補助役員の配置状況
  - (b) マーシャル，場内整理状況
  - (c) 競技者係，招集所の状況
  - (d) 記録情報処理員の作業状況
    - ・記録作成状況，成績記録の流れ方，記録の発表，記録管理，新記録申請
  - (e) アナウンスならびにアナウンス方法
  - (f) 表彰方法，賞状，記念品
  - (g) 医師，救急関係措置
  - (h) 報道関係との折衝，インタビューなど報道に関する措置
  - (i) 雨天，荒天対策
    - ・用器具係との連携
  - (j) 広告商標違反者への措置
    - ・競技者係，フィールド競技審判員との連携
  - (k) イベント・プレゼンテーション的要素に関する各専門家へ

の対応

- ・ファンファーレ，BGM使用時の音響担当との連携
- ・大型映像装置へのライブリザルト，リプレイ（VTR）表示の映像担当との連携

(1) システムトラブル（信号器，写真判定装置，光波計測器，記録情報等）発生時の対応

(2) トラック進行担当総務員の任務と留意点

競技時間の進行状況，競技役員の配置，活動状況，参加競技者の誘導ならびに練習状況，施設用器具の設置状況などを詳細にチェックしてプログラムが順調に進行しているかについて，たえず細かい配慮をする。

また，進行計画表を作成，携帯し，1組毎の競技開始，終了，速報発表，記録発表時刻等を記録する。

① トラック競技進行計画表の作成と進行結果の記録

- (a) 競技日程が進行計画表通り進んでいるか
- (b) 遅れている場合どのように回復させるか

② 招集，誘導状況

- (a) 招集は予定通り完了し，予定通りの組数ずつ誘導されているか
- (b) スタートライン付近に早く誘導された競技者が溜まっているか
- (c) スタートライン付近で勝手に練習していないか
- (d) 腰ナンバー標識は正しく配布されているか
- (e) リレー競技の2～4走者用のマーカーは用意されているか
- (f) 競技者の衣類，持ち物の広告商標の点検
- (g) 競技場内持ち込み物の点検

③ 施設の整備，各ラインなどの状況

- (a) スタートライン，テイク・オーバー・ゾーンライン，ブレイクライン，フィニッシュライン等が正しく引かれているか
- (b) ブレイクラインマーカー，オープン旗等が正しく設置されているか
- (c) スタートライン付近に凸凹はないか
- (d) 3,000m障害物の水濠の水は溜められているか

- ④ 用器具の準備状況
- ・レーンナンバー標識，スターティング・ブロック，スターター台，ハードルの数・位置・高さ，周回表示板等
- ⑤ 写真判定装置，途中計時装置，速報計時装置の整備状況
- ⑥ トラック関係記録用紙，スタートリストの流れ方
- ⑦ トラック競技関係役員の入退場，配置状況
- (a) 隊列行進がなされているか
  - (b) 予定時間に配置が完了しているか
- ⑧ トラック競技関係役員の連携状況
- ・トラック審判長，競技者係，出発係，スターター，監察員，競歩審判員，周回記録員，写真判定員，風力計測員，用器具係，アナウンサー
- (a) スタート側の準備状況，スタートできる態勢か
  - (b) フィニッシュ側（写真判定員）の準備はできているか
  - (c) 出場競技者は誤りなくアナウンスされたか
  - (d) 通過タイムの発表，ブレイクラインマーカーの撤去，周回表示，最終回の鐘は正しく行われたか
- ⑨ 競技終了後の関係役員の対応状況，特に記録の正確，迅速な処理
- (a) 決勝審判員，計時員の記録集計。写真判定員からの結果連絡
  - (b) 記録の速報表示，アナウンス内容
  - (c) 正式結果の発表，発表時間，競技終了から発表までの所要時間
- ⑩ 関連種目での風向風速に関する記録
- ⑪ 黄旗があがったときの措置
- ⑫ 新記録が出たときの措置
- (3) フィールド進行担当総務員の任務と留意点
- 競技時間の進行状況，競技役員の配置，活動状況，参加競技者の誘導ならびに練習状況，施設用器具の設置状況などを詳細にチェックしてプログラムが順調に進行しているかについて，たえず細かい配慮をする。
- また，進行計画表を作成，携帯し，入場，練習開始，競技開始，

終了時刻、各ラウンドの所要時間、試技回数、記録発表時刻等を記録する。

- ① フィールド競技進行計画表の作成と進行結果の記録
  - (a) 競技日程が進行計画通り進行しているか
  - (b) 遅れている場合にどのようにして回復させるか
- ② 招集、誘導方法準備状況
  - (a) 招集は予定通り完了したか
  - (b) 誘導は予定通り行われているか
  - (c) 競技者の衣類、持ち物の広告商標の点検
  - (d) 競技場内持ち込み物の点検
- ③ 施設の整備状況
  - (a) 跳躍種目 砂場やマットの整備状況、助走路、踏切板
  - (b) 投てき種目 サークル、踏切線、囲い、投てきエリア、距離ライン
- ④ 用器具、機材の準備状況
  - ・判定用紅白旗、鋼製巻尺、記録用机、競技者用休憩長椅子
  - ・走高跳・棒高跳用支柱、バー、高度計
  - ・砲丸・円盤・ハンマー・やり等の投てき器具
  - ・足ふきマット、炭酸マグネシウム、サークル清掃用具
  - ・距離表示器、ペグ、助走用マーク、吹き流し、記録表示器等
- ⑤ 危険防止の措置（ウォームアップ場、投てき場所）
- ⑥ フィールド競技関係記録用紙、スタートリストの流れ方
- ⑦ フィールド競技関係役員の入退場、配置状況
- ⑧ 競技者の競技場入場時刻と練習方法
  - (a) 競技役員の手配の下、安全・公平に練習が行われているか
  - (b) 練習時間は十分か
  - (c) 競技開始時間までに練習は終了するか
  - (d) 投てき種目で他の競技者や役員、報道関係者等に危険はないか
- ⑨ 関係役員の連携状況
  - (a) 呼び出し係のタイミング
  - (b) 1回の所要時間の測定、明瞭な判定、距離測定の手際

- (c) 走幅跳・三段跳では、風向風速の記録伝達
- (d) 記録表示器の見やすさ
- (e) トップ8の選出
- ⑩ 競技進行途中の成績の表示方法
  - (a) フィールド記録表示器
  - (b) フィールド順位表示器(トップ8板)
- ⑪ 競技終了後の関係役員の対応状況、特に記録の正確、迅速な処理
  - (a) 記録担当審判員による表記、記録情報員によるデータ処理
  - (b) 審判長の署名
  - (c) 本部記録主任によるチェック
  - (d) アナウンス内容
  - (e) 正式結果発表時間、競技終了から発表までの所要時間
- ⑫ 新記録が出たときの措置

(4) 式典表彰担当総務員の任務と留意点

表彰・式典が計画通りに行われ、競技進行に支障をきたすことのないよう、「晴れの舞台」が感動的になるよう、ミスのないよう、たえず細かい配慮をする。

また、表彰進行計画表を作成、携帯し、競技開始、終了、結果発表、表彰開始、表彰終了時刻等を記録する。

- ① 表彰計画の作成、表彰要領の共有
  - (a) 表彰実施予定時刻・所要時間
  - (b) 表彰方法
    - ・表彰対象 (何位まで)
    - ・表彰の順序 (上位からか下位からか)
    - ・渡すもの (賞状、メダル、優勝杯、花束等)
    - ・入場方法 (控え場所から入場、表彰台、退場の導線)
    - ・リレー (賞状等の授与は全員か代表者か)
  - (c) 表彰の流れ
    - ・内容 (1つの表彰の流れ、盛り込む内容、演出)
    - ・アナウンス原稿 (開・閉会式、式典)
  - (d) 雨天時の表彰方法
    - ・場所の設定

- ・観客を含む会場への対応，報道関係者への対応
- ② 表彰者（プレゼンター）リスト
  - (a) 氏名，肩書，読み方
  - (b) 陸上競技経験者の場合のプロフィール
- ③ 関係者の集合状況
  - (a) 表彰対象者（入賞者）への集合時間の告知方法
  - (b) 集合状況の確認
    - ・入賞者
    - ・表彰者
- ④ 表彰の実施
  - (a) タイミング
  - (b) 開始（入場）指示
  - (c) （フォトセッション後の）退場指示
- ⑤ 関係役員（関係者）の連携
  - (a) 各進行担当総務員（競技進行状況，タイミングの確認）
  - (b) 表彰係（入退場誘導，表彰物準備）
  - (c) アナウンサー（紹介，アナウンス）
  - (d) 電光掲示係（入賞者・記録・VTR・表彰映像の表示）
  - (e) 映像・音響技術者（コンテンツ，タイミング）

### 3 競技日程の遅延原因

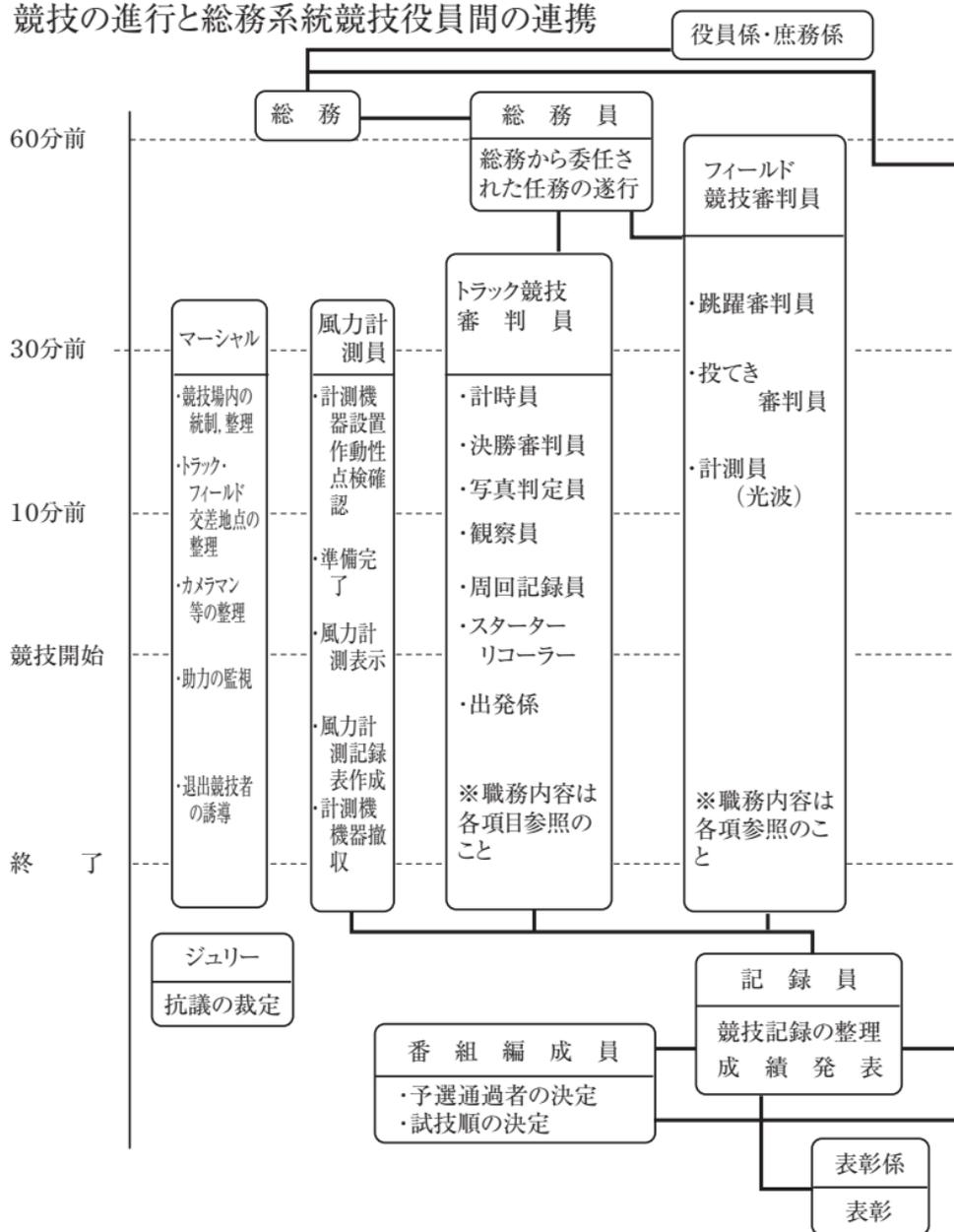
一つの種目を実施するにも，多数の審判員がそれぞれの分担した任務で活動しているのが陸上競技会の特徴の一つであり，競技会の円滑な運営には，審判員相互の連携が必要である。1個所でも任務が滞れば全体が遅延することとなり，競技者だけでなく，観衆にとっても集中を欠いた盛り上がらない競技会となってしまう。

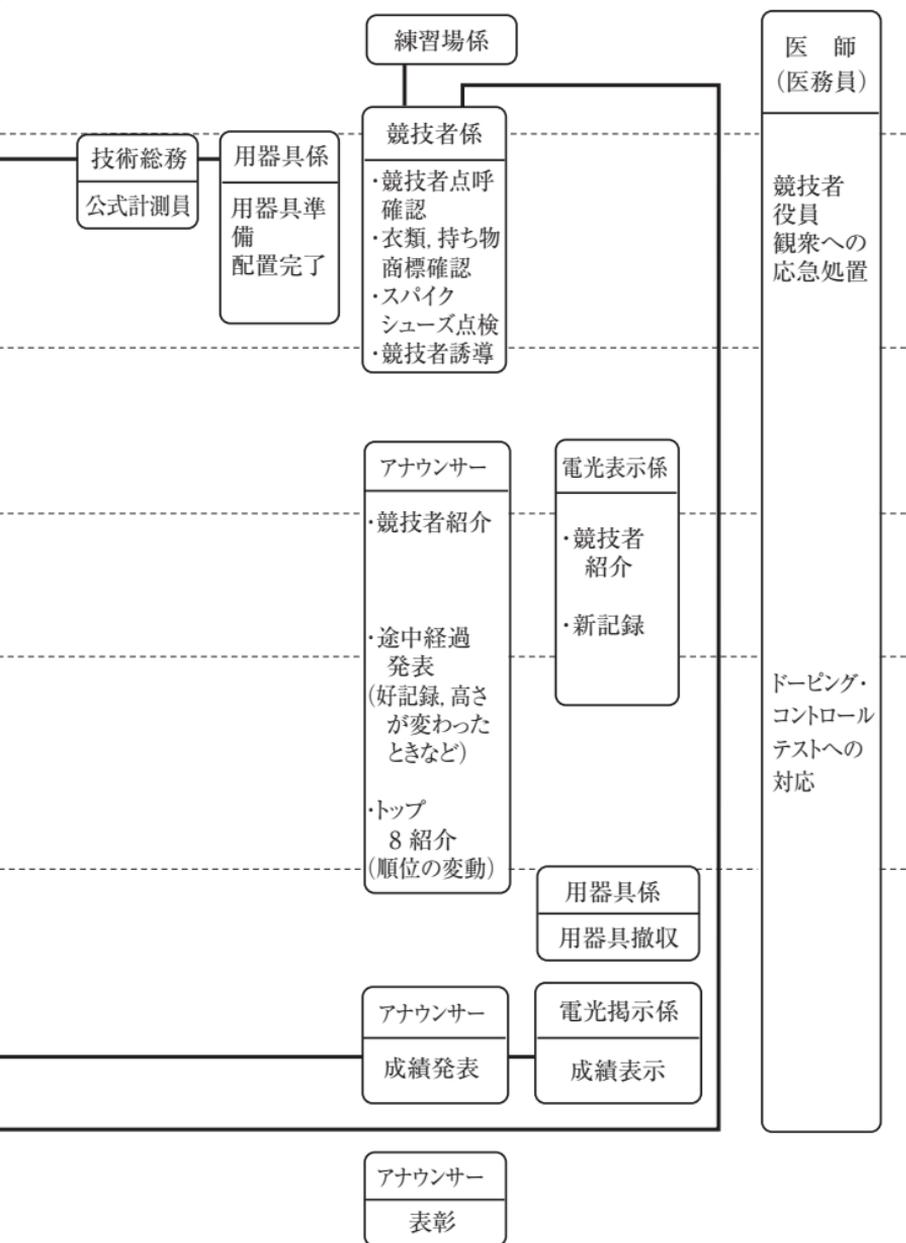
以下に，過去の事例から遅延等のトラブルの原因を例示する。

- ① 競技者の入場遅延（競技者係）
- ② 器具，施設の準備不十分。ライン引き直し，スターティング・ブロック，バトン，ハードルの置き違い等（技術総務，公式計測員，用器具係）
- ③ 役員の入場遅延・準備遅延
- ④ リレー種目での第2走者以降の準備不十分（出発係）
- ⑤ 番組編成用紙，スタートリストの遅延（番組編成員，競技者係）

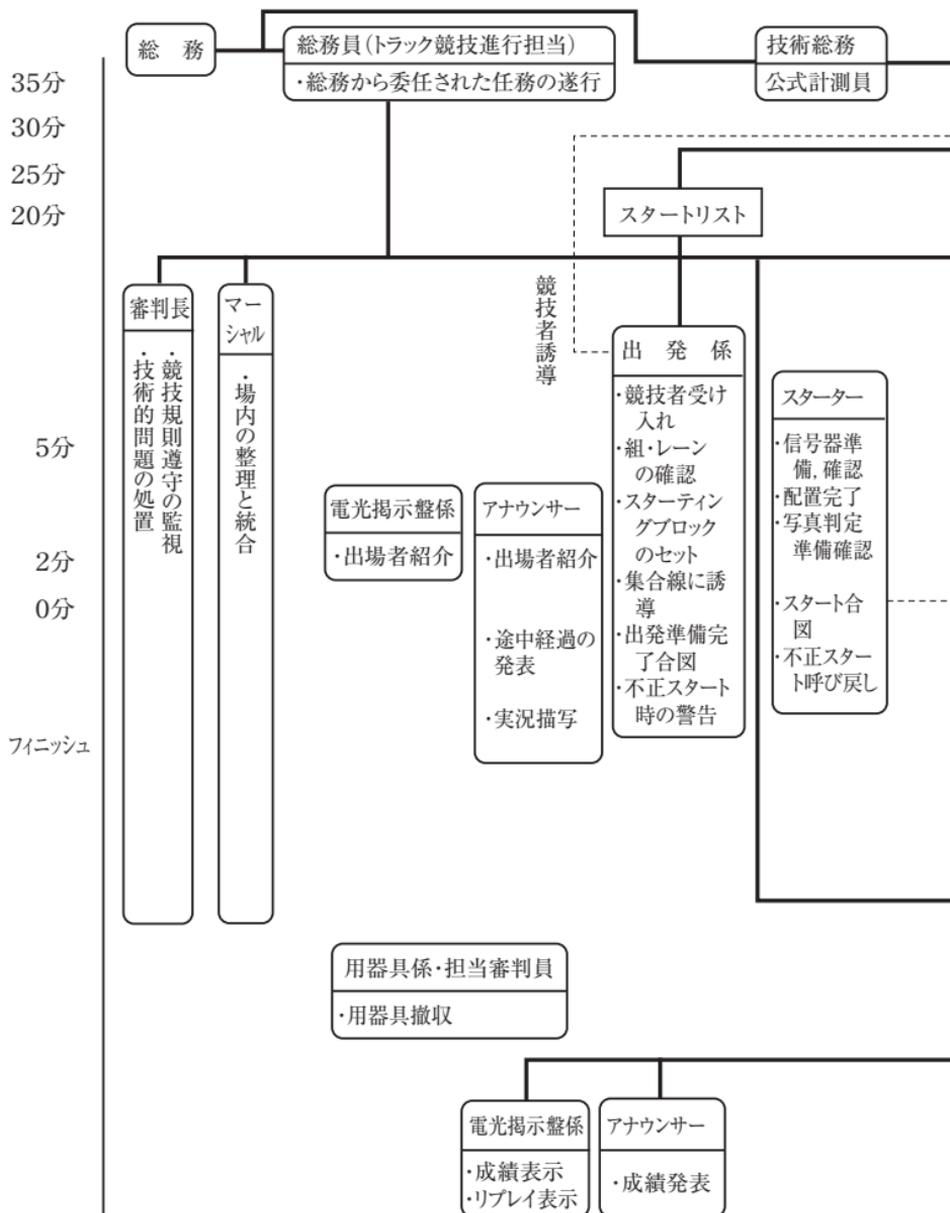
- ⑥ 競技者紹介の不十分（アナウンサー，電光掲示係）
- ⑦ スタート時の連絡不十分（スターター，決勝主任，写真判定員）
- ⑧ 途中計時時間発表の拙劣（アナウンサー）
- ⑨ 計時・順位判定遅延（計時員，決勝審判員，写真判定員，審判長）
- ⑩ 速報発表遅延（計時員，決勝審判員，写真判定員，アナウンサー）
- ⑪ 成績発表の遅延（計時員，決勝審判員，写真判定員，記録・情報処理員，総務，審判長，番組編成員，アナウンサー）
- ⑫ 雨天荒天による遅延（審判員の雨天服装，器具器材の防雨態勢）
- ⑬ 競技者に対する練習の不徹底（跳躍審判員，投てき審判員）
- ⑭ 競技時間，順序の指示不十分（フィールド審判員の呼び出し担当）
- ⑮ 開始合図の不徹底（跳躍審判員，投てき審判員）
- ⑯ 競技役員の判定，計測動作の緩慢（跳躍審判員，投てき審判員）
- ⑰ 記録表示方法の不十分（跳躍審判員，投てき審判員）
- ⑱ TOP8 移行の遅延（重複記録確認）（フィールド審判員の記録担当，アナウンサー）
- ⑲ 競技日程作成時の考慮・検証不足（大会主催者）
- ⑳ システムトラブル

# 競技の進行と総務系統競技役員間の連携





# トラック競技の進行と競技役員間の連携



用器具係

・用器具準備・配置完了・引き渡し

競技者係

・競技者招集  
 ・出場者確認・規定条件確認  
 ・スタートリスト作成・配布

誤作動時の連絡

写真判定員	計時員	決勝審判員	監察員	周回記録員	風力計測員
・準備完了 ・判定装置動作確認 ・着順・計時判定 ・写真判定記録表作成 ・1着速報タイム表示	・配置完了 ・準備完了 ・計時(途中) (フィニッシュ) ・計時記録表作成	・配置完了 ・準備完了 ・着順判定 ・順位判定表作成	・配置完了 ・準備完了 ・協議状況の監察 ・違反時黄旗 ・監察記録用紙作成	・配置完了 ・準備完了 ・周回記録 ・周回記録表作成	・配置完了 ・準備完了 ・風力計測 ・風力記録表作成
写真判定記録用紙	計時記録判定表	順位記録判定表	監察記録用紙	周回記録表	種目別風力記録表

裁定

記録・情報処理員

・競技成績整理まとめ

成績記録用紙

審判長

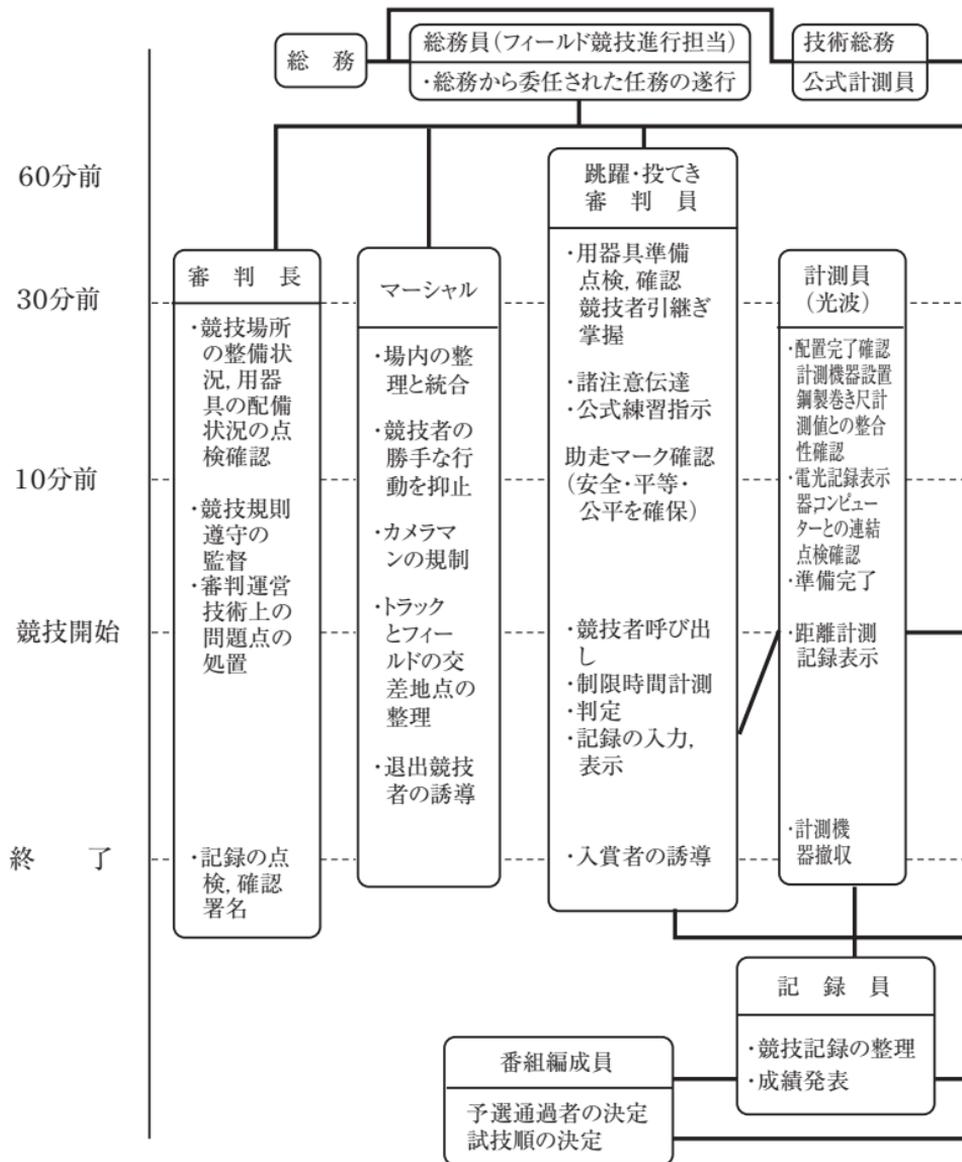
ジュリー

番組編成員

・次ラウンド通過者の決定  
 ・次ラウンドの組合せ決定

番組編成表

# フィールド競技の進行と競技役員間の連携



用器具係

・用器具準備・引き渡し・配置完了

競技者係

・競技者点呼  
確認  
・衣類, 持ち物  
商標確認  
  
・スパイク  
シューズ点検  
競技者誘導

風力計  
測員

・配備完了  
確認  
・計測機器  
設置作動  
性点検確  
認

・準備完了

・風力  
計測

・風力  
記録表  
作成

アナウンサー

・競技者紹介  
  
・途中経過  
発表  
(好記録, 高さ  
が変わったと  
きなど)  
  
・トップ8  
紹介  
(順位の変動等  
状況の描写)  
  
・成績発表

電光掲示

・競技者  
紹介  
  
・新記録

用器具係・担当審判員

用器具撤収

電光掲示係

成績表示

# 総括進行表の例① (第94回日本陸上競技選手権大会進行表)

第2日目 6月11日(土) TV放映 NHK総合:16:00~18:00(予定) Live

時刻	開始時刻	競技種目等	ラウンド	人数	トラック競技順序										
					誘導時刻	競技紹介	スタンバイ	S				R		S	R
								予定時刻						実行時刻	
		(担当役員)			招集	アナ	出発	アナウンス							
14:00	14:00	女 800m 予選 (3-2+2)	1組		13:45	13:57	13:58	58	14:03	14:03	14:04				
	14:07	女 800m 予選 (3-2+2)	2組			—	14:05	05	10	10	11				
	14:14	女 800m 予選 (3-2+2)	3組			—	14:12	12	17	17	18				
	14:19	プラス2 決勝リスト発表													
	14:25	男 800m 予選 (3-2+2)	1組		14:10	14:22	14:23	23	28	28	29				
14:30	14:32	男 800m 予選 (3-2+2)	2組			—	14:30	30	35	35	36				
	14:39	男 800m 予選 (3-2+2)	3組			—	14:37	37	42	42	43				
	14:44	プラス2 決勝リスト発表													
	15:00	男 110mH 準決 (2-4)	1組	8	14:45	14:57	14:58	58	15:01	15:01	15:02				
	15:06	男 110mH 準決 (2-4)	2組	8		—	15:04	04	07	07	08				
	15:10	決勝リスト 発表													
	15:25	女 100m準決 (2-4)	1組	8	15:10	15:22	15:23	23	26	26	27				
15:30	15:31	女 100m準決 (2-4)	2組	8		—	15:29	29	32	32	33				
	15:35	決勝リスト 発表													
15:45	15:45	女 3000SC 決勝		16	15:30	15:41	15:42	42	57	57	59				
16:00															
16:05															
	16:15	男 3000SC 決勝		9	16:00	16:12	16:13	13	25	25	26				
16:30															
	16:35	女 1500m 決勝		12	16:20	16:32	16:33	33	40	40	41				
	16:45	男 1500m 決勝		12	16:30	16:42	16:43	43	50	50	51				
	16:55	女 400m 決勝		8	16:40	16:52	16:53	53	56	56	57				
17:00															
	17:10	男 400mH 決勝		8	16:55	17:07	17:08	08	11	11	12				
	17:25	男 110mH 決勝		8	17:10	17:22	17:23	23	26	26	27				
17:30															
	17:35	男 200m 決勝		8	17:20	17:32	17:33	33	36	36	37				
	17:50	女 100m 決勝		8	17:35	17:47	17:48	48	51	51	52				
18:00															
18:30															



総括進行表の例② (第94回日本陸上競技選手権大会進行表)

第3日目 6月12日(日)

TV放映 NHK総合:16:00~18:00(予定) Live

時刻	開始時刻	競技種目等	ラウンド	人数	トラック競技			S	映	速	R				
					誘導時刻	競技紹介	スタンプハイ					予定時刻			
												招集	アナ	出発	アナウンス
14:30															
	14:45	女 100mH 準決 (2-4)	1組	8	14:30	14:42	14:43	43	46	46	47				
	14:51	女 100mH 準決 (2-4)	2組	8		14:48	14:49	49	52	52	53				
	14:55	女 100mH 決勝リスト発表													
15:00															
	15:15	男 100m 準決 (2-4)	1組	8	15:00	15:12	15:13	13	16	16	17				
	15:21	男 100m 準決 (2-4)	2組	8		15:18	15:19	19	22	22	23				
	15:25	男 100m 決勝リスト発表													
15:30	15:30	女 400mH 決勝	1組	8	15:15	15:27	15:28	28	32	32	33				
	15:45	女 800m 決勝	1組	8	15:30	15:42	15:43	43	48	48	49				
16:00															
	16:05	男 800m 決勝	1組	8	15:50	16:02	16:03	03	08	08	09				
	16:15	男 400m 決勝	1組	8	16:00	16:12	16:13	13	16	16	17				
16:30	16:30	女 200m 決勝	1組	8	16:15	16:27	16:28	28	31	31	32				
	16:45	女 100mH 決勝	1組	8	16:30	16:42	16:43	43	46	46	47				
17:00	17:00	女 5000m 決勝	1組	21	16:45	16:55	16:57	57	17:18	17:18	17:20				
		スタート後紹介				16:58	16:59	17:00	17:18	17:18	17:20				
	17:25	男 5000m 決勝	1組	44	17:10	17:20	17:21	21	41	41	46				
17:30		スタート後紹介				17:23	17:24	25	41	41	46				
	17:50	男 100m 決勝	1組	8	17:35	17:47	17:48	48	51	51	52				
18:00															
18:30															
19:00															

S: スタートリスト紹介, 映: リプレイ, 速: 記録速報, R: 結果報告, Eは掲示終了, 数字は発表時間

S	R	表彰	大型掲示			時刻	フィールド競技					表彰
			S	R	E		跳躍		投てき			
実行時刻		表彰	大型掲示版			人数	男走高跳	女走幅跳	女円盤投	男砲丸投	男やり投	
						14:30	22	19	16	13	22	30女:円盤投
									30 表彰			
						14:50		練習開始				招集完了
						15:00				00 表彰	練習開始	00男:砲丸投
						15:15		紹介				
							13	17				
							19	23				
						15:30						紹介
												競技開始
						16:18	28	33				
						16:22	43	49				
						16:00						
						16:48	03	09				
						16:51	13	17				18女:400mH
												22女:800m
						16:30						
						18:15	28	32				
						17:30	43	47				48男:800m
						16:50						51男:400m
						17:00						
						17:20						競技終了
												結果発表
						18:11	21	46				
							25	46				30女:100mH
						18:25	48	52				43女:5000m
						18:00	00 表彰	03 表彰				00男:走高跳 03女:走幅跳
												06 表彰
												06男:やり投
												11男:5000m
												15女:200m
						18:30						25男:100m
						19:00						

# フィールド競技進行表の例① (第94回日本陸上競技選手権大会跳躍進行表)

第3日目 平成23年6月12日(日)

TV放映 NHK総合 16:00 ~ 18:00 (生中継)

競技順序		競技場所	参加人数	進行項目	準備			備			競技開始	1回目開始
開始時刻	競技種目				諸準備完了	審判員配置完了	招集完了	競技者到着	練習開始	競技紹介選手紹介		
14:30	男 走高跳	B	22	予定時刻	13:30	13:40	13:50	13:52	13:55	14:25	14:30	2m05
				実施時刻								
				見有望選手	日本記録 2m33(2006:90回日本選手権) 鹿嶋直幸(富士通)			鹿嶋直幸 PB 2m33 3連覇を含み5回優勝 高雲広海(日立ICT)PB 2m24 前年度優勝				
					大会記録:同上			戸邊 直人(筑波大)PB 2m24 土屋 光(ソニー) PB 2m25 92回大会優勝				
15:15	女 走幅跳	メイン	19	予定時刻	14:15	14:25	14:35	14:40	14:45	15:10	15:15	15:15
				実施時刻								
				見有望選手	日本記録 6m86(2006:国際GP大阪) 池田(現・井村)久美子(スズキ)			梶見 映智子(九重工)PB 6m65 山 紗英子(山口TFC)PB 6m56				
					大会記録7m03(74回) R.レズナヤ(ソ連) 日本人最高:6m82(85回)花園麻帆(ofc24)			井村(旧:池田)久美子(IDEAR) SB:6m54				

# フィールド競技進行表の例② (第94回日本陸上競技選手権大会投てき進行表)

第3日目 平成23年6月12日(日)

TV放映 NHK総合 16:00 ~ 18:00 (生中継)

競技順序		競技場所	参加人数	進行項目	準備			備			競技開始	1回目開始
開始時刻	競技種目				諸準備完了	審判員配置完了	招集完了	競技者到着	練習開始	競技紹介選手紹介		
12:30	女 円盤投	A	16	予定時刻	11:30	11:40	11:50	11:55	12:00	12:25	12:30	12:30
				実施時刻								
				見有望選手	日本記録 58m62(2007:中部実業団) 室伏由佳(スズキ)			室伏由佳:9連覇中(全11回優勝)				
					大会記録59m94(75回)関春風(中国) 日本人最高 56m36(88回) 室伏由佳(スズキ)							
13:00	男 砲丸投	B	13	予定時刻	12:00	12:10	12:20	12:23	12:25	12:55	13:00	13:00
				実施時刻								
				見有望選手	日本記録 18m64(09:新潟国体) 山田壮太郎(法大)			山田壮太郎(富士通)PB 18m64 畑瀬 聡(群馬総合)PB 18m56				
					大会記録 18m56(90回) 畑瀬 聡(総合)PB			村川洋平(スズキ浜松AC)PB 18m43 大橋 忠司(チームスズキ)PB 17m94				
15:30	男 やり投	A	22	予定時刻	14:30	14:40	14:50	14:55	15:00	15:25	15:30	15:30
				実施時刻								
				見有望選手	日本記録 87m60(1989:国際GP) 溝口和洋(コートウイ)			村上 幸史(スズキ浜松AC)PB 83m15 11連覇中				
					大会記録 81m70(73回) 溝口和洋(コートウイ)			デーモン元氣(早大)PB 79m10 井 謙(七十七銀行)PB 78m86				

競			技						結 果		備考
2回目 開始	3回目 開始	3回目 終了	トップ8 発表	4回目 開始	5回目 開始	6回目 開始	競技終了	競 技 所要時間	結果発表	表彰開始	
2m10	2m15	2m19	2m22	2m25	2m28					18:00	
15:35	15:55	16:15	16:18	16:20	16:30	16:40	16:50	1' 35	16:55	18:03	

競			技						結 果		備考
2回目 開始	3回目 開始	3回目 終了	トップ8 発表	4回目 開始	5回目 開始	6回目 開始	競技終了	競 技 所要時間	結果発表	表彰開始	
12:45	13:00	13:15	13:18	13:20	13:30	13:40	13:50	1' 20	13:55	14:30	
13:15	13:30	13:45	13:48	13:50	14:00	14:10	14:20	1' 20	14:25	15:00	
15:55	16:20	16:45	16:48	16:50	17:00	17:10	17:20	1' 50	17:25	18:06	

## インカム配置の例（東京国体）

MMM		有線				有線・無線				トランシーバー	PHS
		1	2	3	4	5	6	7	8		
1	総務統括								SS-8		1
2	技術総務								SS-8		1
3	ジュリー（上訴）								SS-8		
4	トラック審判長					BR-5					
5	跳躍審判長									1ch	
6	投擲審判長									2ch	
7	進行統括								BP-8		
8	トラック進行			SS-3		SS-5		SS-7			
9	フィールド進行	SS-1	SS-2								
10	表彰進行				SS-4						
11	フィールド 1・跳躍	BP-1									
12	フィールド 2・跳躍	BP-1								1ch	
13	フィールド 3・跳躍	BP-1									
14	フィールド 4・投擲		BP-2								
15	フィールド 5・投擲		BP-2							2ch	
16	写真判定					SS-5	BP-6				
17	スター・リコー						BR-6				
18	スター・リコー						BR-6				
19	監察主任					SS-5	BP-6				
20	監察 1					BR-5					
21	監察 2					BR-5					
22	監察 3					BR-5				3ch × 6	
23	監察 4					BR-5					
24	出発 1							BR-7			
25	出発 2							BR-7			
26	競技者 1（トラック）			BP-3							
27	競技者 2（フィールド）			BP-3							
28	マニアル（場内指令）									4ch × 6	1
29	記録室					SS-5		SS-8			
30	周回記録					BP-6					
31	ミックスゾーン										1
32	用器具 1							BP-8			
33	用器具 2							BP-8		5ch × 3	
34	表彰				BP-4						
35	ドーピング室										
36	練習所										2
37	駐車場										1

	使用数	残	合計
BP（フィールドバック）	14	1	15
SS（スピーカーステーション）	13	2	15
BR（アレスト）・無線インカム	9	7	16
PHS	7	0	7
トランシーバー	19		

# 技術総務

## 1 任務

技術総務は、競技会ディレクターまたは総務の権限の下で行動する。任務については、第123条に記載されている。

国内競技会では技術総務の任務の一部を公式計測員に任せている。公式計測員は、2018年の国際陸連の競技規則から削除されている。国際競技会では、技術総務の下に複数の担当をおき、チームで任務にあたっている違いがある。(公式計測員にさせている任務も行っている。)

- (1) トラック、助走路、サークル、円弧、角度、フィールド競技の着地場所が競技規則に合致しているかを確認する。
- (2) 用器具が競技規則に合致しているかを確認する。国内競技会では、代わって公式計測員が投てき用器具の確認を行い、技術総務が報告を受ける。
- (3) 技術代表によって承認された競技会の技術的・組織的計画に従って用器具が準備され、設置・撤収することを確認する。
- (4) 競技場所の設備や用器具等が前述の計画に従っていることを確認する。
- (5) 第187条2に従って、競技会に許可された個人の投てき用具を点検し、マークを付ける。国内競技会では代わって公式計測員が行い、技術総務に報告をする。「公式計測員」参照  
国際競技会では技術総務の担当が点検し、マークを付けていることを確認する。
- (6) 第139条(公式計測員)に従って、競技会前から必要な証明書を受け取る。国内競技会では国内の公認競技場は、公認競技会を開催し得る十分な精度のある適切な施設であると認定しているため、その確認の報告を受ける。国際競技会はIAAF認証競技場で行われるので、その報告書を閲覧できるようにしておく。
- (7) 技術総務の直接指揮下に、公式計測員、用器具係(競技場整備係)をおき、用器具係に各競技に必要な用器具を整備させ、

開始前に配置，終了後に撤収させる。

- (8) 投てき競技において，世界記録，エリア記録，日本記録，U20・U18日本記録，室内日本記録，室内U20・U18日本記録が達成された場合には公式計測員に指示し再検査を実施しなければならない。国際競技会では技術総務の担当が実施する。
- (9) マラソンコース，競歩コースが公認計測されたとおり正しく整備されているか確認する。スタートライン，コース表示板，km表示板，中間点，折り返し点標識，関門の器具・機材，競技に支障となる個所のコーン等の位置，給水・給食の設置等を確認する責任を負う。公式計測員が配置されている時には，連携して行う。

## 2 競技会前の準備と留意点

- (1) 使用される競技場が，公認競技会として開催されるのに十分であるかどうか事前に調査をする。競技の実施が可能であるかどうかを公式計測員に計測させ報告を求める。もし，不都合なものがあれば，競技場管理者と折衝して整備を依頼する。
- (2) 競技場の機器，機材が使用するに可能な状態かどうか，用器具係に調査検討させ，不十分なものについて競技場管理者に整備を依頼する。
- (3) 常備用器具については管理者の了解を得て用器具係に検査させ，使用可能なものとその他のものを区別する。また競技会の規模に応じて，その員数を決定し，不足の場合には補充の計画をする。
- (4) 競技実施種目および競技開始時刻が決定したら，競技場管理者にできる限り早く連絡し，用器具の借用と諸準備を依頼する。
- (5) 出場する競技者の記録から投てきの距離ラインを決定する。
- (6) 用器具係，競技場整備係から，プログラムに基づく運営進行表を提出させて，競技の円滑な進行を図る。
- (7) 競技会に許可された個人の投てき用具の持ち込方法，返却方法をテクニカル・インフォメーション・センター（TIC），公式計測員と決定する。
- (8) 道路競技では，距離ポイントを確認すると共に使用する用具

の手配，確認をする。

### 3 競技開始前の準備と留意点

- (1) 縁石，スタートライン，フィニッシュライン，テイク・オーバー・ゾーン，助走路の状況，投てき場所を角度線，投てきの距離ライン等を確認する。
- (2) 跳躍場所をあらかじめ決定する。
- (3) 任命された競技役員に競技場の諸施設，用器具等の準備状況を説明する。そのためには現地の報告に頼らず準備段階で視察・確認しておくべきである。
- (3) 用器具は，用器具係主任に引き渡す。
- (4) 特に雨天時における準備態勢や危険防止の措置（ハンマー投の防止ネット，危険エリアへの立ち入り禁止措置）などの用意も必要である。走路，助走路の水分除去方法も，用器具係を指揮して措置する。
- (5) 公式計測員，用器具係から，それぞれの分担事項について報告を受け，正しい状態で競技が実施できることを確認し，その旨を各審判長と総務に連絡する。
- (6) 道路競技では，競技開始前に技術総務車で出発して，競技に支障となる個所のコーン等の位置，スタートライン，フィニッシュライン，折り返し点，中間点，5km毎のポイント，給水・給食の設置等のポイント確認をする。必ず，ラインが敷けていることを確認する。

### 4 競技中，競技終了後の留意点

- (1) 競技進行中は全般的に観察し，たえず審判長や総務と協議を重ねて競技の円滑な進行を図る。
- (2) 競技実施場所を変更する時には，審判長や競技会ディレクター，総務と連携し対応する。ただし，風の強さや風向きの変化による競技実施場所を変更するのに十分な条件ではないことを覚えておく必要がある。
- (3) 記録が達成された場合の投てき器具の検査を実施できるよう準備をする。

- (4) 使用した競技場の機器，機材，用器具が正しく返却されているか確認する。また，不具合や故障，破損などの報告を受け，競技場管理者に報告し，対応を協議する。

# ジュリー（Jury：上訴審判員）

## 1 任務

ジュリーは第146条に規定された抗議について裁定し、また競技会の進行中に生じた問題のうち、その決定を付託された事項について裁定することを基本的な任務とする。その決定は最終的なものである。しかしながら、新しい事実が提出され、それが規則に適合していれば、再審議してもよい。（第146条9）

## 2 配置

全国的な競技会および国内の大規模な競技会では、通常3人または5人からなるジュリーを任命（主任1人を含む）する。国内競技大会では、ジュリーの秘書は任命しない。

オリンピック、世界選手権大会などでは、大会の規定でIAAF評議員が毎日7人ずつ交代でつくことになっている。これにならって、本連盟が主催する国内大会では、主管団体選出のジュリーに加えて陸連理事からも交代で選出され任務にあたることになっている。

## 3 実施要領（抗議と上訴の手続きと裁定について）

### ① 競技者の資格に関する抗議の手続きと裁定

加盟団体（都道府県陸上競技協会）あるいは加入団体（クラブ、学校、職域）の責任者より、文書をもって、競技会の開始前に大会総務を通してジュリーになされなければならない。

### ② 競技の結果または行為に関する質問・抗議の手続きと裁定

(a) 担当総務員は、競技者又は代理人による質問・口頭による抗議の受付時間やその内容を記録する。

・正式発表後30分以内か、同一日に次のラウンドがある場合には15分以内まで受け付ける。

(b) 審判長に判定理由を聞き、記録し、当該者に口頭で伝える。

注) 黄旗などの措置があった場合は、その内容を事前に把握しておく迅速に対応できる。

注) 国際競技大会では第146条4,5が適用される。日本で

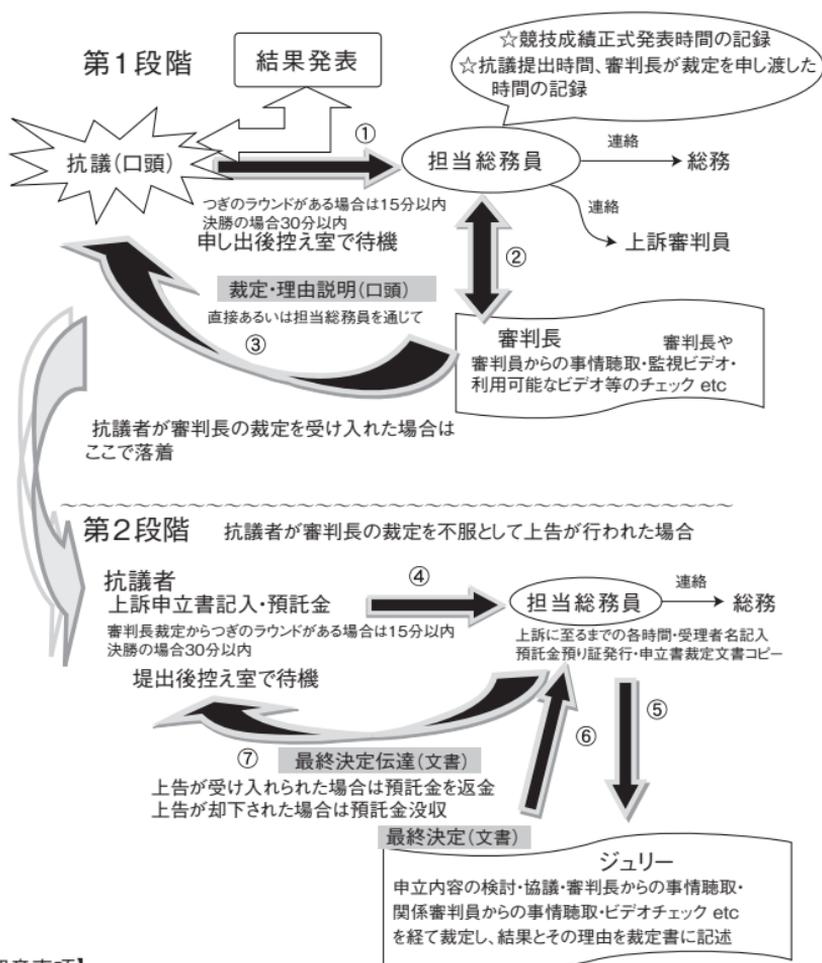
は〔国際〕扱いである。

- (c) 当該者が担当総務員の回答に納得できない場合、当該者は「抗議」をおこない、審判長が当該者に判定理由を口頭で直接説明し、裁定する。
- ・担当総務員はそれまでの対応状況や説明を実施した時刻を記録する。
  - ・担当総務員から Jury に状況を連絡する。
  - ・抗議に部外者が介入すると、冷静な対応が阻害されるので、関係者以外の入室ができない抗議者控室を必ず設置する。
- (d) 当該者が審判長の裁定に納得できない場合、競技者に代わってそのチームの責任ある役員がさらに Jury に「上告」することができる。この場合、審判長裁定後30分以内（同一日に次のラウンドがある場合には15分以内）に、担当総務員に「上訴申立書」を提出し、現金10,000円を預託する。担当総務員は預託金預り証を発行する。担当総務員は審判長を経て、Jury に回付する。
- ・上訴申立書を提出した責任ある役員（抗議者）は、裁定を待つ間、抗議者控室で待機する。
  - ・上訴申立書のひな型は次ページおよび本連盟 HP を参照のこと。
- (e) Jury は、申立書に基づき関係役員より事情聴取をおこない、必要に応じて録画されたビデオ、証拠物件や関係書類等を確認し、Jury で協議して、裁定書を作成する。担当総務員は裁定書の内容を抗議者に伝達する。

#### 4 留意事項

- ① 競技中の Jury の席は競技場全体が見通せるような高い場所に設置すると共に、競技本部と連絡するための通信機器を準備する。
- ② 抗議と上訴の手続きについては、競技注意事項に明記し、監督会議などで説明しておくことよ。
- ③ 抗議者控室は、可能な限り個室を用意し、落ち着ける環境を確保する。

## 5 抗議提出から最終決定までの流れ



### 【留意事項】

- ☆ 対応は常に冷静に、言葉遣いは丁寧に
- ☆ 部外者は絶対に口出ししない
- ☆ 裁定や決定は簡潔に示す
- ☆ ジュリーの協議で意見が分かれても、最終決定は総意とする
- ☆ 最終決定の伝達は、ジュリーが直接申し渡すより抗議担当総務員が素々行うのが良い

## 6 上訴申立書と記入例

2016.02改訂(陸連No.34)

# 上 訴 申 立 書

所 属 \_\_\_\_\_ (加盟団体名 \_\_\_\_\_) No. \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

陸上競技規則第146条により、金10,000円を預託して、下記の通り上訴の申し立てをいたします。ただし本申立が却下された場合はこの預託金が没収されることを了承いたします。

## 記

競技会名 \_\_\_\_\_

年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

種 目 \_\_\_\_\_

競技者氏名 No. \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

上訴理由：

以下については、競技役員のための記入とする。

競技成績発表時刻	_____ 時 _____ 分	受理者氏名 _____
口頭による抗議受理時刻	_____ 時 _____ 分	_____
審判長が裁定した時刻	_____ 時 _____ 分	_____
上訴申立書の受理時刻	_____ 時 _____ 分	受理者氏名 _____

## 裁 定 書

裁定者氏名(ジュリー代表) \_\_\_\_\_

裁定結果 \_\_\_\_\_

裁定理由

----- キ ----- リ ----- ト ----- リ -----

## 領 収 書

\_\_\_\_\_ 殿 No. \_\_\_\_\_  
年 月 日 時 分

金10,000円也

但 上訴申立金として  
上記正に領収いたしました

領収者名 \_\_\_\_\_ 

※上訴が受理された場合は本書と引き替えに上訴申立金を返却いたします。本書を紛失された場合は返金できません。

## 上 訴 申 立 書

所 属 〇〇 クラブ (加盟団体名 〇〇 陸協) No. \_\_\_\_\_氏 名 □□ □□

陸上競技規則第146条により、金10,000円を預託して、下記の通り上訴の申し立てをいたします。ただし本申立が却下された場合はこの預託金が没収されることを了承いたします。

## 記

競技会名 〇〇 大会年月日 2017 年 × 月 ×× 日種 目 4 x 400 mR 準決勝 第2組競技者氏名 No. 147 氏名 △△ 〇〇

## 上訴理由:

4 x 400 mR の第2走者△△が、第2曲走路の出口から直走路付近を先頭で走行中、外側から追い抜こうとした××チームの競技者が、必要以上に肩や肘を入れて来たために、△△のバトンに当たって、バトンが手から落ちてしまった。

以下については、競技役員のみでの記入とする。

競技成績発表時刻	<u>12時 13分</u>	
口頭による抗議受理時刻	<u>12時 25分</u>	受理者氏名 <u>▽▽ ▽▽</u>
審判長が裁定した時刻	<u>12時 35分</u>	
上訴申立書の受理時刻	<u>12時 40分</u>	受理者氏名 <u>◇◇ ◇◇</u>

## 裁 定 書

裁定者氏名(ジュリー代表) 陸連 太郎裁定結果 上訴申し立ては却下する

## 裁定理由

監察員の報告やビデオ記録によると、追い抜いていった外側の競技者は、故意に肩や肘を入れて△△競技者の走行を妨害したとは認められない。  
よって審判長の裁定を支持する。

## 領 収 書

----- キ ----- リ ----- ト ----- リ -----  
□□ □□ 殿 No. \_\_\_\_\_  
 2017年 × 月 ××日 12時 40分

金10,000円也但 上訴申立金として  
上記正に領収いたしました領収者名 担当総務員 ◇◇ ◇◇ 印

※上訴が受理された場合は本書と引き替えに上訴申立金を返却いたします。本書を紛失された場合は返金できません。

# JTO (Japan Technical Officials)

## 日本陸連技術委員

国際陸上競技連盟 (IAAF) では、オリンピックや世界選手権などの主要競技会に於いて、技術代表 (Technical Delegates : TD) および国際技術委員 (International Technical Officials : ITOs) をおいている。この ITOs は、可能な限り競技が進行する各種目にそれぞれ 1 人、ITO 主任によって指名され担当することになる。

2006 年度から本連盟が主催・共催する競技会においては原則として JTOs (Japan Technical Officials) をおいている。この JTOs は総務の直下に位置づけられ、ITOs に準じた任務を行う。

### 1 任務 (ITO: 第 115 条)

〔国際〕 1. 技術代表は ITO が任命されている競技会で、事前に主催団体によって ITO 主任が任命されていなければ、ITOsの中から主任を任命しなければならない。

ITO 主任は技術代表と協力して可能な限り実施される各種目にそれぞれ 1 人の ITO を任命しなければならない。ITOs は担当する各種目の審判長を務める。

2. クロスカントリー競走・道路競走・マウンテンレース・トレイルランニングにおいて ITOs が指名されたら、ITOs は主催者に必要な支援を行う。ITOs は自身に割り当てられた競技種目実施中ずっと競技場所になくしてはならない。ITOs は競技が IAAF 競技規則と競技注意事項等ならびに技術代表の最終的決定に従って行われていることを確認する。ITOs は割り当てられた各種目の審判長となる。

ITOs に関する情報は IAAF のウェブサイトから入手可能な The IAAF ITO Guidelines により提供される。

〔国内〕 本連盟が主催する競技会には原則として JTOs (Japan Technical Officials) をおく。JTOs は総務の直下に位置づけられて、IAAF の ITOs に準じた任務を行う。

JTO はその種目の審判長に必要な支援を行わなければならない

い。JTOは、自身に割り当てられた競技種目実施中ずっと競技場所にいなくてはならない。JTOは競技が本連盟競技規則と競技会規定ならびに総務の最終的決定に従って行われていることを確認しなければならない。

問題が起こった時や意見を述べる必要があると感じる事実を見つけた場合は、最初の行動としては審判長に注意を促し、必要に応じて何をすべきかの助言をする。

もし助言が受諾されず、このことが競技規則や競技注意事項あるいは総務の最終決定に明らかに違反している時はJTOが決定を下すことができる。それでも問題が解決しない場合は総務に付託する。

フィールド競技終了時にはJTOも記録用紙にも署名しなければならない。

〔注意〕JTOは、審判長が不在の時、当該審判員主任とやり取りをする。

リレー競走（招待競技などではなく、正式プログラムとしての競技）が行われる場合には、JTOは各テイク・オーバー・ゾーンの監察も行うこととしている。異常を監察した場合には各コーナー主任を通じて黄旗を掲げて審判長に連絡するか、JTOの専用無線を通じて審判長にビデオ記録を確認してもらうことがある。後者の場合、違反が確認されれば黄旗が揚がることなく審判長により失格の判定が下されることもある。

## 2 陣容

2018年末現在57人が有資格者と登録され、JTOsとして本連盟主催・共催大会、後援大会などで各種支援を行なっている。原則としてTrack and Fieldの競技会では、審判長の補佐であるため競技運営委員会委員をLeaderとして含む複数名で構成している。さらに複数日にわたって開催される競技会では、負担軽減のために走・跳・投の各種目に複数名を配置できるようにしている。ロードレース・駅伝の派遣は原則1名である。

# JRWJs (Japan Race Walking Judges)

## 日本陸連競歩審判員

### 1 IRWJとJRWJ

国際競歩審判員 (IRWJ: International Race Walking Judge) は IAAF が育成認証する競歩審判員資格で、IAAF レベル (レベルⅢ) と Area レベル (レベルⅡ) がある。IAAF レベルは、Area レベルを取得後1年以上経過したのち、IAAF が行う INTERNATIONAL RACE WALKING JUDGES EVALUATION SEMINAR (IRWJES: ) で IAAF が定める基準に合格したものに与えられる資格である。Area レベルの資格は IAAF が定める基準に合格した NTO 資格取得者が、本連盟の推薦を受けて、RDC (Regional Development Center) で行われる IRWJES で IAAF が定める基準に合格したものに与えられる。IAAF レベル、Area レベル共に4年に一度更新試験が行われており、終身資格ではない。定年は70歳である。

JRWJ は本連盟が認証する資格で、本連盟の主催、共催競技会では必ず任命しなければならない (第230条2)。JRWJ 育成セミナー (JRWJ 規程第3条) では IRWJES に準じて試験を行い、合格者を JRWJ として認証しており、その判定技能は国際レベルである。JRWJ には上級資格として S 級があり、IRWJ と本連盟が定めた試験に合格したものに与えられる (JRWJ 制度施行細則第7条)。なお、JRWJ は全国各地でその判定技能や競歩競技の運営方法について普及する役目も担っているので、競歩競技会ではこれらの JRWJ を活用していただきたい。

### 2 JRWJの競技会での任務

JRWJ は、国際陸上競技連盟 (IAAF) ならびに本連盟が主催、共催、後援あるいは所管する競技会において第230条に基づき競歩審判員の任務を行う。JRWJ は主管陸協の競技役員と共に協調して任務を遂行する。(JRWJ 規程第1条)

### 3 JRWJの派遣基準

本連盟が主催共催する競技会へのJRWJの派遣は、開催される会場の地域性を勘案して競技運営委員長が決定し、委嘱する。それ以外の競技会への派遣は主催者が本連盟に派遣申請し、本連盟が審査したうえで派遣を決定する(第230条4a〔国内〕)。

### 4 S級 JRWJ

JRWJで、IAAFが行うRWJ ECS (Race Walking Judges Education and Certification System)でLevel IIまたはLevel IIIの資格を得た者及びJRWJの有資格者で本連盟が行う試験で本連盟が定める基準に達した者(JRWJ制度施行細則第7条)

### 5 JRWJの報告義務

本連盟より競技会に派遣されたJRWJは任務完了後、2週間以内に報告書を本連盟に提出しなければならない。(JRWJ制度施行細則第8条)

# テクニカル・インフォメーション・センター (TIC)

テクニカル・インフォメーション・センター (Technical Information Centre, TIC) は、大規模の国際競技大会 (オリンピック, 世界選手権, ユニバーシアード, アジア大会, アジア選手権など) において設置される部署である。国外ではロサンゼルス・オリンピック大会 (1984) で、国内では東京世界陸上競技選手権大会 (1991) で最初に設置された。

その後、広島アジア大会 (1994)、福岡ユニバーシアード大会 (1995)、前橋世界室内陸上競技選手権大会 (1999)、大阪東アジア大会 (2001)、福岡世界クロスカントリー選手権大会 (2006)、大阪世界陸上競技選手権大会 (2007) において設置され、有効に機能した。

## 1 任務

TICは、競技会全体が IAAF 規則に沿って円滑に運営されるように、各選手団 (監督・コーチ・選手) と競技役員 (組織委員会, IAAF 技術代表等) の間に立って、必要な情報を関係者に提供することが主な任務となる。

日本国内で開催される全国レベルの競技会 (例えば、日本選手権大会) では、TICは主催者と競技者のコミュニケーションの (受付) 窓口として、2010年の日本陸上競技選手権大会で初めて設置された。競技場内の「競技者案内所 (TIC)」という名称で、「抗議の受付」「棄権届の受付」「持ち込み競技用具の受付」「賞状 (4~8位) の配布」「遺失物管理」「記録証明書受付」「棒高跳ポール (送付・受付) 輸送の手配」などを業務として担当した。

TICは、大会期間中のサポートもさることながら、業務内容を整理し事前準備をしっかりとこなうことが業務を滞りなく遂行することにつながる。とはいえ、特に大規模国際競技大会 (世界選手権等) のように TIC 業務を総合的に経験する機会は極めて限られるため、メンバーを早期に編成し、前広に準備に取り掛かることが肝要となる。

ここでは大規模国際大会での業務を想定して解説する。

## 2 配置

通常は選手村と競技場に配置され、選手村では選手団の入村から競技開始までの業務が、競技場では競技中の業務が多くなるなど、人数の配置には配慮が必要。

## 3 業務内容

両者の業務には多少の違いはあるが、主な業務内容は以下のとおり。

### (1) 入村前準備資料

事前に準備しておくべき主な資料：エントリーリスト（チーム別、種目別）、チーム別の選手村チェックイン・チェックアウト予定表、最終の競技日程、各種申請書類等（3. (9) 参照）。

### (2) 入村手続き

入村時配布資料：テクニカル・ガイドブック（または、チーム・マニュアル）、監督会議における質問票（監督会議前に TIC にて受け付け、監督会議で回答できるよう技術代表に渡す）、最終確認書（チーム・種目別）、リレー・オーダー用紙、上訴申立書、ナンバー・カード、監督会議入場用パス（通常は各国代表者 1～2名）、ピジョン・ボックスの鍵（ピジョン・ボックスがないこともある）等、必要な書類などを配布する。監督会議以降に入村するチーム（選手）もあるので、配布漏れ・連絡漏れを防ぐため、各選手団の入国（入村）、帰国・退村予定表をもとにチェックし（受領者のサインをもらっておくとよい）、代表者・アタッシェの連絡先も同時に把握しておく。

### (3) 監督会議（テクニカル・ミーティング）準備

会場内のレイアウトの確認（国名アルファベット順の座席配置など）、入場者のチェック、監督会議における質疑応答回答の準備（通常は技術代表が準備し会議の場で回答する）、同時通訳者への情報提供等。

### (4) ユニフォーム撮影

競技会では撮影されたユニフォームだけが着用できる。入村時

に各選手団の競技会用ユニフォームを撮影し、保存用メモリー（あるいはアルバム）に整理して技術代表、総務、表彰係、競技者係（召集所）に配布、TICでも保管する。撮影については以下の点を考慮する。

- ① 撮影漏れを防ぐため、入村受け付けからユニフォーム撮影までの導線の確保
- ② 撮影スペースの確保
- ③ デジタルカメラ、パソコン、カラープリンター、保存用メモリー（アルバム）、撮影用背景、ハンガー、留め具、商標判定用定規など必要用具・備品の準備
- ④ ユニフォームの商標やチーム・ロゴ等のチェック
- ⑤ 一度に多くが入村しても対応できるよう、入村手続き係と密な連絡をとり、迅速な撮影を心がける。
- ⑥ ユニフォームは全く同型のものでなくても、ランニングとレオタードなどで同じデザイン・配色でも可となることが多い。複数種類でも可のことがあるので、必要に応じ技術代表と確認をする。

(5) 最終確認（ファイナル・コンファメーション）の受け付け

最終出場者を確定させるため、当該種目の全エントリー競技者の最終確認書を受け付け技術代表に渡す。監督会議時および競技前日の指定時刻までに提出させることが多い。

競技期間中は選手村・競技場の両 TIC で受け付けるので、受付完了分を確実に記録し、両 TIC で共有、必要に応じ欠場届けも確認の上、未提出の場合は追い出しをかける。

特に監督会議終了時の提出は混雑を極めるため、余裕のあるスペースと、受付からチェック済コピーを返却するまでのスムーズな手順を確保したい。

(6) 情報提供

例：スタート・リスト、リザルト（それぞれ、男女などで色分けすることがある）、デイリー・プログラム、招集時刻、開会・閉会式案内、練習場案内（開閉門時間等）、バス時刻表、気象情報、総務や技術代表からの連絡事項から事務諸連絡まで必要な情報を掲示すると同時に、各選手団のピジョン・ボックスに投函する。

配布物が多いため、帰国した国のビジョン・ボックスを閉鎖する等の管理も必要。なお、最近はPCの活用で配布物が少なくなる傾向にある。

#### (7) 抗議・上訴の受け付け・対応（主に競技場 TIC）

競技に関する質問、抗議、上訴を受け付ける。受け付け時刻と公式記録発表時刻を確認・記録し、抗議・上訴として受付可能かを判断する。と同時に、次の対応に備えて関係部署（総務、審判長、技術代表、必要に応じて写真判定、ビデオ・ルーム等。また、上訴の場合はジュリーとも）と連絡を取る。たとえ口頭による簡単な質問や抗議であっても、規則上は、抗議の際の記録は必須とはなっていないものの、その内容を正確に記録しておく。

受け付けの際は個別スペースを確保し、飲み物を準備する等できるだけ落ちける環境を整備し冷静に対応する。必要に応じ専門の通訳者をつけ、回答者にはできるだけ文書でも正確に内容を伝達する。

上訴の場合は預託金を受領、預かり証を発行し、コピー、あるいは半券を保管する。ジュリーからの回答は掲示する。

#### (8) その他諸対応

上記以外に以下のような役割も担う。

##### ① 各種視察等の受付

スタジアム視察、マラソン・競歩コース視察、Warm-up meet, Starter's practice 等。

##### ② リレー・オーダー用紙の受け付け

受付時に、規則に則っているかを確認、チェック・リストで管理し、技術代表・記録情報に回す。

##### ③ ナンバー・カード紛失時の再発行

ブランクのナンバー・カード、各数字の型、マジック（赤黒等）、安全ピンをあらかじめ準備しておくといよい。リレーの国名略称の時もある。

##### ④ 記録証明書申請 / ナショナル・レコード時の必要書類発行の受け付け

証明書類への署名、リザルト写し、写真判定写し等、必要書類はその時々（国々）で異なるので、何が必要かを本人に確認

する必要がある。また、ナショナル・レコード時にはドーピング・テストが必要な場合もある。関係部署が多岐にわたる可能性があるため、整理の上、早めに連絡をとり準備する。

⑤ 有償ドーピング・テストの付添者への連絡・対応

国により、ナショナル・レコードにドーピング・テストが必要なことがある。その場合は DCO (Doping Control Officer) に連絡の上、対応を確認する。費用を TIC で受領することもあるため、その場合は、領収書発行なども担う。

⑥ 各種パスの管理

混成控室、フィールド競技のコーチ席、ドーピング・テストの付き添い、練習場への入場、競歩ドリンク・テーブルへの入場、翌日表彰の場合の待機場所 (例えば TIC 等) への入場パス等の管理と配布。パスごとに受付簿を作り、枚数制限がある場合は重複がないよう管理する。

⑦ 借り上げ投てき物の受理・返却

用器具倉庫で行うこともあるが、TIC が受け持つこともある。借り上げ用の書類を準備し、必ず写し (半券) を保管する。実際の検査は技術総務が行い、合格の場合、附番した「合格シール」を投てき物に貼り (あるいは、直に投てき物に記載)、どの投てき物が誰のものかを紐づけできるようにしておく。不合格のこともあるため、その際の本人への連絡方法も確立しておく。返却の際は、書類と半券を確認し、間違いのないように返却する。

⑧ 競技場持ち込み禁止物 (携帯型 MD・CD プレーヤー等) の保管・返却

通常、持ち込み禁止物は招集所で預かり、競技場 TIC で返却する。預かり品は封筒に入れるなど保管方法・場所を配慮の上、預かる際には受領書の写し (あるいは半券) を保管し、該当する選手に間違いずに返却する。

⑨ 競技運営上の選手団要望書の取り次ぎ

関係部署と確認の上、回答を掲示する、あるいはピジョン・ボックスに入れる。

⑩ マラソンのスペシャル・ドリンク用容器の預かり、ラベル配

布等

総務とも確認の上、受付時間を設定し保管用ボックス、ラベルの準備を行う。ラベルの記載、容器への貼り付けは、間違っていると問題となることがあるので、選手（代理人）に直接行ってもらう方がよい。

- ⑪ 競技場や練習会場への競技者やボールの輸送手段の案内
- ⑫ 参加証 (diploma) や記録証の受け渡し

参加証は総務、記録証は記録情報など、関係部署とすり合わせの上、TIC業務かどうかを事前に確認し、必要に応じて担う。ただ、TICでは印刷は行わずあくまで配布窓口業務に留まる。

#### (9) 主な申請用紙の一覧

欠場届、リレー・オーダー用紙、投てき物預かり証（＋半券）、個人持ち込み物預かり証（＋半券）、練習場許可申請、抗議受け付け用紙、上訴受け付け用紙（＋上訴預託金預かり証）、記録証明申請書、監督会議質問票、一般質問票、有償ドーピング依頼書（＋領収書）。大会ロゴ入で印刷できるとよい。

## 4 留意事項

- (1) 内容が多岐にわたるため、競技規則に精通することはもちろんのこと、ウォーム・アップからドーピング検査までの競技者の一連の動きや、他部署との連絡体制など競技会運営全体の流れを把握する。
- (2) 業務に漏れが出ないよう業務計画表（業務別、日程別チェック・リストなど）を作成する。
- (3) 日本陸連競技規則と IAAF 競技規則の相違点（国際適用が基準）を理解し、大会要項なども熟知する。
- (4) 情報に相違が起きないように、競技場 TIC と選手村 TIC とのホットラインを確立し、常時情報を 1ヶ所に集約し連絡ミスを防ぐ。
- (5) 各情報機器類（複合機、パソコンなど）、および必要文具を整備する。また、選手村 TIC と競技場 TIC、TIC と総務など必要部署とのやり取り等のための通信手段（トランシーバ、IP 電話、メール、インターネット環境など）や、チーム閲覧用の PC の確保も必要。

- (6) 各 TICに必要な言語の通訳者を確保する。また、通訳者は必ずしも陸上競技に精通しているわけではないので、その点にも配慮した運営が求められる。
- (7) 各国チームとの緊急連絡などに備えて、チーム・アタッシェ（各国チームに付く語学ボランティアなどの随行員）の具体的な仕事内容やその活動時刻、連絡先などを確認する。

# イベント・プレゼンテーション・ マネージャー (EPM)

## 1 イベントプレゼンテーションマネージャーの役割の具体例

イベントプレゼンテーションマネージャー (EPM) は、以下の様に広範囲かつ専門的な役割を担う。

- (1) 「イベントプレゼンテーション実施計画 (以下 EPプラン)」の策定

場内アナウンス、進行連携 (放送・表彰・タイムテーブル管理)、電光掲示盤、映像、スコアボード、場内音楽、各種プロモーション、場内リスク管理等を織り込んだ「プレゼンテーション実施計画」を作成し、主催者 (組織代表・技術代表) の承認を得る。

- (2) EPプランに基づく関係部署との連携確認と、事前打合せの実施

EPプランに沿って関係各部署と連携についての確認を行ない、それぞれの部署の準備状況について総務と協働して進捗管理を行う。

- (3) 競技進行についての準備

事前に分刻み進行表を作成し、競技会で起こり得る可能性のある事象についてあらかじめ検討し、解決策を準備する。

- (4) 競技会開催中の役割

競技会における進行・演出に関し総務から判断を委任され、EPプランと事前に策定した分刻み進行表に沿って競技会をコーディネートする。

## 2 観客が満足する競技会演出

競技場へ足を運び観戦している観客やテレビを通じて観戦している陸上競技ファンが満足し、競技者がベストパフォーマンスを披露できる競技会にするために特に留意すべき点は以下のとおりである。

- (1) 「常に何かが起こっている空間」の演出

競技会ではトラック・フィールドで複数の種目が同時に進行するが、競技進行の状況によってはごく稀に「何も行われていない」

状況が起こることがある。その様な状況は事前に策定する分刻み進行表である程度予測されるが、競技場で何も見るものがなく観客が沈黙している事がないように、タイムテーブルを事前に調整し、各種イベントやプロモーションを計画することが必要である。また、事前の予想や計画に反してその様な状況になった場合には、臨機応変に対応することが求められる。

## (2) 観客にとって分かりやすい競技会の演出

多種目が同時に展開する競技会において、観客が注目すべき場面は刻一刻と変化する。その様な状況下、「今注目の種目は何か」を正確に把握して選び、アナウンスなどでガイドして注目させるという役割が求められる。注目種目がフィールド競技の場合にはトラック競技の進行を一部留め置くという措置も選択する。

## (3) テレビ中継との連携

テレビ中継が生放送（ライブ）で行われている場合には、中継局のディレクター等と連携し、中継が円滑に行えるように協働する。テレビ中継を通じて競技を見ている陸上競技ファンへのサービスにも配慮する。中継局とは事前に策定する分刻み進行表などであらかじめ打合せを行っておくことで、円滑な進行と連携が可能になる。

中継局側の意向を踏まえつつも、競技規則の順守、全体のコントロールは EPM が行うという役割分担の明確化が重要である。

## 3 日本国内での運用

現在 EPM は〔国際〕扱いとされ、本連盟が指定した競技会にのみ任命される位置づけになっているが、実際はその任務の大部分を総務員（進行担当）が従来業務に加えた形で行っている。

また、最近の大規模競技会では、電光掲示盤などを活用した Live Result の表示や、音楽の効果的な活用などを企画し、推進している。

## 4 イベントプレゼンテーション実施計画で検討される事項

### (1) イベントプレゼンテーションの基本方針

① アナウンスの方針、トラック競技とフィールド競技のバランス

- ② アナウンサーの役割区分とその分担内容
- ③ 大型映像（スクリーン）映像方針と具体的な表示内容の決定
- ④ 音楽と音響効果
- ⑤ 役員相互の連携と連絡手段・方法
- (2) 選手プレゼンテーション
  - ① プレゼンテーションの原則
    - プレゼンテーションのタイミング・方法
    - 競技開始時間の定義
    - フィールド競技終了の定義とプレゼンテーションの方法
  - ② トラック種目のプレゼンテーション
    - 短距離種目，長距離種目，リレー種目それぞれの出場者紹介方法
    - ラウンド毎（予選，準決勝，決勝など）の出場者紹介方法
  - ③ フィールド種目のプレゼンテーション
    - 出場者紹介方法（競技開始前に全員か，トップ8の時か，など）
    - 紹介の際の並び方（図による明示）
- (3) 各ラウンドの時間尺
  - 種目紹介，出場者紹介の予定時間尺，ラウンド毎の違い（表にて明示）
- (4) 場内インタビュー
  - 場内インタビューのタイミング，インタビューの実施場所，実施種目，中継局や報道係との連携方法，表彰係との連携確認，予定所要時間
- (5) 表彰式
  - 表彰式の実施内容（入賞者数，タイミング，表彰方法など），想定所要時間尺，その他競技会で定める事項
  - ※ 式典表彰マニュアルにて定められている場合はその内容も考慮する
- (6) オープニング・エンディングイベント
  - オープニングイベントの役割，内容と時間尺，アナウンス要領，ハイライトシーン映像の手配，スポンサーなどのVTR
  - エンディングイベントの役割，ハイライトシーン，翌日の見どころなど

# アナウンサー

## 1 任務

アナウンサーの任務は第134条に記載されているが、これらに加えて、「見(魅)せる競技会」実現への重要な役割を担っている。

アナウンスのタイミングや言葉が競技者や観衆に大きな影響を与えるということを自覚して、事前準備を行い、マイクに向かう必要がある。

## 2 アナウンスする上での留意点

- (1) 紹介や発表に際しては、トラック競技のスタートやフィールド競技の試技に悪影響を及ぼさないように配慮する。
- (2) 成績発表は情報を入手(大型映像装置への表示を含む)したら、できるだけ早くわかりやすく発表する。また抗議があった場合に備え、発表時刻やアナウンサー名を記録する。
- (3) トラック種目の途中計時については、速やかにアナウンスできるようにする。また、1着の速報をどのような要領(フィニッシュ・タイマーを用いる、ライブ・リザルトを活用する等)でアナウンスするかについても関係者間で協議しておく。
- (4) フィールド競技については、一跳一投をアナウンスできるよう努力する。そのためにフィールド競技審判員と連携して、記録表示器を活用する、無線で情報を伝えてもらう、ワイヤレスマイクを使用し、競技場所でアナウンスする等の方法を検討する。
- (5) 大型映像装置(スクリーン)がある競技場では、文字や映像の表示に合わせてアナウンスすることを心がける。
- (6) PCを使用する競技会では、モニターを見ながらアナウンスできるようにする。
- (7) 競技規則を理解し、観衆にわかりやすく説明する。
  - (a) 第165条10,23,24 計時の単位
  - (b) 第165条3 途中計時
  - (c) 第166条3,4 予選の組合せ、レーンの決定
  - (d) 第162条6,7,8 不正スタート
  - (e) 第180条6 フィールド競技の試技順と試技

- (f) 第180条17                    フィールド競技の試技時間
- (g) 第167条, 第180条22 同成績
- (h) 第181条8                    順位
- (i) 第181条9                    ジャンプオフ
- (j) 第146条2                    抗議に関する時間
- (k) 第163条8,9,10,12        風力  
      第184条10,11,12, 第260条14
- (l) 第160条3,4, 第163条1,5,    トラック, レーン  
      第170条12,15
- (m) 第170条6,10                リレーのバトン受渡し, 編成

### 3 場内の統制に関するアナウンス

- (1) 競技開始前やウォームアップエリア開放時の注意(対競技者)
  - ① 事故防止の注意喚起
  - ② 使用レーンの制限
  - ③ 芝生への立ち入り制限・禁止
  - ④ 投てき練習の制限・禁止・注意
  - ⑤ 練習終了時刻
- (2) 競技上の注意(対競技者)
  - ① 時刻規正
  - ② 招集時刻・招集場所
  - ③ 持ち込み投てき器具の取り扱い
  - ④ ポールの受け取り・輸送方法
  - ⑤ 不正スタートの取り扱い
  - ⑥ フィールド競技における予選通過条件・予選通過標準記録
- (3) 全般的注意(対観衆)
  - ① 熱中症対策
  - ② 盗難防止対策・貴重品管理
  - ③ 迷惑撮影禁止・不審者警戒
  - ④ 応援マナー
  - ⑤ 場所取り禁止
  - ⑥ 緊急呼出(迷子)などへの対応
  - ⑦ 火災・地震などの災害時における避難誘導

#### 4 競技者紹介のアナウンス

競技者紹介のアナウンスは、トラック競技とフィールド競技で異なるが、事前にイベント・プレゼンテーション実施計画（EPプラン）などでその方法を明確化，統一化しておく。EPプランを作成しない競技会では，競技会開始前にアナウンサーをはじめとする関係者が同じ目線で共通認識を持つ。

##### (1) トラック競技

- ・競技開始時刻の基準は「号砲」なのか，「On your marks」なのか。

##### ① 予選

- ・レーン・バイ・レーン（個別紹介）か，欠場レーン・人数のみ紹介か。

##### ② 準決勝・決勝

- ・種目紹介（見どころ）→レーン・バイ・レーン→スタートの一連の流れを意識。

- ・フルネームか苗字のみに留めるか，所属の紹介方法，ナンバー紹介の有無。

- ・長距離種目の場合，出場者紹介はスタート前かスタート後か。

##### (2) フィールド競技

##### ① 予選

- ・ワン・バイ・ワン（個別紹介）か，欠場者・人数のみの紹介か。

- ・予選通過標準記録がある場合は，その記録を伝える。

##### ② 決勝

- ・種目紹介（見どころ）→ワン・バイ・ワン→競技開始の一連の流れを意識。

- ・フルネームか苗字のみに留めるか，所属の紹介方法，ナンバー紹介の有無。

- ・競技開始の「旗上げ」とアナウンスの同期をとってもよい。但し，アナウンスのタイミングのために，競技開始を遅らせない。

なお，種目紹介（見どころ）とレーン・バイ・レーン，ワン・バイ・ワンは連続して行なうことは必須ではなく，競技進行の状況を見ながら間をあけて行なっても構わない。

## 5 状況描写

### (1) トラック競技

- ① トラック偏重にならないよう、同時に進行しているフィールド競技にも留意。
- ② 短距離種目ではコメントを入れず、「見せる」ことに徹してもよい。  
何も言わない時間があることを恐れない。
- ③ 中長距離種目では、途中の通過タイムからフィニッシュタイムを予想、大会記録等の更新可能性がある場合は強調。

#### ④ 不正スタート発生時等の説明

出発係から状況を連絡してもらった上で、発生した事象（スタートがやり直しになる理由等）について、カードの提示に合わせて的確にコメントし、競技者や関係者、観衆に状況を伝える。カードの提示より早くコメントしない。

〈コメント例〉

- ・「〇レーン」が不正スタートと判定されたので失格となります。
  - ・ただ今のは不正スタートではありません。  
スタートの態勢に入るのが遅かったので、注意が与えられます。
- ⑤ スタート→描写→フィニッシュ→1着速報の一連の流れで話すことを意識。

### (2) フィールド競技

- ① トラック競技の進行状況にも留意し、試技毎に記録を紹介。競技者の準備状況とアナウンスのタイミングも考慮。
- ② 記録に応じて日本新、大会新、歴代〇位、自己ベスト、シーズンベスト等のコメントを随時挿入。
- ③ 現在の順位、トップとの差。  
同記録でも順位に差がつく（2番目の記録、試技数等）ことに注意。  
トップ8選出前では8位の記録（選手名は不要）。
- ④ 各ラウンド終了時点でのライブ・リザルト表示、上位選手の紹介。

- ⑤ 試技順変更の理由。パスか他種目への出場か。
- ⑥ トップ8の記録と4回目以降の試技順の変更。
- ⑦ 残っている競技者数による，試技（制限）時間の変化。
- ⑧ 高さの競う種目の第1位決定戦（ジャンプ・オフ）が行われる際の対応。
- ⑨ 競技終了時に1位記録の発表。
- ⑩ 競技終了時の「旗下ろし」とアナウンスの同期をとってもよい。

## 6 結果発表（リザルト）

### (1) トラック競技

- ① 何着まで発表するか（1着のみ，3着まで，入選条件を満たすまで全員），フルネームか，苗字のみか，ナンバーを言うか，レーンナンバーも言うか，所属等どこまで発表するかを統一する。
- ② ライブ・リザルト→リプレイ（VTR）→結果確定まで一連の流れで行うことを意識。
- ③ 日本新，大会新，歴代〇位，自己ベスト，シーズンベスト等のコメント挿入。
- ④ 同着の場合，同タイム着差ありの場合等のコメント。
- ⑤ DQ，DNS，DNF等の略号の意味や，失格の内容について説明。
- ⑥ 次ラウンド進出者のコメント（特に+ $\alpha$ がある場合）。

### (2) フィールド競技

- ① 何位まで発表するか（1等のみ，3等まで，8等まで，全員），フルネームか，苗字のみか，ナンバーを言うか，所属等をどこまで発表するかを統一する。
- ② 日本新，大会新，歴代〇位，自己ベスト，シーズンベスト等のコメント挿入。
- ③ 同記録でも順位がついている場合のコメント。

長さを競う種目では2番目の記録，高さを競う種目では最後に越えた高さの試技数やその前に越えた高さまでの無効試技数に注意。

- ④ 予選終了後の決勝進出者の発表（特に予選通過標準記録突破者が12名を満たさず+ $\alpha$ がある場合）。

なお、抗議への対応のため、結果発表時刻は記録しておく必要があるが、補助員などに進行表やプログラムに記入させたり、システムや大型映像装置を使用する場合は、当該部署に時刻の記録を依頼してもよい。

また、全国クラスの大規模大会では決勝種目のフィニッシュ（優勝決定）→優勝者・記録発表→花束贈呈・フラッシュインタビュー→正式結果発表まで一連の流れで行うことがある。

## 7 表彰アナウンス

表彰係と表彰方法について十分に打合わせをし、あらかじめ表彰アナウンスの要領を決めておく。

- ① 各種目の表彰予定時刻。
- ② 表彰実施のタイミングをよく考える。競技進行の妨げにならず、また、表彰対象者を長時間待たせないようにする。
- ③ 表彰は成績発表後に行なわなければならない。抗議があることを想定し、原則として、成績発表後30分は時間を空ける。
- ④ 表彰方法を確認する。
  - ・何位まで表彰するのか
  - ・表彰の順序は1位からか、3位からか
  - ・プレゼンターの立ち位置、導線は
  - ・何を渡すのか（賞状・メダル・選手権賞・花束・副賞など）
  - ・所要時間はどの位か
  - ・リレーは、賞状、メダル等をどのように渡すか（全員か代表者か）
- ⑤ 表彰係とアナウンサー間の連絡方法、表彰開始の指示方法を決めておく。
- ⑥ 演出効果を高めるためにファンファーレや音楽（BGM）を使用することが多い。
- ⑦ 決勝結果が紙（記録用紙）で配布される場合は別に整理しておく。PC利用の場合は、画面を確認しておく。
- ⑧ 入賞者の氏名、所属の読み方、表彰者の氏名、役職、優勝杯

等の寄贈者名などをあらかじめ確認しておく。表彰係や主催者に必要事項を記入した表彰カードや表彰者一覧を作成してもらう。

- ⑨ 過去に何回優勝したか、他の種目とあわせて制覇したかなどについても事前に調べ、適宜挿入。特に日本記録や大会記録などが出た種目では、コメントでも表彰を盛り上げるよう工夫する。

## 8 アナウンス実務

日本陸連ウェブサイト\*掲載の「陸上競技アナウンサーのしおり」「陸上競技のアナウンサー ～初めてマイクに向かう人に～」を熟読の上、基本を押さえてマイクに向かう。

アナウンサーとしての心構えや数字も含めた基本的な言い方、状況別のアナウンス方法、具体例の記載がなされている。

\*日本陸上競技連盟公式サイト

委員会情報\_競技運営委員会

[www.jaaf.or.jp/about/resist/technical](http://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical)

## 9 他の部署との連携

通信・情報機器を活用した他の部との連携を例示する。

- ① 競技者係、記録情報処理員

PCを使用し、ロールコール（＝競技者係での招集）の状況、スタートリスト、フィールド競技の途中経過・成績、トラック競技の成績を入手し、必要事項をアナウンスする。

適時性を確保するために、モニターを見ながらアナウンスすることが望ましい。

- ② 出発係

トランシーバー等を使用し、次レースの出場人数、準備完了の合図を受けてから紹介アナウンスを行う。

システムを使用しない競技会では競技者名や所属名等で難読なものがあれば、事前に連絡して調べてもらうこと（競技者への聞き取り）も可能。

スタートやり直し時や不正スタート発生時の連絡をもらう。

長距離走の競技者紹介タイミング（原則はスタート前だが、状況によってはスタート後の場合もあり）について、連絡を取りながら調整する。

トラック競技のスタートとフィールド競技の試技が重なる際、フィールド競技を優先させる場合には、事前にその旨を伝え、スタートラインへの整列タイミングを遅らせるよう依頼する。

### ③ 電光掲示（大型映像）係

競技者の紹介、結果発表等、アナウンスと同じ内容が同タイミングで表示されるのが原則。

進行担当総務員や EPM が配置されていれば、その指示に従うが、同室配置であれば肉声で、別室配置であればトランシーバー等の通信機器を使って、アナウンサーから次のタイミングでアナウンスしたい内容を伝え、その準備が大型映像係側でも行われることが望ましい。

進行担当総務員や EPM が配置されていない場合には、アナウンサーが交代で調整役を務める。

### ④ 表彰係

表彰係とアナウンサーが離れている場合、トランシーバー等で連絡を取りながら、準備状況、表彰者の確認、入場タイミング等を詳細に確認しながら行う。

### ⑤ 進行担当総務員

競技の展開に応じ、次に何を紹介、発表すべきかを瞬時に判断していく必要があるため、アナウンサーと同室で、肉声により瞬時に情報交換・指示・伝達できることが望ましい。

進行担当総務員が置かれる競技会では、そこから各部署への連携が取れるように、トランシーバー等の通信機器が設置され、競技会運営に関する必要な情報が集約される。トラック競技で失格者が出た場合などは、進行担当総務員に写真判定、審判長等から情報が入るので、アナウンサーはその指示を受けながら迅速な対応（場内への説明等）が可能となる。

### ⑥ EP（イベント・プレゼンテーション）チーム

国際大会では、より「見（魅）せる競技会」を意識し、演出効果を意識した取り組みがなされている。進行担当総務員的な任

務に加えて、各種演出もコントロールする EPM（イベント・プレゼンテーション・マネージャー）の下、アナウンサーもチームの一員として、プロのアナウンサー、音響担当・場内映像の専門家等とチーム・アップし、連携しながら競技会を運営する。

国内大会では EPM は設置されていないが、大規模大会では各種専門家が入って、進行担当総務員の指示を受けながら協働することもある。

尚、国際ルールではアナウンサーは審判員の位置づけにはなく、EP チームの一員として、審判員資格のない専門のアナウンサーがマイクに向かうことを認めている。

## 10 アナウンサー間の連携

少人数で一つの競技会を担当する場合、時間交代で競技を担当し、日程通りに進行させるのが精一杯というケースも多い。一方で、大人数の編成となる競技会では、役割分担も複雑化し、アナウンサー間の連携をどう構築していくかという問題が生じる。特に複数のフィールド競技が同時に行われ、表彰を実施する場合など、アナウンサーが進行担当的な役割を担いながら競技会を進めていくこともある。

主任を中心にその日の役割分担を明確にし、各競技の状況に応じて、種目の優先順位を決め、声を掛け合うなどしてアナウンサー相互の連携を図ることを心がける。どのような場面で、何を優先させるかの判断はマニュアル化できるものではなく、その場での臨機応変の判断を求められるが、基本的な考え方やよくある事例については、機会をつくって関係者で意思統一を図っておくことが必要になる。

<具体的留意点>

### (1) トラック競技・フィールド競技担当者との連携

ともするとトラック競技を優先しがちだが、「トラック競技予選よりはフィールド競技決勝優先」「同じ決勝でも好記録挑戦時はフィールド競技優先」等の考え方で意思統一する。

「トラック競技の合間にフィールド競技を入れる」のではなく、「フィールド競技の合間にトラック競技を挟み込む」といったイ

メージでマイクに向かうと、フィールド競技をより際立たせることになる。

#### (2) フィールド競技担当者間での連携

複数のフィールド競技が同時に進行している時には、担当者間で優先順位を決めておく。6回目の試技、大会記録への挑戦等、佳境に入ってきた種目を重点的にアナウンスする。

観衆の立場からすると、間髪を入れずに「走高跳は〇〇君」「走幅跳は〇〇さん」「やり投げは〇〇君」のように複数種目を紹介することは、かえって興味が削がれることになるので避ける（どの競技を見ればよいか判らなくなり、かえって混乱する）。

フィールド競技を続けて取り上げる際には、「A種目の状況（描写）＋続く3名程度の紹介」「B種目の状況（描写）＋続く3名程度の紹介」をパッケージ化する、トラック競技（短距離）の組を挟んで「トラック1組→フィールドA→トラック2組→フィールドB」といったパターン化や描写のパッケージ化等の工夫を行う。

#### (3) トラック競技・表彰担当者間の連携

競技日程や競技の進行状況にもよるが、トラック種目がスタート前の準備段階であればスタート前に、長距離種目が行われている場合には1000m毎のラップタイムをアナウンスした直後に表彰を行うことが多い。出発係、大型映像係、表彰係の各部署と無線等で連絡を取りながら、競技進行に支障を来さぬよう、表彰関係者の入場タイミングがずれないようにする。

#### (4) アナウンサー間の連携

自分がマイクに向かっていると、集中するあまり、担当以外の競技の進行まで細かく把握できないことが多い。アナウンサー間の連携を保つために、お互いにそのつど進行状況を確認し合うとともに、その時間帯に担当から外れている他のアナウンサーが調整役となって競技進行全体に目を配り、「トラックは競技者がスタートラインに出てきた」「フィールドは〇〇が大会記録へ挑戦」等の声をかけるとよい。

休憩時にはアナウンス席から離れて、スタンドや競技区域レベルで他のメンバーのアナウンスを聞き、観客の立場や選手の位置でどのように聞こえるのか（内容、速さ、タイミング等）を評価、

フィードバックすることで、メンバー全体で共通認識を持つことも必要である。

## アナウンスで盛り上げる

好記録に沸くスタンド。その主役は競技者であることは間違いない。しかし観客に正確な情報を伝え共に喜ぶことを通じてアナウンサーも重要な役割を担っている。

陸上競技の記録、順位はすべて「数字」で示されるが、時としてその重要な情報である「正確な数字」がアナウンサーに速やかに届かないということが起こる。

一斉にスタートし全員が同じフィニッシュラインを目指すトラック競技と異なり、フィールド競技では各競技者が試技を重ね、記録が更新され最終順位が決まるので、「競技途中の正確な記録」が「旬な情報」としての価値を持つ。

フィールド競技の記録表示にはフィールド成績表示器やフィールド順位表示器（トップ8板）などが使用されるが、これら記録表示器や板の前に審判員や補助員、報道関係者などが立って数字が読みづらくなることや、表示板の廻し方が早すぎて読みとれないということもよくある。また砲丸投などでは記録の表示、次の投てき者のナンバー表示が追いつかないこともよく目にする。接戦を描写し競技者を奮い立たせるアナウンスをしようと思っても、タイミングがずれてしまっては元も子もない。競技者本人もアナウンスを期待し、観客の声援を望んでいるのであればなおのこと。

「長さを競う競技」と「高さを競う競技」ではアナウンスすべきポイントが異なるが、アナウンスのパターンやタイミング、言い回し等によって、アナウンサーが競技の「リズム」を作ることは可能である。

また、一選手の1つの試技が「開始の合図～試技～判定～記録表示」のパッケージであると考え、フィールド審判員に「記録表示を確認した上で、次の試技の合図のタイミングを意識す

る」よう依頼することも必要になる。

さらには、アナウンサー自身がマイクから離れた場所（アナウンス席ではなく、スタンドやピット等）で他のアナウンサーのアナウンス内容を聞き、競技者や観衆にどのように聞こえているか、聞き手側はどんな情報を欲しているか、話すタイミングを工夫する余地はないか、他の審判部署と連携がうまくいっているか等を客観的に捉えることも、アナウンスでの盛り上げに必要な要素の一つである。

## ライブ・リザルト

陸上競技の面白さに、誰が勝ったのか？という「勝負」と、その記録はどうだったか？という「記録」の二本柱が挙げられる。いかに早く、正確に情報を伝えることができるかは、「魅せる」競技会を運営する上で重要な課題である。

最近では全国各地で地域選手権規模の競技会においても、大型映像装置（スクリーン）を用いたライブ・リザルトによるトラック競技の結果発表が一般化してきた。

レース結果を迅速に伝えるために、「写真判定中」の途中経過を表示しているものだが、使用機器の性能向上や関係者の技術向上もあり、黄旗が挙げた場合を除けば、ほぼライブ・リザルトと正式結果が一致するようになっている。

ライブ・リザルトに合わせてアナウンスする場合は、まず「判定中の画面である」ことの断りを入れ、ラウンドに応じた必要な順位までを発表し、正式結果になったら（「確定」表示）になったら「結果が確定した」の一言を加える。

黄旗が挙げた場合には、その旨を伝え、ライブ・リザルトでの発表は行わない。フィニッシュタイマーでの1着の速報記録のみを発表し、正式結果が確定した段階で他の順位も含めた結果を発表する。

フィールド競技でもコンピューターを使用し一跳一投のデータ入力が行われる場合には、途中経過を大型映像装置に表示さ

せ、アナウンスすることも可能である。長さを競う競技であれば、「現在の上位8名の競技者とその記録」「トップ8の試技順とそれまでの記録」「試技毎での記録・順位の変化」等を示すことができ、アナウンスしなくても表示しておくことだけで、ピットから遠く離れた場所にいる観衆にも興味を持たせ、競技場全体で当該競技へ関心を集中させることができる。

また、最近では競技者も観衆も記録発表の迅速性や途中経過の情報提供に対する期待は極めて高く、写真判定員やフィールド審判員の正確な判定が大前提ではあるが、イベント・プレゼンテーションの観点からも「より早い判定・発表」が課題となっている。

ライブ・リザルトを導入する大会では、事前に審判長や写真判定員、フィールド競技審判員、記録情報処理員等の関係者と打ち合わせを行い、各部署の協力を得ながら「正確・迅速・効果的」なライブ・リザルトの活用ができるよう、共通意識を持つことが必要である。

## スタート時の警告内容説明アナウンス

スタート時、何らかの理由によりスタートをやり直す際に、出発係が競技者に対してカードを示すが、観衆や関係者にも「今、何が起こったのか」を正確かつ丁寧にアナウンスすることで、競技への関心や審判行為に対する信頼性をより高めるようにしている。

具体的な状況説明を的確に行なう為には、事前にスタートチーム（出発係を含む）とアナウンサー間で、短時間で正確に状況を共有する態勢をつくることが重要となる。「出発係からアナウンサーへの連絡内容」「アナウンサーのコメント内容」についてパターン化し、符号表的なカードを双方で持つといった工夫をすれば、出発係からの簡潔な連絡、アナウンス・コメントの統一が可能となり、より効果的な場内への説明が期待できる。

**<出発係>**

カード	アナウンサーへの連絡内容
赤黒	第_____レーン不正スタートで失格
グリーン	第_____レーン「○番」で注意
	①機械の不調(ピストル, スピーカー, 写真判定装置)
	②スタート合図前に周囲の静粛が保たれなかった(声援, 手拍子)
	③スタート合図前に体が静止しなかった(腰のふらつき, ピクッを含む)
	④スタートの態勢に入るのが遅かった
黄黒(混成)	第_____レーン不正スタート1回目

**<アナウンサー>**

カード	アナウンス内容(コメント)
赤黒	「○レーン」が不正スタートと判定されたので失格となります
グリーン	ただ今のは、不正スタートではありません
	①機械の不調で、スタートをやり直します
	②スターターの声が選手に聞こえなかったので、スタートをやり直しますスターターが台上がったら、お静かに願います
	③スタートの合図の前にきちんと静止しなかったので、「○レーン」に注意が与えられます
	④スタートの態勢に入るのが遅かったので「○レーン」に注意が与えられます
黄黒(混成)	「○レーン」が1回目の不正スタートですこのあとの不正スタートは、全て失格となります

\*グリーンカードの場合は、必ず「不正スタートではない」というコメントをつける

なお、アナウンスのタイミングは、出発係が対象となる選手(行為)に対してカードを示すタイミングに合わせて行うことに注意する。また、出発係は選手だけでなく観衆にもわかるようにカードを示す。

スタートチームとアナウンサー間の良好な連携により、観衆や関係者に適時適切な説明を行うことができれば、スタートチームへの信頼感もより高まる。

# 報道係

## 1 任務

報道係の任務については特に規則によって定められてはいない。その任務を一言で言えば、報道関係者へのサービスである。

- (1) 競技運営に支障のない限りにおいて報道関係者が取材・撮影を行いやすいよう報道対応を行う。その際は、マーシャルやフィールド競技の競技役員、入賞者管理係や表彰係等の関係役員と連携をとりながら行うとよい。
- (2) 競技会を取材する報道関係者が、正確かつ十分な報道ができるよう競技成績の記録や、必要な資料を配布する。競技運営が円滑に運営され、選手が所期の目的を達成できるよう報道関係者に協力を求めこれにあたる。

## 2 報道関係者

日本新聞協会に加盟する報道機関、新聞社、通信社、電波・映像を発信するテレビ・ラジオの放送会社、写真記者協会、日本雑誌協会、陸上競技専門誌、雑誌写真記者会、スポーツニュース協会、外国特派員協会、日本スポーツプレス協会(AJPS)の加盟社および日本陸連オフィシャルカメラを対象とする。

上記以外の団体、都道府県・市町村の広報、選手所属企業の広報、その他からの取材申請があるときは、事前に下記の書類の提出を要請し審査する。

- ・社名／団体名
- ・取材目的(発表媒体名)／方法
- ・取材期間／人数

## 3 事前準備【実行委員会・総務】

### (1) 事前広報

大会規模に応じて事前に(少なくとも2週間前までに)、大会要項、競技日程、出場予定選手、取材要項等の記者発表を行う。(選手を招聘しての記者発表会、大会関係者による記者クラブ等でのレクチャー形式の発表リリース配信等)。大会規模によっては、記者

発表時に取材申請書を添付し、事前に取材予定媒体を把握しておく  
とよい。

## (2) 関係諸施設の設営

取材予定人数を見極めつつ十分なスペースの確保をすることが必要である。

### ① 報道員受付所

カテゴリー [ペン・スチールカメラマン (オレンジビブス)・  
テレビクルー (グリーンビブス)・代表カメラマン (グレービブ  
ス)]別の受付が可能なスペース〈中型テント1張り程度〉が望  
ましい。

### ② (スタンド内) 記者席

フィニッシュライン延長上付近のスタンド内に机と電源を確  
保し設置する。ミックスゾーンや報道員室へ素早く移動がかな  
う動線の確保ができるとよい。

### ③ 報道員室 [プレスワーキングルーム]

国体・インターハイでは多い日に200名を超える報道員の来  
場がある。机・椅子の他、人数分の電源が必要。インターネット  
に接続可能な環境。資料・記録用紙 (スタートリスト・リザ  
ルト等)を入れる棚 (レターケース)を設置する。

ワーキングルームの閉鎖は、競技 (表彰) 終了後2~3時間  
程度を確保したい。あらかじめ報道員へ事前に通知する。(室  
の管理)。

### ④ カメラマン室

グラウンド・ミックスゾーンに近く、グラウンドへの出入り  
が容易な場所への室の設置が必須である。ここにも机・椅子・  
電源が必要。報道員室同様、想定される人数により十分な席数・  
電源等を準備したい。また、数日間にわたる競技会では機材置  
場として鍵のかかるロッカー・棚の用意が求められている。

### ⑤ インタビュー室

複数種目・リレー種目の入賞者・チームと報道員が入っても  
十分な取材活動ができるスペース環境と備品 (椅子・バックボ  
ード等)を準備する。

### ⑥ ミックスゾーン内インタビューエリア

競技を終えたすべての選手が通過する動線上で、報道員へ取材の機会を保証するものである。取材活動を可能にするスペースを確保する。

\*ミックスゾーンを仮設する場合、テント・プラスチック柵・長椅子等でレイアウト変更が可能なつくりが望ましい。床面はスパイク保護のため人工芝等で養生したい。競技者・報道員用にモニターや記録情報用 PC の設置は必須である。

※報道員受付所、報道員室、ミックスゾーン、インタビュー室はワンブロックに集中させた方が機能的であり、またスタンド内記者席からの記者の動線はできる限り短くするように設置したい。ミックスゾーンの設置により、ペン記者はスタンド内記者席・ミックスゾーン付近で競技を観戦し、ミックスゾーン内やインタビュー室で取材をして、また競技観戦に戻るを繰り返す。したがって、スタンド記者席・ミックスゾーン・インタビュー室間の動線は特に短くしたい。

#### ⑦ (スタンド内) 報道撮影エリア・報道員エリア

100m スタート後方やフィニッシュ先スタンドの一角等を報道撮影エリアや報道員エリアとすると、一般の方の侵入や撮影を制限することで盗撮等の防止にもつながる。

スタンド内の中継局カメラ設置場所周辺にも撮影エリアを設置したい。

#### ⑧ 放送席・控室

テレビ中継放送がある場合は、放送席・控室等の確保が事前に必要であり、また同様にスタンドおよびグラウンド、フィールド上のカメラ位置等を総務・実行委員会は中継局担当者と事前に打ち合わせし、確保することが必要である。さらにフィニッシュライン先のカメラ撮影エリアについては、中継局と一般報道カメラマンとの撮影位置の調整を行うようにする。

#### (3) 報道のしおり作成

大会当日の取材・撮影エリア図、取材・撮影に関する注意事項等を記載した「報道のしおり」を用意し、報道受付の際に報道関係者

に渡せるようにする。

#### (4) 要員手配

競技会・大会規模・想定される取材者数により、必要な要員を確保する。

##### ① 報道主任

担当総務員とともに、報道関係諸施設を統括管理するとともに、他の関連部署、特にマーシャルやフィールド競技の競技役員、入賞者管理係や表彰係等の関係役員との連携を図り、報道関係者が円滑に取材や撮影活動を行えるよう環境を整え、管理・監督する。

##### ② 報道員受付担当

事前申請一覧等を活用し、カテゴリー別に受付名簿に記名と連絡先電話番号を記入してもらおう。関係物品（プログラム・報道のしおり・ID・ビブス・資料配布用かご等）を渡し、取材活動終了時返却を求める。特にビブス配布者への受付は慎重に行う。

フィールド種目に限る、新聞社協会加盟の地方紙対象グレービブス貸与の受付・抽選業務を行う。

##### ③ 記者席担当

スタンド内記者席の管理とともに記録情報等が適切に配布されているか注視する。

##### ④ 報道員室〔プレスワーキングルーム〕担当

室内の管理全般を行う。レターケース等を活用し、資料・記録情報等を適切に提供する。また、ホワイトボード等を活用し、あらゆる情報の提供に努める。

##### ⑤ インタビュー室担当

室内の管理全般を行う。複数種目の同時入室を想定し、椅子等の配置等を工夫する。また、入賞者管理係・表彰係等と連携調整し、一定の取材活動時間を確保する。表彰後のインタビュー室使用の場合もある。

##### ⑥ 資料・記録・情報配布担当

迅速と確実な配布が求められる。

##### ⑦ 撮影エリア担当〔フォトコーディネーター〕

報道カメラマン（ビブス着用）の行動を監督し、コントロールする。カメラマン室の管理を兼ねる。

フィニッシュ先や外周の諸撮影エリア及びインフィールド種目別撮影エリアを作成し、安全管理（注意喚起）を行う。

⑧ ミックスゾーン内プレス担当

ミックスゾーンは競技を終えた全ての競技者が通過し、報道員にとって取材活動に重要な場であるので要員を配置し、その任に当たる者は報道員の要請に寄与する。

（その他必要に応じて）

中継局フラッシュインタビュー対応など

#### 4 競技場内の取材

(1) ペン記者

① 記者席・報道員席（スタンド内）、報道員室〔プレスワーキングルーム〕、ミックスゾーン内プレスエリア、インタビュー室での活動を認める。

② 競技本部、記録室、印刷室、ドーピングルーム、表彰控室等のテクニカルエリアへの立ち入りは認めない（通行区分の指定）。

(2) カメラマン（フォトグラファー・テレビクルー）

① グラウンドレベルでの撮影は、ビブスを着用したカメラマン（フォトグラファー・テレビクルー）だけに認める。  
ビブスの色で撮影許可区分を指定する（表参照）。

② スタンドでは、撮影エリアを利用するか、その他では観客の視界の邪魔にならない範囲で認める。

③ 競技運営本部前からの撮影は認めない。但し、表彰式撮影はこの限りではない。競技運営本部があるため、表彰時を除き、ビブスを着けたいかなる報道関係者も通行を禁止とする。（掲示物、コーン&カラーバー、柵等で明示するとよい）

④ グレービブスのインフィールドでの撮影では、競技運営と安全管理の点で三脚の使用は認めない。低い姿勢での撮影に協力を求める。但し、完全に腰を下ろした姿勢での撮影は危険なので、危険を察知した場合にすぐに動ける態勢で撮影すること。

またカメラ撮影を兼ねた記者が認められてインフィールドに入る場合においても、危険防止のため、グラウンド上で記事を書くことは認めない。

- ⑤ 審判員の視界を妨げる場所、記録表示板の前、写真判定装置の列での撮影は認めない。
- ⑥ 表彰式の際は、どのピブスでも表彰台の周辺での撮影を認める。但し、移動と撮影のタイミングについて、係からの指示に従うこと。
- ⑦ インフィールド種目の撮影（グレーピブスのみ）に対しては、撮影エリアを明示した「報道のしおり」を参照し、安全に撮影活動を行うこと。また、審判等の各係からの注意に従うこと。
- ⑧ フィニッシュ先撮影エリアや、走幅跳・三段跳・棒高跳等、トラック外側で行われる種目の場合、撮影エリアを明示するので、その範囲内で撮影を認める。  
\*各撮影エリアは、ロープ・カラーコーンの使用、グラウンドへの直接テープ貼付等で明示するとよい。低い姿勢で撮影するカメラマンに配慮し、コーン使用の場合は、ミニコーンにバーをかける形で設置するとよい。

#### ＜陸連主催大会での撮影カメラマン用ピブスの区別＞

	アウトフィールド	インフィールド
スチールカメラ（含デジカメ）	オレンジ グレー	グレー
テレビカメラ（含ビデオカメラ）	グリーン グレー	グレー
中継 TV局	青	青

〔注1〕 オレンジとグリーンピブスは、アウトフィールドおよび

〔注2〕 グレーピブスは、日本陸上競技連盟が32枚発行する。

写真記者協会15枚、日本雑誌協会2枚、日本スポーツプレス協会2枚、外国特派員協会1枚、専門誌陸上競技マガジン2枚、専門誌月刊陸上競技2枚、スポーツニュース協会6枚（含系列局）、日本陸連オフィシャル2枚 \*この他に地方新聞社枠あり。

〔注3〕 青のピブスは、中継 TV局用に30枚（含補助スタッフ）。アウトフィールド、インフィールドでの撮影、音声作業を認

める。

〔注4〕 デジタルカメラ・ビデオカメラによる撮影についてもビブスの着用が必要であり、撮影・取材規制等もスチールカメラ、テレビカメラと同様とする。

〔注5〕 上記以外の主なビブス着用者

大型映像カメラマン，メディカル，陸連科学委員会等



走幅跳先撮影エリア（立位は大型映像カメラマン）

## 5 取材機会の確保 [ミックスゾーン内プレスエリア]

- (1) 陸連主催競技会では，すべての競技者の退場はミックスゾーンを経てその先とする。競技者の誘導は，トラック種目はマーシャル，フィールド種目は当該審判員またはマーシャルに依頼する。別に担当係を設けてもよい。
- (2) ミックスゾーン内では，退場時及び記録が出るまで待機している選手への取材活動を認める。（プレスゾーン）
- (3) 特に決勝終了後は，上位3人または8人（表彰との関連）をインタビュー室へ誘導し，そこで一定時間の取材活動を確保する。ただし，TV中継がある時は，希望選手のインタビューを最優先に実施する。
- (4) 表彰後の取材活動は競技者の競技場退場後，競技者・関係者同意のもとで行うこと。
- (5) 競技者へのインタビューはミックスゾーン内プレスエリア・インタビュー室とも5～10分を確保する。各所担当者の指示・案

内に協力すること。



ミックスゾーン内プレスエリアの様子

## 6 記録・資料配布

- (1) スタートリスト，結果（リザルト）は記者席（スタンド）では各人に配布する（かご等の活用）。報道員室（プレスワーキングルーム）では，各人へ配布するとともに棚（レターケース）を活用し種目別に整理し，各人に自由に選択させる。
- (2) 予選以降のスタートリストは，番組編成用紙のコピーを配布する。

## 7 その他

- (1) 大型映像（競技場の電光掲示盤用）のカメラの撮影場所は報道撮影エリア作成に先駆け決定する。カメラマンには特別に定めたビブスカ報道カメラマンと異なるビブスを着用してもらう。
- (2) フィールド競技の撮影エリアについては，競技場のレイアウトを考慮し，当該種目の審判長と協議して決定する。

## 8 道路競技

- (1) 競技場をスタート，フィニッシュする場合はトラック&フィールド競技会に準じて諸施設と各担当を配置する。
- (2) 競技場以外の場所がスタート，フィニッシュである場合は，報道員室（プレス・ワーキングルーム），撮影場所等を臨時に設置

する。

- (3) 折り返し，中継所等は必要に応じて撮影場所を指定する。
- (4) 道路での取材については，交通規則の範囲での取材を認める。
- (5) 歩道橋上での取材は禁止する。

[注] 上記(4)(5)は警察との道路使用許可条件による。

**\*陸連主催競技会当日における，報道に係る各部署・系の業務  
や連携，配慮事項(例)**

**総務員**

[進行担当総務，報道担当総務，表彰・式典担当総務，ミックスゾーン・PEC担当総務など]

- ・選手誘導管理統制（競技者の競技中・終了から，競技場を出るまで）
  - ① フィールドからミックスゾーン → 退場へ  
各フィールド種目主任・審判，マーシャル[誘導担当]，救護(医務)，ミックスゾーン[プレスエリア担当]，記録情報処理
  - ②トラックからミックスゾーンまで → 退場へ  
出発係，監察員，衣服運搬，マーシャル[誘導担当]，救護(医務)，ミックスゾーン[プレスエリア担当]，記録情報処理
  - ③ ポストイベントコントロール 表彰後退場へ  
ミックスゾーン[プレスエリア担当]，入賞者管理，[インタビュー室担当]，救護(医務)，NFR・DCO，式典・表彰
- ・競技運営，各種変更・決定事項等情報の提供

**投擲審判長・投擲主任・用器具係と報道係**

- ・撮影エリア設定と管理  
例示を参照に，種目ごとに報道係の依頼に協力。また，弧の先，正面からの撮影に用器具係の協力を得て，防護ネットを設置。注意喚起は報道係が主体で。  
右投げ・左投げ等の競技者情報の共有。
- ・無線カメラ設置  
無線カメラの設置位置について確認。
- ・フォトセッション  
日本記録以上誕生時，表示盤の活用。

## 跳躍審判長・跳躍主任と報道係

- ・撮影エリア設定と管理

例示を参照に、種目ごとに報道係の依頼に協力。使用ピットと跳躍方向を互いに共有する。なお、インフィールドで行われる棒高跳と、トラックに向かって跳躍する場合の走高跳は、撮影エリアを作成しない。棒高跳競技者の退場時のポールの扱いを事前に確認。ミックスゾーンへは持参させない。

- ・無線カメラ設置

無線カメラの設置位置について確認。

- ・フォトセッション

日本記録以上誕生時、表示盤の活用。

## スタート審判長・スターター主任と報道係

- ・各所でのスターター、リコーラーのポジションとスピーカー設置位置の確認。これは外周の撮影エリア「前面」確定のため。また、中継局設置カメラや大型映像カメラの撮影位置との関係性から。大会前日に行い、マーキングしておくことが望ましい。また、コード類はマットや人工芝等で養生しておくことを推奨する。

- ・使用物の撤去

ゴール付近にスタート台等の不要物を残さない。人も可能な限りはける。

## マーシャルと報道係（ミックスゾーン担当）

- ・フィニッシュ先他、撮影エリアの規制

ビブス未着用者の排除、規制を行う。

- ・競技終了者の誘導

○フィールド種目 当該種目審判から引き継ぎ、ミックスゾーン担当者へ。導線の確認。予選通過や高さを競う種目での誘導するタイミングについて事前に定めておく。

○トラック種目 フィニッシュからミックスゾーンまでを誘導する。最終競技者のフィニッシュを待ってトラック上へ（緊急時は直ぐに駆けつける）。

\* TV中継時、バックボード前にてフラッシュインタビュー有り。競技者の案内・誘導に協力。特に4×100mRの第

1から第3走者の誘導。衣服運搬との調整。

### 監察主任・監察員と報道係

- ・ 監察員配置

フィニッシュ先撮影エリア前の、監察員ポジション [セパレーター・オープン種目別] の決定と明示。(人が変わってもそこへ座するまたは立つの徹底) 明示は報道係が行う。

他の外周での監察においては、事前策定の配置計画に基づき、各所可能な範囲でカメラマンのリクエストに柔軟に対応する。

### 出発係と報道係 (ミックスゾーン担当)

- ・ 使用物の撤去 [フィニッシュ時]

スタート後のゴール付近にレーンボックス等の不要物を残さない。人も可能な限りはける。レーンボックスやスターティングブロック搬出入のタイミングにも注意する。

- ・ ミックスゾーンレイアウト

4×400mリレー予選等でミックスゾーン内出発エリアが、込み合うことが想定されるときミックスゾーン内の出発競技者待機場所について事前調整。

### 写真判定主任と報道係

- ・ ビーム設置位置

外側のビームの設置では、極力トラックに近い位置に。特にメイン側での跳躍種目 (走幅跳・三段跳) 実施時。

- ・ フォトセッション

日本記録以上誕生時、ゴールタイマー (表示盤) にて再表示。競技者がスパイクで付近に立ち入るので事前のコード類の養生。

### 記録情報と報道係 (ミックスゾーン担当・入賞者管理)

- ・ 記録用紙他、報道関係各所への配布

スタートリスト・リザルト、その他情報の配布について、担当間で事前に打ち合わせ。

[入賞者の確定]

ミックスゾーン内での、入賞者の確定と管理が迅速に行えるよう、端末やモニターの設置など、体制の整備。これは、ミックスゾーン内での報道員による取材時間の確保から。

## 大型映像係と報道係

- ・大型映像用カメラの撮影位置  
各種目における大型映像カメラ撮影位置と、報道撮影エリア及び中継局カメラとの関係性を事前に打ち合わせ。確定した各ポジションについて、明示。

## 表彰・式典係と報道係（ミックスゾーン担当・入賞者管理係・インタビュー室担当）

- ・種目別表彰時間の共有と対処  
インカム等による連絡系統を確立し、ミックスゾーンやインタビュー室から表彰控室への誘導で連携。これは、報道員による取材時間の確保の面から。また、表彰時間を大きく変更する場合の情報の発信と、入賞者への対処について連携。
- ・表彰時のカメラマン規制  
種目別表彰の際、ビブス着用カメラマンは、何色でも本部前通行可で、表彰台付近に集まる。授与の際、サイドからの撮影のみとし、授与者退場後、正面からのフォトセッションの機会と一定時間を確保。

\*以下の係が単独で設定された場合

## 入賞者管理 (PEC) 係と報道

- ・取材活動時間の確保  
表彰係との連携から、ミックスゾーン内や、インタビュー室内での取材活動時間の確保に協力。  
先に表彰を行う場合の、表彰場所からインタビュー室への誘導協力。

## ミックスゾーン担当と報道

- ・関係諸係との連携  
出発、衣服、マーシャル、記録情報、(入賞者管理)、表彰等と連携し、ミックスゾーン内での取材活動のエリアと時間を提供。各種情報の収集と提供も。
- ・取材希望社への協力  
希望社からのリクエストを聞き取り、競技者を誘導。

### \*陸連主催競技会における、カメラ撮影エリア(例)

以下の図は、国民体育大会・インターハイにおける撮影エリア作成についての例を示す。

それぞれの競技場のレイアウトや競技者レベル等から判断して、関係競技役員と協議のうえ、競技運営に支障のない範囲で各大会によってエリアは定めるようにする。

撮影するカメラマンには競技の状況により、撮影エリアを変更する必要があることを告知し、審判・役員の指示に従っての撮影に協力してもらえようようにお願いします。

(大会当日配布する「報道のしおり」に記載する)



フィニッシュ先撮影エリア

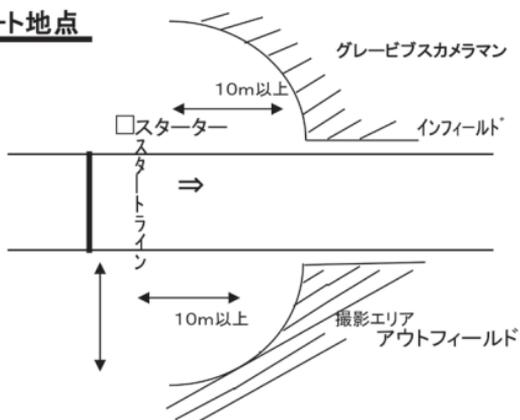


投てき種目撮影エリア

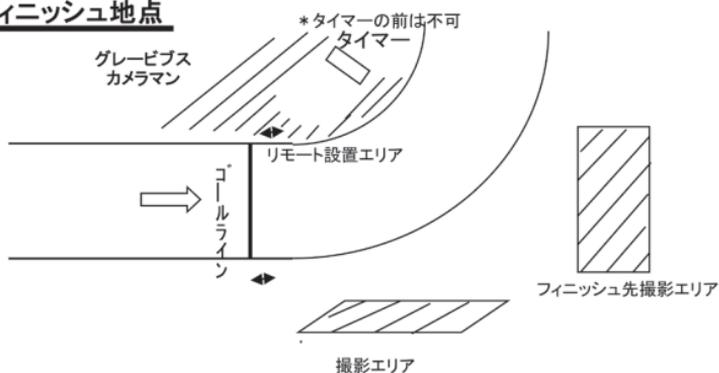


プレスルーム

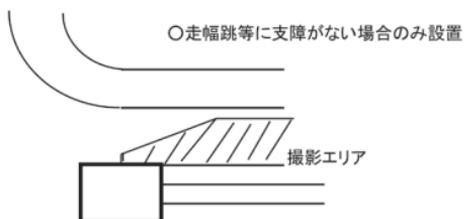
## スタート地点



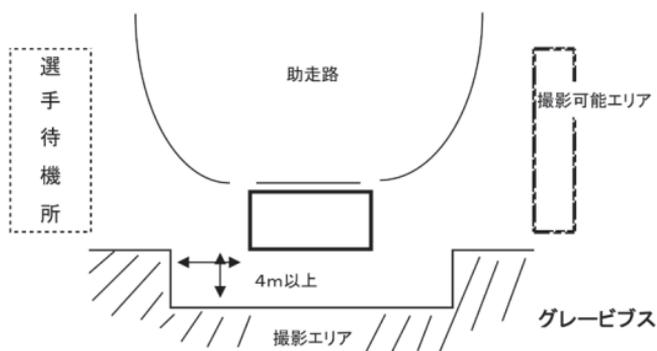
## フィニッシュ地点



## リレー/200m/400mエリア

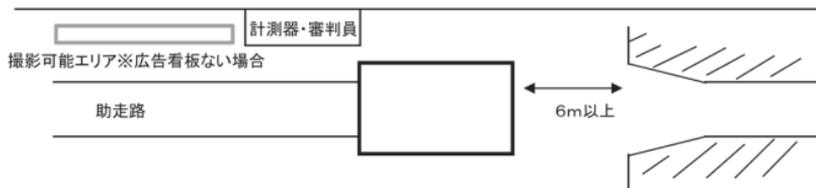


## 走高跳 (インフィールド跳躍時)

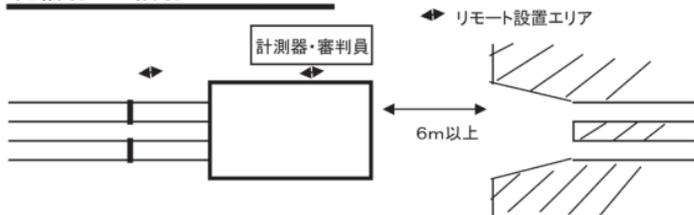


撮影可能エリアは、撮影エリアに加え、さらに競技運営上支障がないと判断した場合に、エリアとして撮影を許可する

## 棒高跳 (アウトフィールドピット)



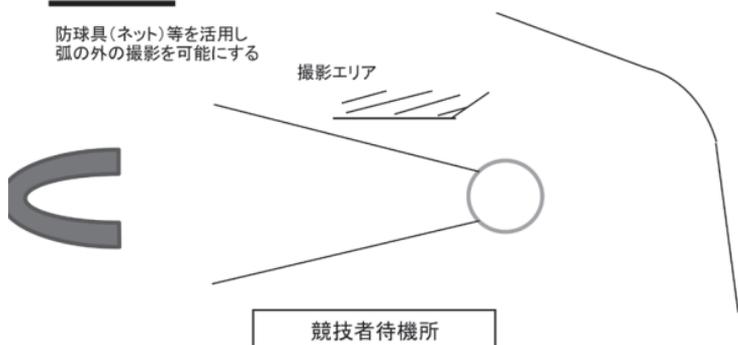
## 走幅跳／三段跳 (アウトフィールド)



選手正面からの撮影は不可

## 砲丸投

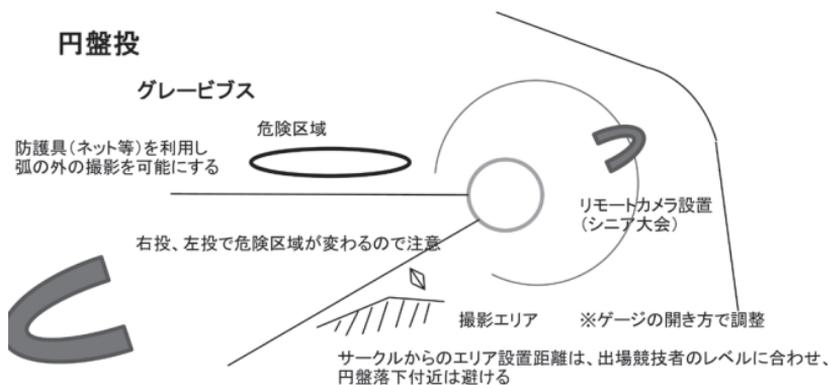
防球具(ネット)等を活用し  
弧の外の撮影を可能にする



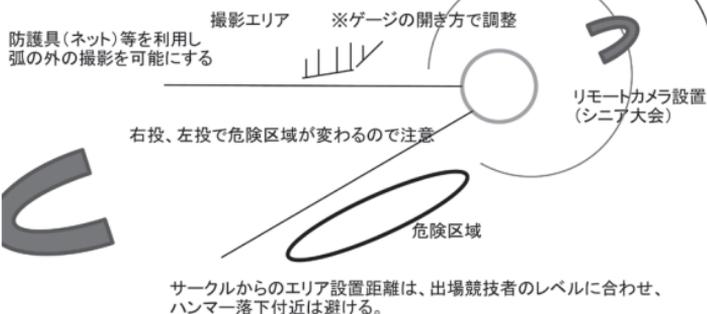
## 円盤投

グレービブス

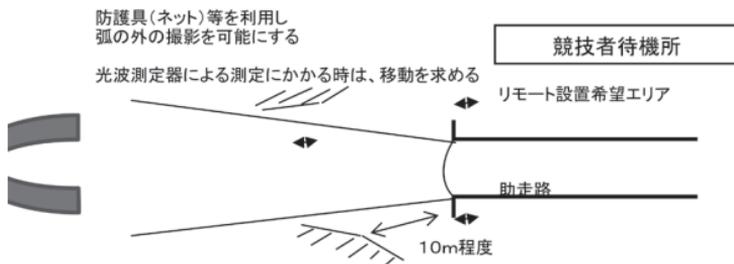
防護具(ネット等)を利用し  
弧の外の撮影を可能にする



## ハンマー投 グレイブス



## やり投



## ミックスゾーンとポストイベントコントロール

### [ミックスゾーン]

国内の全国レベル競技会では、フィニッシュ先の退場ゲート付近にミックスゾーン (Mixed Zone) が設けられる。出発の選手や競技が終わった選手及び取材活動を行いたい記者が混在する場で出発選手のエリア・退場選手動線 (一部取材スペース)・更衣エリアを総称してミックスゾーンとしている。

主催者が、報道員・記者に取材の機会を保証する場所でもあり、競技を終えた全ての競技者が競技場から退場するまでの動線上に取材活動を可能にする一定のスペースの確保が必要であり、インタビュー室も含め、機能的なつくりが求められる。

国際大会では、ミックスゾーンとはTV・記者等の報道員と競技を終えた選手とのフラッシュな取材の場を指し、その奥に部屋 (Post Event Control Room : PECR) が設けられ、衣服などが届けられる。

### [ポストイベントコントロール : PEC]

#### 「国内大会」

国内競技会では、競技を終えミックスゾーンまで誘導された選手の、競技場を退場するまでのすべての範囲での案内・誘導ととらえる。この間にフラッシュなインタビュー、入賞者の確定、その後のインタビュー室や表彰控室を経ての表彰へとつながる一連の対応である。途中でドーピング等の指名が行われることもある。

#### 「国際大会」

PECRからインタビュー室や表彰控室までの誘導の間の入賞者管理を指す。途中ドーピング等の指名や対応が求められることは必然である。

#### <国内競技会でミックスゾーン・PECに係わる担当・係>

ミックスゾーン総括総務・ミックスゾーン担当, 出発係, マーシャル, 報道係, 記録情報係, 入賞者管理係, 衣服係, インタビュー室担当, 表彰係, 救護 (医務) 係, シャペロン [ドーピングの通告と付添い] など。

## 陸連主催大会の報道対応

### 【対象】

日本新聞協会に加盟する報道機関、新聞社、通信社。電波・映像を発信するテレビ・ラジオの放送会社、写真記者協会、日本雑誌協会、陸上競技専門誌、雑誌写真記者会、スポーツニュース協会、外国特派員協会、日本スポーツプレス協会（AJPS）の加盟社を対象とする。

### 【主な対応】

- 1 取材活動への協力：取材の場所・機会及び資料の提供  
〈競技を終えたすべての競技者のミックスゾーンへの誘導〉
- 2 フォトコーディネート：撮影場所の提供

### 【担当者】

総務・（実行委員会）

競技会前の準備

- ・競技場内外関係諸施設（報道員室・ミックスゾーン・インタビュー室・スタンド内報道員席・スタンド内撮影エリア、他）設置
- ・報道機関への情報提供と取材申請の取りまとめ、IDカードやビブス、競技場内の通行区分・取材方法や撮影エリア等が記された「報道のしおり」作成等
- ・テレビ中継局との事前協議

競技会当日の任務

- ・ミックスゾーンから表彰までの運営全般の統括管理  
ポストイベントコントロール〈PEC〉
- ・記録の流れや資料提供状態の把握と、競技会運営にかかる変更事項等の情報提供
- ・報道係他、関連部署への指導・監督

報道係 \*任務は、報道系のページ参照

〈主な関連部署審判・主任〉 \*詳細は報道系のページ参照

全般：マーシャル、写真判定、入賞者管理、表彰、衣服、

記録情報、アナウンサー

撮影エリア：跳躍、投擲、スターター、監察、出発、大型映像

## 記録・情報処理員

現在の記録・情報処理システムは、道路競技においては、1980年の福岡国際マラソン、トラック・フィールド競技においては、1984年の8か国対抗陸上からコンピューターによる競技記録処理を導入して以来、大会運営の根幹に関わる業務となっている。日本選手権、国体などでは申し込み競技者の資格審査の補助データとしての利用やプログラム原稿作成、主放送局、通信社へのリアルタイムな情報提供や競技終了後の総合記録作成やホームページや携帯サイトへのアップや、陸連への記録申請まで、一貫して行えるシステムとして定着してきた。その上、コンピューターを利用する競技会の形式としては、競技場にネットワーク・システムが導入されて、トラック競技のみならずフィールド競技も同時進行で記録処理を行っている。

また、大型映像が設置されている競技場では、競技終了後ただちに結果を発表できるようになった。

しかし、記録・情報処理にコンピューターが活用されない競技会もまだあることから、コンピューターを利用するしないにかかわらず、記録・情報処理員は従来の番組編成、記録集計・配布、公認記録申請書作成等を行う。

### 1 番組編成関係(番組編成員)の任務

番組編成員の任務については、第142条、第166条、第180条、第215条等によりレーン・オーダー、試技順を決定し発表する(第1ラウンドの発表はプログラム掲載、その後は総務、審判長の承認を得て、招集所付近等に掲示)。この任務のためにコンピューターを使用しない場合は抽選器、編成用紙、編成用個人カード等を用意する。

### 2 番組編成の留意点

#### トラック競技

- ① 同一団体に所属する競技者は、できる限り異なる組に編成する(第166条2)。特に、対抗(校)戦等ではこのことを配慮する。

ただし、その競技会が選手権大会や選考競技会などでは、あまり考慮しなくてもよい。

- ② 予選では、少なくとも各組の1着と2着までは次のラウンドに出場する資格があり、できれば各組の3着まで出場資格を与えることが望ましい(第166条8)。このことについては、好記録保持者らが順当にラウンドを進めるように(第166条2〔国内〕i)ということとも合わせて配慮する。
- ③ 中・長距離走の1組の人数は、次の人数を原則としている(第166条2〔国内〕ii)。特に3,000mSCでは第1障害物の安全性に配慮する。

1,500m, 3,000mSC 15人以内

3,000m, 5,000m (グループスタートの場合) 27人以内

10,000m (グループスタートの場合) 30人以内

予選を行った場合の決勝進出人数は1,500m, 3,000mSCで12人以内, 3,000m, 5,000m, 10,000mで18人以内とする。

これらの種目の決勝進出者の決定には、着順およびタイムを併用する方法が望ましい。

例 1,500m 2組-5着+2

- ④ 組・レーンの決定
- (a) 100mから800mまでの競走と、4×400mまでのリレー競走で複数のラウンドが行われる場合、第2ラウンドからのレーン順は、その前のラウンドの着順と記録により、上位グループ4人(チーム)、中位グループ2人(チーム)、下位グループ2人(チーム)に分ける。そして、8レーン仕様のトラックの場合、上位グループには3, 4, 5, 6レーン、中位グループには7, 8レーン、下位グループには1, 2レーンを抽選により割り当てる(第166条3,4)。9レーン仕様のトラックの場合、9人未満の競技者が競技に参加するとき、第1レーンは使用しないため、第2レーンを第1レーンとみなし、以下同様に割り当てる。
- 同記録のため、4人-2人-2人に分けられないときは、同記録者間で抽選により上位・中位・下位グループを決定し、その上でレーンの抽選を行う。

- (b) 800m競走において、1レーンに2人を走らせる場合は安全性に配慮しレーンを決める（第166条4(b)〔注意〕ii）（コラム参照）。
- (c) レーン順決定の公正を示すため、番組編成用紙の備考欄に前のラウンドの順位、記録を記入するとよい。
- (d) 競技者の数がレーン数より少ないときには、内側レーンを保全のために空けるのが望ましい。
- ⑤ 予選・準決勝における同記録・同順位
- トラック競技において、2組3着+2の条件で3着に同着（複人数）が出たり、+上位者2人という条件のところを越える同タイム者が出たりした場合は次のように解決する。
- (a) 着取りする順位の最終枠に同タイム着差なしが出た場合、 $+ \alpha$ の人数を減らす。
- (b)  $+ \alpha$ の最終枠で同タイムが出た場合、組が違っていても写真を拡大して優劣を判定する。それでも優劣が判定できなければ抽選とする。ただし、レーンに余裕がある場合は、抽選をせず、同記録の競技者は次のラウンドに進めるものとする。
- このときの写真は0.001秒単位で精査し、0.001秒差があるときに着差があるものとする。
- (c) 抽選をする場合には当該競技者等を集め、状況を説明した後、本人に抽選を行わせるのが一般的である。その方法は、まず予備抽選をしてくじを引く順番を決め、その順番に従い本抽選を行うことを薦める。
- 次のラウンドの出場者が決定したならば、競技者たちに（アナウンス、掲示によって）速やかに知らせる。
- ⑥ 棄権者がある場合
- 申込者の人数で予選ラウンドが必要なため、予選2組を設定したが、招集時に棄権者があり、予選を行う必要がなくなった場合は、競技をせずに招集完了者全員を次のラウンド（この場合、決勝）進出者として抽選でレーン順を決定する。
- （例） 100m予選（2組4着）
- |     |         |       |
|-----|---------|-------|
| 第1組 | 8人中3人棄権 | 出場者5人 |
| 第2組 | 7人中4人棄権 | 出場者3人 |

## フィールド競技

- ① 予選が行われる場合、その人数により組数、競技者の組と試技順を決定する。予選通過標準記録を突破した競技者は全員決勝ラウンドに進める。また、記録突破者が12人に満たない場合、予選の成績から追加補充をする。12位の競技者が同記録で複数名のときには第180条22、第181条8を適用する（第180条15）。
- ② 決勝進出者の試技順を決定し発表する。

## 混成競技

- ① 混成競技におけるトラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順は最終種目（800m、1,500m）を除いてプログラムに掲載する。最終種目はそれまでの総得点の上位者が最終組に含まれるように編成し、混成審判長に確認を受ける。（第200条7）。
- ② 途中、棄権者等により、混成競技審判長から組編成を変更するよう指示があった場合は再編成する（第200条7）。
- ③ トラック種目では、1組の人数は5人以上で編成することが望ましく、3人未満では走らせない。走高跳、棒高跳では競技運営面から2ピット（2組）編成にすることもある。

## 3 記録・情報処理関係の任務

記録情報部署は班編成により任務の正確・迅速化を期す。

〈班編成〉例

- ・主任（副主任）
- ・成績記録班（トラック／フィールド／混成の部、得点計算）
- ・記録整理班（記録の確認、成績一覧表：公認記録申請書作成）
- ・印刷・送信班

各班員は各自が以下の任務を行うと同時にお互いの連携を密にする。

## 4 記録・情報処理の留意点

- ① 競技会前の情報処理
  - (a) 出場競技者の基礎データ（氏名、読み仮名、所属団体（学校）名、学年、ナンバー、出場種目、参加資格記録等）を整理し、

番組編成員に渡す。

(b) 訂正、変更等の競技会開始前の諸連絡事項

監督会議における変更事項（予選通過標準記録の修正，高さの競技の高さの修正等），その時の棄権等の情報を把握し，関係部署に連絡する。

② 競技会に必要な記録の把握

世界記録，日本記録（U20，U18），高校記録，中学記録，大会記録等その競技会に必要な記録を確認し，プログラム原稿とする。また新記録が誕生したとき，どこまでをコメントとして発表するのかあらかじめ主催者や総務と打合せをしておく。

③ 記録・成績の集計

各審判長，計時員主任，写真判定員主任，競技者係，風力計測員から提供される各種目の結果を集計する。

(a) トラック競技の集計は途中棄権（DNF），失格（DQ）が生じた場合，備考欄に記入する。失格の場合にはその理由も簡潔に記す。

(b) フィールド競技の集計は記録担当者・審判長によって整理されてくる記録表について，最高記録，順位，各種の新記録，風力の確認（走幅跳，三段跳）を行う。

(c) 得点集計は各決勝種目終了後，速やかに総合，男女別，トラック，フィールドの得点を発表する。

(d) 各種目の順位の決定は競技規則にあるが，対抗（校）戦の順位決定方法を確認する。

※記録の集計・確認が済んだら成績記録表を必要部数作成する（複写等）。

④ 成績の発表

各種目の結果（リザルト，スタートリスト等）をアナウンサー（含む大型映像係）に伝え，総務に渡し（審判長，表彰係，報道係等に配布する），掲示板に発表する。

⑤ 記録証明・記録申請等について

公認記録の申請書作成のためにプログラムの変更点の訂正，成績表を作成する。（コンピューターを使用している場合は，データベースでよい。）

日本記録等の申請用紙及びドーピング検査（必要な場合）の準備をする。記録誕生時には申請書類の作成のために総務に協力する。

また、記録証明書発行の手順を確認しておく。

## 5 運営の流れ

### (1) 競技開始前

競技者係において、招集完了時刻後、出場者と欠場者が把握されたスタートリストが当部署に配布されてくる。このデータにより成績記録用紙のレーン順、ナンバーをチェックしておく。

### (2) 競技中

競技の状況を観察し、競技中のトラブルをチェックしておく。

### (3) 競技後

トラック競技では、記録用紙に写真判定の記録、もしくは決勝審判員主任からの着順および計時員主任からの計時値、風向風速が必要な種目については風力計測員からの風力値などを記入する。このとき、競技中のトラブルが解決されているか確認する。

次のラウンドが行われる場合は、データを番組編成員に渡す。

### (4) リザルト、スタートリストの配布

必要枚数を複写（コピー）されたリザルト、スタートリストを配布すると同時にリザルト、スタートリスト用掲示板にて発表する。

リザルト（予選、準決勝、決勝）、スタートリスト、番組編成の用紙は、色分けされていると分かりやすい。

# コンピューターを利用する競技会運営

全国大会や国際大会規模の大会処理は、ほとんど参加申し込みから記録集印刷原稿作成するまで処理を行う場合が多い。大会によっては、プログラム作成と大会運営システムは、別々に依頼していることがあるので、各加盟団体主催競技会等を含めてコンピューター処理はどの段階までを行うのか後々の混乱を避けるために事前に確認する必要がある。

## 〈確認事項〉

- ・ 申込みから資格審査の段階で利用するか。
- ・ プログラムの印刷原稿を作成する必要があるか。
- ・ 競技会処理だけを行うか。
- ・ インターネット上に記録等の発表をするのか。
- ・ ペーパーレス大会運営をどこまで行うのか。
- ・ 競技会終了後、デイリープログラムの原稿が必要であるか。
- ・ 記録集を発行するための原稿が必要か。
- ・ 参加した各加盟団体に電子データの提供が必要か。
- ・ テレビ中継等オンラインによるリアルタイムのデータ提供が必要か。

## 1 記録センターの設置

コンピューターを利用する競技会では、記録センターを設置する。記録センターでは総務員（総括）の下で記録に関するすべての情報を管理把握するとともに、各部署で使用しているコンピューターが正常に作動しているか管理把握する。

### ① 構成

全国的大会における基本人数（大会期間、1日の競技時間、競技会の性格、種目数等によって増減する）

## 〈センターメンバー〉

記録センター長 1人（総務員がなる場合が多い）

副センター長 1人（記録情報主任がなる場合が多い）

番組編成員	2～3人(得点集計係を兼ねることもある)
記録担当	2～4人
情報処理担当	6～10人
システムエンジニア	2～4人(公認審判員とは限定しない)
印刷係	8～10人(必要な場合のみ割り当てる)
※どの担当にも補助員が必要な場合がある。	

競技者係、番組編成員、大型映像操作員（競技場に設置されている場合）、アナウンサー、得点集計係（記録員や番組編成員が兼ねる場合もある）、混成競技係、光波計測員、風力計測員、写真判定員、フィールド審判員、出発係、監察員など、それぞれの場所で機器を操作する部署との密接な連携が重要である。

## ② 任務

記録センターの大会での業務は、機器の設営から開始される。事前に競技開始時刻を周知徹底し、業務開始集合時刻を決定し準備に入る。

大会前日までに準備を開始することが可能であれば、可能な場所から設営しておくことが望ましい。

### (a) 記録センター長

センター内におけるすべての業務を統括し把握する。

### (b) 副センター長（記録情報主任）

センター長を補佐し、他部署との調整を行う。

### (c) 番組編成員

予選以降のラウンドの番組編成を行う。競技会の性格によっては決勝後の得点集計係を兼ねる。申合わせ事項等により規則に定める以外の編成を行う場合には、事前に主催者に編成基準を確認しておく。

### (d) 記録担当

記録の点検を複数人で行う。新記録の管理、競技会記録・申請書類の作成も行う。

### (e) 情報処理担当

コンピューターやインカムの管理、測定機器（写真判定装置・光波距離計測装置）や表示装置（大型表示盤・フィール

ド競技記録表示器)との連動接続等を担当する。

競技会前に情報処理機器の操作方法を各担当部署の競技役員に講習し、操作間違いや機器のトラブルのときに対応する。

(f) システムエンジニア

ハード・ソフトウェアの専門技術を担当する。加盟団体内で機器、操作に熟知した審判員を割り当てるのが前提だが、全国大会規模の大会等では、予期せぬ事態が発生することがあるため、専門職があたることもある。

特に競技規則以外で特別な申合わせ事項を決めている場合には、ソフトウェアの機能追加・修正などが必要な場合もあるので、大会準備の段階から連携していることが望ましい。

(g) 印刷係

各種リストの印刷・配布を担当する。あらかじめ配布先・必要枚数を確認しておく必要がある。大規模な大会で印刷室が複数になる場合は人数が増える(配布は補助員が行うこともある)。

## 2 留意点

### ① 情報処理の機器整備と位置付け

加盟団体内で情報処理を行うには、二つの大きな要素が整備される必要がある。まず、第一にコンピューターなどの情報機器の整備などインフラ整備である。情報機器は全国大会や国際大会を開催する第1種公認競技場の使用条件になっているが、実際に競技場に導入されたとしても、そこに出かけてデータ作りを行うわけにはいかない。

競技会のときだけ特別に業務が発生するのではなく、日常恒常的に業務が行なわれている実状なので、委員会や部を位置付けるとともに加盟団体内で自由に使用できる機器を導入することも計画しなければならない。個人の好意で機器を使うことにもおのずから限界がある。十分に検討したうえで、一部の人間だけに業務が集中しないように方向付けを行うことが望ましい。

第二に情報処理部門の位置付けである。コンピューターを取扱う情報処理部門の養成については、加盟団体内での機構に組

み込み各種競技会や講習会で養成することが必要である。このことは浸透して来ているが、より多くの競技会でのコンピューター導入のために部門員の要請をお願いしたい。

## ② 配電施設の配慮

競技場に情報機器等の弱電施設が整備されるようになってきた。

今後、競技場に弱電設備を導入または改修するときは、以下の点を考慮して計画することが望ましい。

## ③ 個人情報の保護

コンピューターを利用することで情報を簡単に交換できるようになった。データをまとめ、メールでエントリーしたり、結果を簡単にブラウザ上で見ることができる。安易にそのようなことができるようになったが、だからこそ必要な人が必要な情報だけを見られるように制限をかける必要がある。個人情報保護の観点からは、この問題に関してはじっくり考え、対応したい。

### 〈弱電施設の導入・改修時の留意点〉

- ・競技場の規格に合致しているか。
- ・コンピューター室（記録室）やフィールドアリーナの弱電ハンドホールの電力容量は十分か。
- ・コピー機や内線ファクシミリが設置されているか。
- ・屋内および屋外のケーブル取り出し位置が適切か。
- ・コンピューターやインカム、タイミングシステムのケーブルが正しく敷設（埋設）されているか。
- ・コネクタ盤のコネクタの取り付け方が統一されているか。
- ・インカム配線の端子台はチャンネルごとに分けられているか。クストークはないか。
- ・コネクタ取付のピンアサインは間違っていないか。
- ・ハンドホールおよび屋外のコネクタ端子盤の防水加工は十分か。
- ・無線 LAN を使用する場合利用台数を想定した負荷を考慮し

- てアクセスポイントが設置されているか。
- ・ 停電時のバックアップバッテリーは確保されているか。
  - ・ その他加盟団体が特に要望する設備，規格等が満たされているか。
- など

[参考]

- ・ 現在，陸上運営システムとして，数社が開発運用しているが，すべて統一されているものではないので各加盟団体で競技場や使用条件等を検討する必要がある。
- ・ 競技場内のネットワーク (LAN)  
大別すると下記のネットワークが考えられる。今後，新設・改修する場合，LAN方式の単体使用より組み合わせて使用することが増えると考えられる。

名称	伝送媒体	規格・伝送速度	最大伝送距離
イーサネット (Ethernet)	ツイストペアケーブル 光ファイバー	IEEE802.3 10M/100M/1000Mbps 10Gbps	100m 100m～数十 km
無線 LAN (WirelessLAN)		IEEE802.11a/b/g/n 2/11/54Mbps	数m～数百m

ただし，組み合わせた場合は，最低の速度となる。

※無線 LAN を屋外で使用する場合には，他の無線設備や電子機器等との干渉を受けやすいためあらかじめ，通信状態の確認が必要である。新しい規格も出現し，さらに複雑になってきているが，まずはその競技場にあったものを専門家と相談しながら導入することが望ましい。

### 3 記録の速報について

コンピューターを利用することで迅速で正確な記録処理が可能になり，記録速報も確実にできるようになってきた。ただし，コンピューターも一つの道具であるから使い方を間違えるとまったく機能しなくなるため，人間がきちんと管理し，一定のルールがなければうまく機能しない。

そのことを踏まえ、コンピューターを利用した記録速報について検討したい。

現在、大型映像表示装置が設置してある競技場では映像と記録発表を効果的に組み合わせ、競技会を盛り上げるとともに、競技を見る人にいろいろな意味で陸上競技に対して興味や関心を持てるようにする工夫をしている。その中で記録速報は、フィニッシュ付近に置かれたフィニッシュタイマー、フィールド各ピットに置かれた記録電光表示盤、また大型映像表示装置を利用して写真判定の結果をその場で見せるライブリザルトという手法が用いられている。すべて速報であるので、アナウンサーが「速報です。正式結果をお待ちください。」などとアナウンスしたり、大型映像には「判定中」等の文字を表示したりするなどして、今、どのような結果が競技場内に知らされているのか確認しながら、正式の結果をできるだけ迅速に正確に示す必要がある。

このような速報表示ができない競技場では、別の記録速報の行い方を検討する必要がある。フィニッシュタイマーやフィールド記録掲示板などがあれば、それを有効に活用して正確で迅速な記録速報を発表する工夫をしたい。また、正式結果をいち早くたくさんの人に伝えるために携帯電話で速報サイトにアクセスし、記録が確認できるようなサービスなども有効である。

その競技会に合った記録速報の形を決め、迅速かつ正確な発表ができるよう心掛けたい。

## 日本陸連主催・共催競技会 ラウンド通過と番組編成に関する申し合わせ

### A：トラック競技

1. レースの全部か一部に各自のレーンを用いる種目

- (1) 予選が2組の時のラウンド通過は着順＋記録上位とするが、予選を経た準決勝が2組の時は着順のみ(4着取り)とする。
- (2) ラウンド通過着に同着があるときは下記(3)の場合を除いて同着者全員を次のラウンドに進ませる。800mを除いて記録上位によるラウンド通過数を減じる。
- (3) 複数組のラウンド通過着に同着があり、記録上位によるラウンド通過数をゼロにしてもなおレーンが不足する場合は次の手順で通過者を決定する。
  - 1) 各組内の同着者で抽選し組内の着順枠通過者を決定する。
  - 2) 残りの枠は、前のラウンドの記録に関係なく、上記1)での抽選に漏れた競技者全員で抽選し次ラウンド進出者を決定する。

〈例1〉3組2着＋2の準決勝結果が以下の状況であった場合

第1組 1着 A君 2着 B君 2着 C君 4着以下省略

第2組 1着 D君 2着 E君 2着 F君 4着以下省略

第3組 1着 G君 2着 H君 2着 I君 2着 J君 5着以下省略

- 1) B・Cから1人、E・Fから1人、H・I・Jから1人を抽選によって選び着順枠の6人を決定する。
- 2) 残りの枠(8レーン競技場では2、9レーン競技場では3)は、上記1)での抽選に漏れた4人全員で抽選して決定する。

〈例2〉2組4着の準決勝の結果が以下の状況であった場合

第1組 1着 A君 2着 B君 3着 C君 4着 D君 4着 E君

第2組 1着 F君 2着 G君 3着 H君 3着 I君 3着 J君

- 1) D・Eから1人、H・I・Jから2人を抽選によって選び、着順枠の8人を決定する。
- 2) 9レーン競技場では、上記1)での抽選に漏れた2人で抽

選して1人を決勝進出者に加える。

Q: 第2組の落選者は3着同着なので、第1組の4着同着落選者よりも上位ではないか？

A: 第1組の落選者の格付けは組内で5番目、第2組の落選者も組内では5番目となるので同格とみなす。着順は組内で独立しており、他の組の着順と比較はしない。

(4) 救済措置があり、ラウンド通過数が増えた時の番組編成

1) 9レーン競技場の場合

前のラウンドで救済があった場合は9レーン目を使用し、救済者のレーン・シードは下位グループに含める。救済が無く、9レーン目が空いている場合は、前のラウンドの通過最終枠同着者を次のラウンドに進ませるが、同着者が複数ある場合は先に示した方法によって抽選して通過者を決定する。

2) 8レーン競技場の場合

準決勝は組数を増やすなどして対応するが、決勝は前のラウンドの着順あるいは着順+記録上位のみとし、前のラウンドでの救済は原則として行わない。

2. レーンを用いない種目

ラウンド通過中に同着がある場合は、その全員を次のラウンドに進ませ、記録上位による通過数は変えない。

**B: フィールド競技**

1. 予選を行う場合は各組の競技力が均等になるように編成する。
2. 決勝だけを行う長さの跳躍種目において、最初の3回の試技を2カ所に分けて行う場合は両組の競技力が均等になるように編成する。

## 一つのレーンに2人を入れることが出来る 800 m

前ラウンド通過後の100mから800mまでのレーンシードの方法は第166条4に示されているが、同条項〔国内〕で800m競走ではそれぞれのレーンで2人の競技者が走ってもよいとしている。

つまり、次のラウンドにタイムで進出する最終枠に同記録者がいたり、妨害を受けた競技者を審判長が救済したときなどは、この〔注意〕を適用して1つのレーンに2人を配置して、レーン数を超える競技者数で実施することが可能となる。

そうした状況下でしばしば議論されるのは「どのレーンに複数の競技者を配置するべきか」という問題である。競技規則に従って考えると1, 2レーンとなるが、接触等の安全面を考慮すると外側のレーンを使用すべきという意見がある。

ただし、近年の大規模競技会（例：日本選手権やゴールデングランプリ）では、外側レーンぎりぎりまで広告ボードがぐらりと配置され、不正スタート発見装置に連結しているスターティング・ブロックも外側レーンのぎりぎりに置かざるを得ない状況がある。したがって、一番外側の8レーンを避け、一つ内側の7レーンを使用することが適切であると言えよう。

当日、混乱をきたさないようにするためには、競技注意事項の中に「800m以上の種目で最終枠に同タイムがあった場合は、その全員が次のラウンドに進出できることとし、800mについては中位の第7レーンに2名の競技者を配置する」等のように明記しておくことを推奨する。

また10人で実施しなくてはならない場合は7, 8レーンの混雑を避けるために第7レーンの次には第2レーンに2人を入れるとよい。いずれの場合も外側レーンは中位グループで、内側レーンは下位グループで抽選する。

# 医師（医務員）

## 1 医師および医療チーム

### (1) 国際競技会役員

第110条で、世界選手権、オリンピック大会、ワールドカップ、エリア大会、エリア選手権大会において、医事代表およびアンチ・ドーピング代表を置くとされている。医事代表は、医事関係の事項について最終的な権限を有し、競技場において医学的検査、治療、救急医療を行える適切な施設の提供、および選手村における医療の提供を確保する（第113条）。アンチ・ドーピング代表は、ドーピング検査を行う適切な施設を整え、ドーピングコントロールに関する事項について責任を負う（第114条）。

### (2) 国内競技会

第120条で、主催者は競技会役員として医師（医務員）1人以上を任命することと規定している。規模の大きな競技会（都道府県選手権クラス以上）や道路競技会では医療活動を医師1人で行うのではなく、医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士などで構成される医療チームで行うべきである。道路競技では審判員を医務係としてチームに加え、救護車および収容バスに同乗させる。

参加する医療スタッフ全員は、主催者から競技会役員としての委嘱を受ける。

競技規則では医師の権限や任務についての記載はないが、競技会運営上、医師の判断や指示が必要な事項が多いため、その役割は重要である。代表的な事例は、競技中の医療処置である。競技中の競技者に対する助力は厳しく禁止されているが、主催者が任命した医療スタッフ（医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士など）による医療処置は、助力とはみなされない。第144条（競技者に対する助力）に「診察、治療、理学治療は、大会組織委員会に任命され、腕章、ベスト、その他識別可能な服装を着用した公式の医療スタッフが競技区域内で、または、この目的のために医事代表もしくは技術代表の承認を得たチーム付き医療スタッフが競技区域外の所定の治療エリアで行うことができる。」と記載されている。

競技者は、主催者が任命した医療スタッフから競技の中止を命じ

られたときは、ただちに競技をやめなければならない(第144条1)。現実的には、医療スタッフから競技者に対する競技中止の助言をもとに、主催者が競技者へ競技中断を指示することとなる。

## 2 資格

競技会における医療スタッフ(医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士など)には公認審判員の資格は不要である。しかしながら、医師については日本医師会による健康スポーツ医研修制度、日本スポーツ協会によるスポーツドクター研修制度、日本整形外科学会によるスポーツドクター研修制度が実施されているため、これらを修了したものであることが望ましい。また、陸上競技を行っていた、もしくは現在行っている医師は、競技規則にも精通しており、かつ陸上競技者の心身の変化を理解しやすいので適材であろう。スポーツ看護に関する研修制度はないが、スポーツ現場に精通している保健師・看護師がよい。保健師・看護師資格をもっている公認審判員も多く、このような審判員に医療チームに加わってもらおう。トレーナーは日本陸連が実施している陸上競技に特化したトレーナーセミナーを受講修了した者、または日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を持つ者が望ましい。鍼師、灸師、あん摩・マッサージ・指圧師、柔道整復師、理学療法士の資格を持っているトレーナーは、その資格の範囲内で競技者への対応も自ら行える。医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士は心肺蘇生術や自動体外式除細動器(AED)の取り扱いに習熟していることが求められる。

## 3 任務

医療チームの任務は、競技者、サポートスタッフ、競技会役員、ボランティアスタッフ、報道関係者、陸連関係者、観客およびVIPに対して医療サービスを提供することである。主催者は大会の規模により医事衛生委員会を組織し、事前の打ち合わせと適切な準備を行うことが必要である。

国内競技会の場合、医療サービスを行う場所の範囲は主に競技場とウォームアップ場であるが、国際競技会の場合には練習場、選手村、VIPホテルや報道関係者宿舎も含まれる。競技会の応急処置に対する医療サービス費用は主催者がまかなうのが原則である。しか

し、応急処置のみでは対応できない事態に備え、主催者は参加者全員を対象とする疾病・傷害保険に加入するか、もしくは参加者・参加チームに疾病・傷害保険への加入を義務づける。また、主催者は後方協力医療機関を前もって指定しておく。救急車を要請することもあるので、主催者は消防署救急隊へその旨を依頼しておく。競技会における医療サービスは応急処置を行うまでであることを競技会要項に明記する。

日本陸連（医事委員会）はドーピング検査を実施する国内競技会に対して、医事およびドーピングコントロールに精通したナショナルフェデレーションリプレゼンタティブ（NFR）を派遣する。NFRは日本陸連および主催者の立場で、競技会における検査、治療、救急処置についての設備を確保し、かつ日本アンチ・ドーピング機構（JADA）認定DCO（ドーピングコントロールオフィサー）と協同し、ドーピング検査が円滑に行われる設備を確保する。NFRが派遣される競技会では、主管都道府県陸協は医事確認書を日本陸連に送付し、NFRに情報提供をして必要であれば指示を受ける。

国際競技会の場合には、医事代表とアンチ・ドーピング代表がIAAFもしくはアジア陸連より派遣されるので、連絡を密に取り、競技会運営が円滑に行われるようにする。

#### 4 競技場における医務活動

主催者は医療関係者を任命する。主要国内競技会および国際競技会において、医療チームはメディカルステーション（医務室、救護室）、トレーナーステーション、スタジアム救護ステーションの3ステーション制を敷く。

メディカルステーションには医師、保健師・看護師が常駐する。主に競技場、ウォームアップ場において傷害を受けた者に対して応急処置を行うため、競技の進行や傷害の発症機転が把握でき、かつ傷害を受けた競技者の移送を考え、競技場フィニッシュ付近のトラックに面した場所が望ましい。トレーナーステーションは、ウォームアップ場の中でメインスタジアムへの動線に近いところに設置、スタジアム救護ステーションはメインスタジアムのフィニッシュ付近と第2曲走路あるいは棒高跳のピット付近に設置し、トレーナーが待機する。大会の規模により2班から5班の編成で行うことがあ

る。待機場所はトラック、フィールド両方の選手の競技が見える位置が望ましい。競技会役員が医療チームスタッフに必ず連絡がとれるようにするため、各ステーションには携帯電話、トランシーバーなどを用意することが望ましい。また、医療チームスタッフは、それとわかる目印となるものを身に付けるべきである。

メディカルステーションに備えておくべき物品と備品（表1）や薬剤リスト（表2）を挙げる。運動中の競技者・審判員や観客の心臓突然死防止のため、AEDを配備する。AEDはメディカルステーションの他、フィニッシュ付近および観客席などに複数準備されることが望ましい。医療記録および活動記録の整備もきちんとしておかなければならない。主催者および主管陸協は医師と必要物品について事前に連絡し合う必要がある。

5,000m以上のトラック競技では、気象状況に応じて、競技者に水とスポンジを用意することができる。10,000mを超えるトラック競技では、飲食物・水・スポンジ供給所を設けなくてはならない（第163条15）。熱中症発症の危険性が高いと判断する際には、できる限りWBGT計を用いる。競歩、道路競技、クロスカントリー等においても、競技者がレース中に水分補給できるように、主催者に指示する（第230条10、第240条8、第250条7）。

競技中に雷が発生した場合には、落雷事故を防ぐため、競技会主催者より競技継続または中断、中止に関する情報をただちに知らされるものとする。

## 5 ドーピングコントロール

競技会におけるドーピング検査（競技会検査）はIAAFから指示され実施するものと、JADAが日本陸連と協同で行うものがある。

ドーピングコントロールを実施する競技会は、その旨を競技会要項に記載する。また、IAAFおよびJADAは競技会外検査も実施する。

競技会外検査の対象となる競技者は主として、IAAFもしくはJADAの検査対象者登録リスト競技者である。

主催者は競技会役員としてシャペロン役員、検査室役員を任命する。それぞれの役員の要件はJADAにより定められている。JADAは、リードDCOおよびその他のDCOを決定する。DCOはリードDCOの指揮のもと、ドーピングコントロールステーションの設

営、採尿立ち会い、検査手続きなどを行う。採尿立ち会い DCO は競技者と同性でなければならない。日本陸連（医事委員会）より派遣される NFR は日本陸連および主催者の立場で、DCO と協同し、ドーピング検査が円滑に行われるようにする。ドーピング検査の対象競技者は基本的にリード DCO の指示により定まる。

シャペロン役員は20歳以上の成人とする。シャペロン役員はドーピング検査の対象競技者に通告し、それ以降、競技者に付き添う。

対象競技者は通告後、速やかに検査室に到着しなければならない。競技者が18歳未満の未成年の場合には、成人のサポートスタッフを通告時およびドーピングコントロールステーション入室時、検査時に付き添わせるように競技者に伝える。対象競技者から水分摂取の要求があれば、3本程度の中から対象競技者自身に選択してもらおう。シャペロン役員から直接手渡ししてはならない。主催者はシャペロン役員数について NFR に事前に確認しなければならない。検査室役員はドーピングコントロールステーションの設営、セキュリティの確保、対象競技者などの受け入れ、他の競技会役員との連絡調整などを行う。

ドーピングコントロールステーションは独立した区画で、対象競技者の競技終了後の動線と、関係者以外の出入りをコントロールできるセキュリティを考慮して配置する。検査室は、1. 受け付け、2. 待合室、3. 検査手続き室、4. 採尿室（トイレ）で構成される。実施する検査数の規模により広さや採尿室数は異なる。血液検査が実施される場合には、採血室を準備する。詳細については、当該競技会 NFR およびリード DCO に確認する。

ドーピングコントロールステーションにおいて必要な物品について挙げる（表3）。ドーピング検査を新たに実施する希望のある競技会は、事前に日本陸連事務局まで相談すること。

ドーピングコントロールについては陸連発行「クリーンアスリートをめざして2018」、またはその最新版および JADA ホームページを参照のこと。

国際競技会では国際陸連もしくはアジア陸連より派遣されるアンチ・ドーピング代表の指示に従う。同記録を含む世界記録、アジア記録、日本記録（日本記録はオリンピック種目のみとする）を樹立

した競技者は、ドーピング検査を受けないと新記録（もしくは同記録）として認められないので、競技者は主催者もしくは審判長にドーピング検査を申し出なければならない。なお、同記録を含む世界記録とアジア記録は、U20およびU18のものを含むものとする。

世界記録の検査費用は主催者が負担する。海外での国際競技会では、エリア記録、日本記録の検査費用は、競技者個人の立替払いとし、帰国後日本陸連が検査費用を弁済するものとする。

海外の競技会において、日本記録を樹立した場合で、ドーピング検査が行われなかった場合には、日本に帰国後ただちに、ドーピング検査を受けなければならない。ドーピング検査を帰国後すぐに受けられるように競技者は陸連事務局へ連絡しなければならない。検査費用は日本陸連負担である。対象者は、ドーピング検査を受けるまで禁止薬物を摂取することがないように注意しなければならない。

国内競技会において、同記録を含む日本記録（オリンピック種目のみとする）を樹立した場合、ドーピング検査を通告後24時間以内に受ける必要がある。主催者は日本陸連事務局員にただちに電話連絡を行い、ドーピング検査の実施方法について確認する。検査費用は主催者が負担する。

18歳未満の競技者については親権者からドーピング検査に関する同意書を得る。そのことも大会要項に記載されるべきである。未成年の競技者が検査対象となった場合には、NFRが本人から同意書を受け取り、日本陸連に送付する。万一検査時に同意書が取得できなかった場合には、日本陸連に連絡するとともに、検査後7日以内に本人から日本陸連事務局に直接郵送してもらう。DCOは同意書の取得に全く関与しないので、NFRが責任を持って行わなければならない。また、この同意書は1度提出されれば、それ以降の検査時に提出する必要はない。

## 6 トレーナー活動

トレーナーはそれと明示されたビブス等を着用する。トレーナー活動は、トレーナーステーション班とスタジアム救護ステーション班で構成される。トレーナーは競技者の安全確保のため、トランシーバーなどを用い、メディカルステーションと緊密な連絡を行わなければならない。

トレーナーステーション班は競技者のコンディショニング活動を行う。通常はウォームアップ場付近に設営される。トレーナーの人数に合わせてマッサージベッドが必要である。治療器を用いることも多いため、屋外に設営される場合でもAC電源の準備は必要である。設備について挙げる(表4)。応急処置に必要な氷(アイシング用)を分量用意する。

スタジアム救護ステーション班は、競技中に受傷した競技者に対して、現場にて緊急的処置を行い、または担架/ストレッチャーにてメディカルステーションに搬送する。通常は第1曲走路入口付近と第2曲走路入口付近に設営する。棒高跳の場合には、ピット付近へ移動する。応急処置に必要な氷を用意する。AED配備も行う。

## 7 道路競技における医務活動

スタート、フィニッシュ地点には必ずメディカルステーションを設置する。また、走路上に救護テントを設置する。医師、保健師・看護師、救急救命士などを配置する。メディカルステーション、救護テントにはAEDを配備する。

熱中症発症の危険性が高いと判断する際には、できる限りWBGT計を用いる。道路競技、クロスカントリー等では、競技者がレース中に水分補給できるように、主催者に指示する(第240条8, 第250条7)。

競技者は、医師または主催者が任命した医療スタッフから競技の中止を命ぜられたときは、ただちに競技をやめなければならない(第144条1)。

第144条1.4「助力」に関する規則では、主催者が任命した医療スタッフが行う理学療法や医療処置は助力とは見なさないとしているが、「上記(公式の医療スタッフが競技区域内で、または、この目的のために医事代表もしくは技術代表の承認を得たチーム付き医療スタッフが競技区域外の所定の治療エリアで、行う)以外の他者によるこのような介助や手助けは、競技者がひとたび招集所を出た後は、競技開始前であろうと競技中であろうと、助力である。」と規定している。しかしながら、この条項は主として競技場内で実施される種目に関して規定されたものであり、競技が広域にわたって展開される道路競走では医療スタッフが直ちに現場に到着できないことが

多いので、主催者は緊急事態が発生した場合に臨機応変に対応できるように、医療スタッフが到着するまで、監察員や走路管理員に医療スタッフの権限の一部を付託しておく。

AEDを配備した移動救護車、収容バスを用意し、医療スタッフを同乗させる。十分な飲料、毛布などを準備する。競技者を収容したらただちに、大会本部へ競技者名とナンバー、収容地点を連絡する。

主催者は後方協力医療機関を前もって指定しておく。医療機関に対しては、道路競技があることを事前に連絡しておくとうまい。救急車を要請することもあるので、主催者は消防署救急隊へその旨を依頼しておく。

## 8 医師不在の場合

様々な理由で、主催者が医師を任命できない場合がある。主催者は審判のなかから、医療スタッフを任命し、後方協力医療機関や救急隊へ連絡がとれるようにしておく。公認審判員のなかの保健師・看護師免許をもつ者、もしくは救急救命士で心肺蘇生術に習熟し、AEDを取り扱うことのできる者が望ましい。

主催者から任命された医療スタッフは、競技者に競技中断を命じることができる。

## 9 選手村、VIPホテル、報道関係者などの宿舎における医務活動

世界選手権などの国際競技会では、宿舎において医療サービスを提供する。宿舎には医務室を設け、医療チームスタッフが対応する。夜間はオンコール体制とし、24時間対応できるように準備する。

地元医師会へ医師、保健師・看護師の派遣を依頼し、後方協力医療機関を決めておく。

トレーナーサービスも不可欠である。各国選手団が自由に使えるように、マッサージ台を備えたマッサージルームを確保する。

細かな点については医事代表の指示に従う。

## 陸上競技大会・ロードレース大会医事確認書

この確認書は、大会医事運営を滞りなく行うために必要なチェックリストです。

陸上競技審判ハンドブックを参照し、チェック項目を確認のうえ準備を進め、大会2週間前に陸連事務局 (FAX: 03-5321-6591 もしくは Email: kudo@jaaf.or.jp)へご回答下さい。

大会名 \_\_\_\_\_

場所 \_\_\_\_\_

競技会開催日 20\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日から\_\_\_\_日まで

総務ご担当者 \_\_\_\_\_

携帯電話 \_\_\_\_\_

### 1 医師または医療チーム

統括医事責任者(メディカルディレクター) 氏名 \_\_\_\_\_

医師総数 \_\_\_\_\_名 看護師 \_\_\_\_\_名

トレーナー \_\_\_\_\_名 救急救命士 \_\_\_\_\_名

### 2 スタジアムでスリー・ステーション制を採用する

はい \_\_\_\_\_ いいえ \_\_\_\_\_

### 3 スタジアムでのステーション設置場所

メディカルステーション \_\_\_\_\_

トレーナーステーション \_\_\_\_\_

スタジアム救護ステーション \_\_\_\_\_

### 4 ロードレースでの救護所設置場所 \_\_\_\_\_

### 5 物品等のチェック

医療用備品チェック  確認済

医薬品チェック  確認済

自動体外式除細動器(AED) 配備  確認済 ( 台数\_\_\_\_台 )

### 6 後方協力病院への連絡 連絡済

病院名 \_\_\_\_\_

連絡電話番号 \_\_\_\_\_

### 7 日本陸連医事委員会へ連絡事項などがあれば、ご記載ください。

記入者 \_\_\_\_\_ 連絡電話番号 \_\_\_\_\_

記入日 \_\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

表1 メディカルステーションの設備、備品

下記の設備、備品は競技会規模やメディカルステーションの広さによって異なる。原則として競技場設備として考える。

流し	1台 (お湯も出る)	
診察用机	1台	
診察用椅子	2脚	
ベンチ	1台	
血圧計	2台	
診察用ベッド	1台 (トレーナー用ベッドのように硬めのもの)	
休養用ベッド	2台	
毛布	4枚	
シーツ	4枚	
まくら	3つ	
まくらカバー	3枚	
バスタオル	5枚	
酸素ボンベ	1本 (充填されているもの)	
携帯用酸素ボンベ	2本	
鼻カニューラ	2本 (ディスポーザブル)	
洗面器	2ヶ	
大型製氷機	1台	
小ビニール袋	20枚 (アイシングのために必要)	
冷蔵庫	1台	
ロッカー	2台	
場内モニターテレビ	1台	
点滴架台	2台	
担架	2本	
ストレッチャー	1台	
電話	1台	
ビニールゴミ袋	5枚	
WBGT計	1台	

自動体外式除細動器    AED    複数台

車椅子の配備も検討すること。

表2 メディカルステーションの医薬品と医療用品・医療器具

## I. 競技会医薬品（代表的薬剤名をあげる）

## (A) 医療用医薬品

(\*：禁止物質であるため、取り扱いに注意を要する)

1. 抗生物質	
ケフラール、セフゾン、クラビット のうち1もしくは2	
2. 抗ヒスタミン剤	
タベジール、ニボラジン のうち1もしくは2	
3. 鎮痛解熱剤、抗炎症剤	
ロキソニン、ボルタレン、パファリン のうち1もしくは2	
4. 抗不安剤、鎮静剤	
セルシン	
5. 電解質溶液	
0.9%生理食塩水 500ml(TUE必要)、20ml	
乳酸リンゲル液 500ml(TUE必要)	
5%ブドウ糖液 500ml(TUE必要)	
20%ブドウ糖液 20ml	
6. 眼、耳、鼻	
タリビット点眼薬	
ブリビナ鼻用	
7. 気管支用	
メディコン、レスプレク、ノレプタン のうち1もしくは2	
8. 胃腸薬	
セルベックス	
ガスター	
ブスコパン	
9. 局所麻酔剤、抗炎症剤	
リドカイン1%注（局所注射用）	
デカドロン注	
10. 交感神経刺激剤	
(i) エピネフリン注（*：TUE）	
(ii) サルタノール エアゾル	
11. 狭心症治療薬	
ニトロール舌下錠	

TUE：治療使用特例の申請が必要。

メディカルステーションはOTC薬で代用可能である。

(B) 一般用医薬品 (医師の処方箋なく、薬局で購入できる医薬品)

解熱鎮痛薬	バファリンA、イブ
総合感冒薬	新エスタック12
鎮咳・去痰薬	スカイナーせき・たん用
胃腸薬	ガスター10、ブスコパンA錠、新三共胃腸薬
アレルギー用薬	アレルギーール錠
点鼻薬	バブロン点鼻Z
目薬	サンテドウ
うがい薬	バブロンうがい薬
皮膚外用薬	バンテリンコーワ

II. 競技会医療用品と医療器具

1. テープ	
40mm	
25mm	
25mmエラスティックテープ	
75mmエラスティックテープ	
アンダーラップ	
75mm弾力包帯	
150mm弾力包帯	
3Mテープ (翼状針用)	
2. 消毒用	
滅菌ガーゼ 大、小	
アルコール消毒	
イソジン消毒	
ソフラチュール	
綿球	
7.5cm × 20cm粘着被覆材 (adaptic dressings)	
ディスポ消毒セット (セッシ、ハサミ、ガーゼ、綿球入り)	
3. 注射器/注射針	
5ml注射器 注射針つき	
10ml注射器 注射針つき	
20ml注射器	
注射針 18、21、23ゲージ	
点滴セット	

駆血帯	
4. 診断用医療用具	
聴診器	
血圧計	
ペンライト	
パルスオキシメーター	
打鍵器	
電子体温計 または 鼓膜体温計（測定部カバー付き）	
5. 蘇生用機器	
自動体外式除細動器（AED） 複数台	
可能ならば アンビューバッグ	
可能ならば 携帯用心電計	
6. その他	
XL バンドエイド	
25mm バンドエイド	
綿棒	
バラマイシン軟膏	
ディスク舌圧子	
ディスク外科用メス, #11 と #15	
ディスク検査用手袋 (M, L)	
ペアン	
ウエルバス 300ml (手指消毒用)	
シップ剤	
7. 非消耗品	
1リットルスクイズボトル 洗浄用 (0.9%生食)	
頸椎カラー ポリネック (M, L)	
ソフトシーネ 下肢用、上肢用	
ハサミ	
三角巾	

表3 ドーピングコントロールステーションの備品

DCOが準備する書類、器材以外に競技会主催者が用意するもの  
 競技会の規模により、備品の準備は異なる  
 血液検査を実施する場合には、事前に別途相談を要する

受け付け	机	1台		
	椅子	2脚		
検査手続き室	机	2台		
	椅子	6脚		
	ハサミ	2ヶ		
	水洗トイレ	1式		
	(十分広くて、採尿の立ち会い役員も一緒に入ることができる。検査数によって複数あることが望ましい。検査手続き室付随)			
待合室	机	1台		
	椅子	10脚		
	ソファ	1台		
	毛布	5枚		
	冷蔵庫	2台		
	(1台は飲料保冷用で待合室に設置する、1台は検体保冷用で錠がかかり検査手続き室に設置する)			
	競技者用飲み物			
	ミネラルウォーター	適量 (カン入りが望ましい)		
	スポーツドリンク	適量 (カン入りが望ましい)		
	(適量とは500mlまでの大ききさでドーピング検査数の3倍程度である。) なお、カン入り飲料入手困難ならば、ペットボトル可			
	テレビ	1台	待合室に設置	
	電話	1台		
	ごみ用ビニール袋	5枚		
	ガムテープ	1巻		
	ティッシュペーパー	3箱		
ウェットティッシュ	1箱			
ボールペン	10本			

表4 トレーナーステーション用設備

## 1. トレーナーステーションが屋外の場合（大会主催者が準備する）

規格は大会規模によって変動する場合がある。

(1)	テント：2張り～3張り（40～60㎡）	
(2)	横幕：四方を完全に覆うもの	
(3)	床板：パネルによって床全体を覆うもの（雨天に備えて高さ10cm程度が必要である）	
(4)	電源：電源ドラム1～2基（治療機器に使用）	
(5)	照明：電灯の設置（日没後に活動する場合）	
(6)	サインボード（日本陸連トレーナーステーション）	

## 2. 共通設備（大会主催者とトレーナーが事前に相談して決定する。

一部、陸連トレーナー部で所有するものがある。）

(1)	マッサージベッド：2～10台	
(2)	救急キット：1～3セット（スタジアム救護班2セットを含む）	
(3)	固定装具（リストA）1～3セット （スタジアム救護班用2セットを含む）	
(4)	テーピング用品（リストB）	
(5)	衛生材料（リストC）	
(6)	アイスボックス：大型1～3台	
(7)	トランシーバー：メディカルステーション1、 トレーナーステーション1、スタジアム救護2	
(8)	治療機器：活動するトレーナーの所有資格による。 ホットパック、低周波治療器、超音波治療器、その他の治療機器	
(9)	テーブル：折りたたみテーブル3～10台	
(10)	イス：5脚～15脚	
(11)	担架：1台	
(12)	パーテーション：4～8面（プライバシー保護用）	
(13)	ゴミ箱	
(14)	バスタオル 30枚/日、フェイスタオル30枚/日	
(15)	その他トレーナー活動に必要なもの	

### 3. スタジアム救護ステーション用設備（2セット）

（大会主催者とトレーナーが事前に相談して決定する）

(1) 固定装具（リストA）	
(2) テーピング用品（リストB）	
(3) 救急キット（リストC）	
(4) 担架およびバックボード	
(5) トランシーバー	
(6) アイスボックス（携帯用）	
(7) イス	

#### 【リストA】 固定装具

副子（各部位、各サイズ）	
エアスプリントまたはバキュームスプリント	
頸部固定装具（各サイズ）	
三角巾	
その他の固定装具	

#### 【リストB】 テーピング用品

非伸縮性テープ 12mm、25mm、38mm、50mm	
伸縮テープ（ハード）25mm、50mm、75mm	
伸縮テープ（ソフト）50mm、75mm	
伸縮テープ（キネシオソフト）25mm、50mm、75mm	
アンダーラップ	
ラバー（スポンジ）パッド（各種）	
粘着スプレー	
リムーバースプレー	
コールドスプレー	

【リストC】衛生材料：（救急キットの内容を含む）

滅菌ガーゼ（S、M、L）	
カット綿	
洗浄綿	
滅菌綿棒	
サージカルテープ（12mm、25mm）	
圧迫用伸縮包帯（75mm、100mm、150mm）	
医療用伸縮包帯（50mm、75mm）	
バンドエイド（各種）	
アイスバッグ	
テープシザーズ	
テープカッター	
ラテックスグローブ	
CPRマスク	
手指消毒液	
創傷用消毒液	
ワセリン	
ビニール袋（40cm以上）	
マッサージ用パウダー	
マッサージ用ローション	
マッサージ用オイル	
各種軟膏類	
スクイズボトル（洗浄用）	
その他衛生材料	

# 競技会ドーピング検査 (ICT) の手順

## 1 ドーピング検査対象競技者の選び方

特定の競技者を選ぶこともある（ターゲット検査）が、通常 JADA から対象種目と順位が事前に指定されていることが多い。学生選手権など複数の種目にエントリーしている選手が多いと考えられるケースなどで、JADA による指定が競技運営上不適切と思われるようであればリード DCO と相談の上、変更を依頼することも考慮する。予選、決勝を問わず競技会参加者は誰でも検査対象となる可能性がある。

同記録を含む世界記録、アジア記録、日本記録（日本記録はオリンピック種目のみとする）を樹立した競技者は、ドーピング検査を受けないと新記録として認められないので、競技者は主催者もしくは審判長にドーピング検査を申し出ること。

- (1) 海外での国際競技会では、世界記録の検査費用は主催者が負担する。エリア記録、日本記録の検査費用は、競技者個人の立替払いとし、帰国後日本陸連が検査費用を弁済するものとする。
- (2) 海外の競技会において、日本記録を樹立した場合で、ドーピング検査が行われなかった場合には、日本に帰国後ただちに、ドーピング検査を受けなければならない。ドーピング検査を帰国後すぐに受けられるように、競技者は陸連事務局へ連絡しなければならない。検査費用は日本陸連負担である。
- (3) 国内競技会において、日本記録（オリンピック種目のみとする）が樹立された場合、ドーピング検査を通告後 24 時間以内に受ける必要がある。NFR は日本陸連事務局員にただちに電話連絡を行い、ドーピング検査の実施について確認する。DCO も直接 JADA に連絡するので、調整を図る。検査費用は主催者が負担する。NFR が派遣されない大会においては主催者から連絡してもらおう。

連絡先：日本陸連事務局

- ※ 該当が予想される大会の担当者は事前に詳細を日本陸連事務局に問い合わせをすること。

## 2 対象競技者への通告とドーピングコントロールステーションへの来訪

シャペロン役員は競技終了後速やかに、対象競技者に対して「ドーピング検査の対象である」ことを伝える。その競技者は承諾書に署名し、競技者は監視下におかれる。署名の拒否はドーピング検査拒否で、アンチ・ドーピング規則違反と判断される。対象競技者が署名した時刻（24時間制）が承諾書に書き込まれ、競技者は速やかにドーピングコントロールステーション（DCS）に到着しなければならない（2009年よりDCSへの到着は通告後1時間以内ではなく、通告後速やかにと変更された）。競技者は、監督、コーチ、ドクター、トレーナーなどの成人を一人だけ同伴者として一緒に連れて行くことができる。国外の大会では通訳も一人同伴可能である。未成年者は前記同伴者がいる前で通行を受ける必要がある。ただし、ドーピング検査のプロセスでは18歳以上を成人としてみなすため、18歳および19歳の対象者についてはこの限りではない。明確な理由がなく、DCSに速やかに到着しないと、ドーピング検査拒否と判断され、アンチ・ドーピング規則違反と判断されることがある。通告後はシャワーを浴びたり、トイレを利用したりすることはできず、着替えもDCO監視下で行う。インタビューや表彰などの時は、シャペロンが付き添う。

## 3 ドーピングコントロールステーションでの作業

DCSは待合室、検査室、採尿室で構成される。検査室役員は、競技者を承諾書とナンバーカードで確認、受付をする。ADカードがある国際競技会ではAD確認をする。DCOは本人確認のために写真付きID提示を要求するので、対象者にパスポート、学生証などを用意させる。競技者は、十分な量の尿が出そうでないと思ったら、待合室に用意されているスポーツドリンクやミネラルウォーターを飲んでゆったりと待機する。飲み物は冷蔵庫などから自分でとり、きちんと封がなされていることを自分で確認する。ただし、尿検体の低比重化を避けるために飲み物を飲み過ぎないように注意する。開封後に一旦目を離した飲料は、何らかの異物が混入される可能性も考慮して絶対に口にしない。尿が出そうな時はDCO

にその旨を告げて、待合室と一緒に付き添ってきた同伴者と一緒に検査手続き室に入る。手順については、DCOの指示に従い、水で手を洗った後、密封された採尿カップを1つ選び、競技者と同性のDCOと一緒に採尿室に入り90ml以上の尿を採尿する（2009年より最低量が75mlより90mlになった）。同伴者は特別な場合以外は、採尿室には入らない。検査対象競技者が18歳未満の場合、同伴者（競技者と同性でなくとも可）はDCOを採尿室の外から監視できる。競技者は検査手続き室へ戻り、検査キット（ペレーグキット）を1つ選ぶ。DCOの指示に従い、競技者自身がキットを封印しているセロハンをはがし、キットを開封する。A容器、B容器、検体番号ラベルを取り出し、すべての番号が同一で、かつ外箱の番号と同一であることを確認する。

競技者は容器のフタを開け、まずB容器に30mlの尿を注ぎ、続いてA容器に残りの尿60ml以上を注ぎ、フタをしっかりと閉める（これをA検体、B検体と呼ぶ）。A、B検体をビニール袋に入れてキット内に戻し、蓋をする。ビニール袋に入れるのはDCOでも競技者、同伴者でもよい。DCOは採尿カップに残った尿の比重を測定し、各種物質の分析に適した尿検体であるかどうかを確認する。尿比重は1.005以上が必要で、尿比重がそれ未満の場合には、JADAが結果管理する競技会では検査を繰り返すが、次の採尿までの時間間隔の規定はない。また、JADAの指示により、尿比重が基準を満たさなくとも終了することがある。しかしながら、国際陸上競技連盟が管理する競技会では尿比重が1.005以上になるまで、繰り返される。次の採尿までの時間間隔は1時間以上空けなければならない。1時間以内に尿意を催した場合には、監視下で排尿するが、尿検体としては採尿しない。

競技者は使用した薬物やサプリメントに関して申告することができる。申告を行うかどうかにかかわらず、禁止物質が検出されればアンチ・ドーピング規則違反となる可能性が高い。ただし、治療使用特例（TUE）を受けている場合には、その許可証もしくはコピーをDCOへ提出する。救急治療や急性病状の治療で禁止物質や禁止方法を使用した場合は、事後であっても遡及的TUEを申請する必要がある。この場合、通常の申請条件に加え、「緊急性を証明する

医療記録」が必要になる。(予め TUE の提出が必要とされている大会以外で禁止物質が検出された場合には、遡及的 TUE の提出が求められることもある)。DCO がドーピング検査公式記録書に記入終了後、署名を行い、同伴者と競技者は記載内容を確認する。問題なければ同伴者が署名し、競技者が最後に署名する。競技者は競技者用のコピー（ピンク色）をもらい、これで競技会ドーピング検査は終了する。尿検体は世界アンチ・アンチ・ドーピング機構認定分析機関である LSI メディエンスへゆうパケットで送られる。

一度の採尿で 90 ml に足りない場合には、部分検体となる。部分検体を安全に保管するため DCO の指示に従い、部分検体キットとベレーグキットを選び、ベレーグキットより A 容器のみを取り出す。採取された尿すべてを A 容器に入れ、部分採尿キットの白いフタを用いて閉める。A 容器をベレーグキットに戻し、外箱を閉めて部分検体保存用のビニール袋に入れる。DCO は部分検体に記載された番号をドーピング検査公式記録書に記載する。部分検体の入ったベレーグキットは DCO が保管する。競技者は待合室で水分補給をし、尿をためる。

同様の手順で再度、採尿カップを選び採尿を行う。部分検体が正しく保管されていたことを、DCO と競技者が確認し、競技者が A 容器を取り出す。新たに尿カップを選び、その中に 1 度目に採尿した A 検体尿を注ぎ、次いで 2 度目に採尿した尿を注ぎ入れ、総量が 90 ml 以上とする。十分な量があれば、上記のように検査は進むが、足りなければ再度部分検体となる。

待合室で水、スポーツドリンクなどの飲み物は準備される（ビールなどのアルコール飲料は準備されない）が、食事の準備はない。

競技者は自己責任のもと、自分で準備した飲み物および食事を摂ることは可能である。

ひとたび検査室に入ると室外に出られないのが原則であるが、表彰、インタビュー、医師やトレーナーによる治療、もしくはクーリングダウンが必要な時は DCO に相談し、シャペロンの付き添いのもと、室外へ出ることを許可されることがある。

DCS 内では写真撮影、ビデオ撮影は禁止され、検査手続き室では携帯電話の使用も禁止される。

また、NFRはDCSで検査に立ち会うことができる。

18歳未満の競技者については、親権者からドーピング検査に関する同意書を取る。そのことも大会要項に記載されるべきである。未成年の競技者が検査対象となった場合には、NFRが本人から同意書を受け取り、日本陸連に送付する。万一検査時に同意書が取得できなかった場合には、日本陸連に連絡するとともに、検査後7日以内に本人から日本陸連事務局に直接郵送してもらう。DCOは同意書取得に全く関与しないので、NFRが責任を持って行わなければならない。また、この同意書を1度提出すれば、それ以降の検査時に提出する必要はない。

#### 4 血液検査

ドーピング検査の一環（アスリートバイオロジカルパスポート）として血液検査が行われる大会もある。通常大会の1～2日前に宿舎などで採血を行う。特に指定がなければ運動終了後2時間以降に採血する。通告書にサインをした後、検査室で椅子に座り、両足が地面についた状態で10分間安静にする。もし途中で立ち上がるとその後座った時点から再度10分間の安静が必要となる。18歳未満の競技者は通告書にサインをする時点から成人の同伴者がいなければならない。

検査に使用する器具を3つ以上の中から選択し、番号などを確認した後BCO（Blood Collection Officer）が採血を行う。以前の採血で気分が悪くなるなどの経験があれば横になって採血してもらうことも可能である。3回穿刺して必要な量の採血ができればその時点で検査は終了する。この場合は検査未了とはみなされない。

検査終了後の手順は尿検査と同じである。

# 公式計測員

## 1 任務

競技会前に公認陸上競技場のマーキングと競技施設の正確性を確認し、その旨を技術総務に報告する。これを確認するために、競技場の設計図、図面および最新の計測報告書を閲覧できるようにしなければならない。(第135条〔国内〕)

上記の任務のほか、用器具について技術総務に代わって確認する。(第123条〔国内2〕)

また、公式計測員は技術総務が兼任するときもある。

公式計測員は、2018年の国際陸連の競技規則から削除された。国際大会では複数の技術総務が分担して任務にあっている。

## 2 留意点

国内の公認競技場は、「公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競走路規程」等に基づき検定を実施し、公式の陸上競技会を開催し得る十分な精度のある適切な施設であると認定している。

競技会では、次の事項について点検、確認をし、技術総務に報告する。また、検定報告書を閲覧できるようにする。

- (1) トラック1周の距離の確認…検定時の計測結果を確認し、縁石が正しく設置されているか状況を確認する。
- (2) 走路の確認…検定時の計測結果を確認し、走路の状態を確認する。
- (3) 走高跳跳躍場の確認…検定時の計測結果を確認し、着地場所と助走路の状態を確認する。
- (4) 棒高跳跳躍場の確認…検定時の計測結果を確認し、着地場所と助走路の状態及ボックスの設置状況を確認する。
- (5) 走幅跳、三段跳跳躍場の確認…検定時の計測結果を確認し、砂場、踏切板、助走路の状態を確認する。
- (6) 砲丸投投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し、サークル、着陸場所(落下域)、足留材の設置状態を確認する。投てき角度、距離ラインを確認する。
- (7) 円盤投投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し、サークル

の状態を確認する。投てき角度, 距離ライ, 囲いの設置を確認する。

- (8) ハンマー投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し, サークル, 兼用サークルの設置状態を確認する。投てき角度, 距離ライン, 囲いの設置を確認する。

囲いの開口部までの距離, 高さが円盤投と異なるので注意する。

- (9) やり投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し, 助走路の状態を確認する。投てき角度, 距離ラインを確認する。

- (10) 障害物競走設備の確認…検定時の計測結果を確認し, 水濠, 固定障害物, 移動障害物の位置・高さを確認する。スタートから第1障害まで70mを確保するため第1障害を移動する競技場があるので, 注意する。

- (11) 各スタートライン, テイク・オーバー・ゾーン, ブレイクライン, ハードルの位置の確認。…検定時の計測結果を確認する。標識タイルからスタートライン, テイク・オーバー・ゾーン, ハードルの位置を設置する時には, 技術総務, 用器具係主任と連携して, 標識タイルから正確に設置する。

2段式スタートの縁石の設置状態を確認する。

- (12) フィールド内のレベル確認…検定時の計測結果を確認する。  
(13) 計測器具の確認…鋼製巻尺, 走高跳用高度計, 棒高跳用高度計, 電気距離計測装置, 跳躍距離透視計測器等を確認する。  
(14) 公式用器具の確認…競技規則に規格のあるものは競技開始前に検査しておく。

本連盟が主催, 共催する競技会では, 用具は主催者が用意する。これらの競技会で競技者は他のいかなる用具も使うことはできない。しかし, 総務は該当する競技注意事項等により, 競技者個人所有または製造会社提供の用具の使用を認めることができる。国際競技会では, IAAFが認証した器具でなければならぬ。(第187条)

主催大会では, 世界記録, エリア記録が達成された時に使用された用具を競技終了後に再検査する必要(第260条が17.(d))があるので, 事前に番号を付けておく。



検定品 焼き鋳・ボンチ



検定品シール



IAAF 認証シール

- (15) 借り上げ公式用器具の検査…本連盟が主催、共催する競技会において、主催者が用意した投てき用具としてリストに記載されていないものを競技注意事項等で借上げを認めることができる。本連盟検定済みのもので競技前に主催者により検査を受け合格のマークが記したものでなければならない。(第187条2〔国内〕) 個人の投てき用具の借り上げを許可した競技会では、持ち込まれた本連盟検定済みの器具を検査する。検査に合格した投てき用具には検査シールを貼付するかマークをする。

国際大会では IAAF 認証の器具でなければならない。

検査申請書例

投てき用具 検査申請書 (東京陸協)				
受付日時	月	日	時	分
預かり用具	やり			
メーカー・名称 色・等				
記載例	ノルディック ダイアチクラシッド 青色 : ニシ ロング DR R.Q.10 赤色青丸			
所属				
氏名 (持ち主)		選手名		
携帯電話:(連絡先)				
<small>※この部分は強直し、「投てき器具」と共に公式計測員に引き継ぐこと</small>				

検査合格シール例



投てき用具 預かり証 (本人控)

投てき用具 預かり証 (本人控)				
受付日時	月	日	時	分
預けた用具	やり			
メーカー・名称 色・等				
記載例	ノルディック ダイアチクラシッド 青色 : ニシ ロング DR R.Q.10 赤色青丸			
所属				
氏名 (持ち主)		選手名		
携帯電話:(連絡先)				
<small>※競技終了後の返還もこの場所です。 この用紙と併せて投てき器具をお渡します。</small>				

- (16) マラソンコース、競歩コースの確認…競技会当日のコースが計測されたコースとの合致しているか確認する。競技に支障となる個所のコーン等の位置、スタートライン、フィニッシュライン、折り返し点、中間点、5km毎等のポイントを確認する。

## 借り上げ用器具の検査方法

国内競技会では、本連盟の検定品で規格に合った物だけが使用できる。規格に一致しているか、技術総務に代って、公式計測員が以下の要領で検査を行い、合格したものには印またはシールを貼付する。

競技場に備え付けの用器具の一覧を作成しておくといよい。

国際陸連 (IAAF) 主催等の国際大会では IAAF 認証した製品でなければ使用できないので、IAAF 認証シールのみで借り上げ検査を行うことになるので注意する。

### (1) 砲丸

- ① 本連盟の検定印 (刻印) または検定シールがあるか。
- ② 完全な球形で滑らかであるか、変形がないか確認する。
- ③ 振って音がしないか、ガタツキを確認する。
- ④ 規格を調べる。…重量, 直径を確認する。

◆検査に必要な器具…はかり, 砲丸検定器 (ない場合=直径を計れるノギス・キャリバー)

### (2) 円盤

- ① 本連盟の検定印 (刻印) 又は検定シールがあるか。
- ② 外側の縁 (枠) の表面はでこぼこがなく, 仕上がり全体は滑らかであるか, 板のヒズミ, 傷, 変形を確認する。
- ③ 振って音がしないか, ガタツキを確認する。
- ④ 規格を調べる。…重量, 直径, 縁の外側の直径, 金属製の平板の直径, 中心部の厚さ, 外縁の厚みを確認する。

◆検査に必要な器具…はかり, 円盤検定器 (ない場合=厚みを計れるノギス・キャリバー)

### (3) ハンマー

- ① 本連盟の検定印 (刻印) または検定シールがあるか。
- ② 頭部は完全な球形であるか, 変形を確認する。
- ③ 振って音がしないか, ガタツキを確認する。
- ④ ベアリングまたはボールベアリングが回転するか確認する。
- ⑤ 接続線 (ワイヤー) が屈折していないか, テープ等で補

修していなか、確認する。

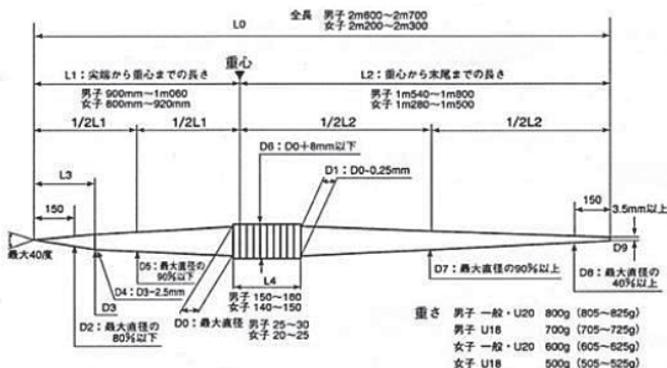
- ⑥ 規格を調べる。…重量，直径，ハンドルの内側よりの全長の検査，重心の検査（ツルを外して検査）を確認する。

◆検査に必要な器具…はかり，ハンマー検定器（ない場合＝直径を計れるノギス・キャリパー，メジャー），重心検査器

(4) やり

- ① 本連盟の検定シールがあるか。
- ② 表面が滑らかであり，湾曲部分がないか確認する。
- ③ グリップの紐がほころんでいないか確認する。
- ④ 規格を調べる。…重量，全長，先端から重心までの距離，定められた位置とその直径，グリップの幅を確認する。

◆検査に必要な器具…はかり，ノギス，計算機，やり検定器（ない場合＝重心を計測する山型の部材，メジャー）



Lengths 長さ 単位: mm			Diameters 直径 単位: mm					
記号	説明	Range 範囲	Measurements 測定法	記号	説明	Maximum 最大	Minimum 最小	Measurements 測定法
L0	Overall 全長	2800~2700		D0	In front of grip グリップの直前部分	30	25	
L1	Tip to C of G 先端から重心まで	900~1080		D1	Aft of grip グリップの直後部分	D0	D0-0.25mm	
1/2-L1	Half L1 L1の半分	-		D2	150mm from tip 先端から150mm	D0D90%	-	
L2	Tail to C of G 末端から重心まで	1540~1800		D3	Area of head 頭部直後部分	-	-	
1/2-L2	Half L2 先端から1/2の長さ	-		D4	Immediately behind head 直後部分	-	D0-2.5mm	
L3	Head 頭部			D5	Half way tip to C of G 先端から1/2の長さ	D0D90%	-	
L4	Grip グリップ	150~160		D6	Over grip グリップの直上	D0+6mm	-	
C of G	Centre of Gravity			D7	Half way tail to C of G 末端から1/2の長さ	-	D0D90%	
	Weight 重量	単位: g		D8	150mm from tail 末端から150mm	-	D0D40%	
				D9	A tail 末端の部分	-	3.5mm	

やりの検査表

# 用器具係

## 1 任務

技術総務のもとに用器具係をおく。用器具係は、各競技に必要な用器具を整備し、その競技開始前にこれを配置し、競技終了後にこれを撤収する。(第123条〔国内〕3)。

技術総務の指示により、競技者が満足な競技ができるように競技日程に従って整備計画をつくり、不備がないようにする。

競技会に必要な用器具を詳細に点検整備する。各競技の用器具は配置あるいは各担当審判員に引き渡し、その担当審判員が設置・撤収を行う(用器具配置分担表参照)。競技実施中における競技場、道路競技におけるコースの状況管理を行う。

トラックを整備するために置かれていた競技場整備係は、全天候舗装の競技場が普及し、最近では用器具係が行っている。

用器具係の任務は都道府県陸協に違いがあるが、基本的な任務は以下のことになる。

## 2 準備・引き渡し・配置

### (1) トラック

取り外し式縁石のチェック、障害物競走用代用縁石の設置、水濠の注水審判台およびフィニッシュポストの設置、ラップ用旗、コーナートップ用旗、レーンナンバー標識、スターティングブロックの配置。

ハードル・障害物の設置。

手旗等審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す。

### (2) 各跳躍場

助走路の確認、砂場の砂の量と湿り具合の確認、棒高跳ボックスの設置、マットおよび支柱の配置、競技者用長椅子の搬送、踏切板等審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す。

雨天時の競技者用テントの設置。

### (3) 各投てき場

足留材の取り付け、兼用サークル、やり投の助走路の確認。

円盤投・ハンマー投の囲いを投てき審判員と共同で設置・移動、

サークル両側の750mmのラインの確認。

白色等テープ・距離標識、投てき器具および審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す（投てき角度線は状況により投てき審判員と共同で設置する場合もある）。天候に応じて競技者用テントの設置。

### 3 留意点

- (1) 技術総務の指示によりプログラムに基づく競技進行計画表と施設配置図をつくる。
- (2) 電気機器関係では、各種目毎の電源確保と情報機器の設置場所の確認をする。特に写真判定装置、情報処理端末器、電気距離計測器、デジタル式風力計の管理状況について、技術総務と連携して競技場管理者と十分な話し合いを行い、保管、整備の配慮をしてもらう。
- (3) 3,000m, 5,000m, 10,000mでグループスタートを行う場合、外側の走路では、スタートラインの約10m先より代用縁石を置くようにする。
- (4) ハードルの種目毎の高さ、位置を確認し配置をする。担当の場所だけでなく、前後のハードルも確認する。競技中の修正は、監察員の任務となる。
- (5) 障害物競走の代用縁石の設置と水濠の注水時間の確認。  
スタートから第1障害まで70mを確保するため、第1障害を移動する競技場がある。
- (6) 跳躍競技では風向きにより助走の方向が変わる場合があるので、跳躍審判長、技術総務と砂場、マットの位置を協議して決める（設置は担当競技審判員）。
- (7) 走幅跳・三段跳では踏切板・粘土板、計測機器を担当審判員に引き渡す。粘土は油性のものを用意する。  
三段跳では助走路が短い場合、補助マットを用意する。
- (8) 高度計、投てき用公式用器具（投てき物）は天候などの影響を受けないよう競技練習に合わせて引き渡すようにする。
- (9) フィールド競技成績表示器、フィニッシュタイマー、テント等大型の機器、器材については観客席より競技中に死角にならない

よう配慮して配置する。

- (10) 配置、設置した各機器等の撤収について、競技の邪魔にならないようにタイミングを考慮する。
- (11) 雨天時における走路、助走路の雨水処理について担当主任審判員と打ち合わせをする。
- (12) 走路、助走路が土質の場合は、レベルの調整、適切な硬さを維持するため、撒水のうえローラー仕上げをし、各スタートライン、テイク・オーバー・ゾーン等のライン引きを行う。棒高跳の助走路は、ボックスの入口が助走路と同じレベルになるようにする。
- (13) 用器具が故障したり、破損したときには技術総務に報告し、総務、技術総務と競技場所有者と協議する。

#### 4 用器具類 (参考例)

##### (1) トラック関係

フィニッシュポスト、審判台、周回表示器、スターティングブロック、監察員用手旗、レーンナンバー標識、ラップ用旗、コーナートップ用旗、吹流し、スタート用拡声器、折りたたみ椅子、信号器、スターター台、スタート合図用黒板、障害物競走用代用縁石、ハードル、障害物、バトン、表彰台、抽選器、監察マーカー、トラック競技速報表示器、競歩失格・警告用円板（パドル）、競歩警告掲示板、フィニッシュタイマー、ブレイクラインマーカー。

##### (2) 走高跳

走高跳用高度計、走高跳用マット、支柱、バー、フィールド用成績表示器、フィールド位置表示器、フィールド用制限時間告知器、記録用机・椅子、競技者用長椅子、テント、ビーチパラソル、ハンドマイク、ほうき、手旗、チョーク、吹流し、白色テープ、コーン。

##### (3) 棒高跳

光波計測器または棒高跳用高度計、ボックス、棒高跳用マット、支柱、バー、バー上げ器、ポール置き台、フィールド用成績表示器、フィールド位置表示器、フィールド用制限時間告知器、記録用机・椅子、競技者用長椅子、テント、ビーチパラソル、ハンドマイク、ほうき、手旗、チョーク、吹流し、白色テープ、リボン

ロッドおよび止め金具，コーン。

(4) 走幅跳，三段跳

光波計測器または走幅跳・三段跳用距離測定器または鋼鉄製巻尺，踏切板，粘土板，踏切板標識，フィールド成績表示器，フィールド位置表示器，フィールド用制限時間告知器，フィールド競技用距離表示マーカ，記録用机・椅子，競技者用長椅子，テント，ビーチパラソル，ハンドマイク，ほうき，手旗，差し込み棒，チョーク，粘土，吹流し，白色テープ，リボンロッドおよび止め金具，記録標識，レーキ，スコップ，散水用ホース，ブラシ。

(5) 砲丸投

光波計測器または鋼鉄製巻尺，砲丸，砲丸置き台，足留材，足拭きマット，炭酸マグネシウム入台，雑巾，フィールド用成績表示器，フィールド用制限時間告知器，フィールド競技用距離表示マーカ，記録用机・椅子，競技者用長椅子，テント，ビーチパラソル，ハンドマイク，ほうき，手旗，チョーク，競技者表示用ペグ，距離目標線テープ（距離に応じて赤・黄色が必要），角度線用白色テープ，リボンロッドおよび止め金具，距離標識，レーキ，計測ピン，コーン。

(6) 円盤投

光波計測器または鋼鉄製巻尺，円盤，円盤置き台，囲い，足拭きマット，炭酸マグネシウム入台，雑巾，フィールド用成績表示器，フィールド用制限時間告知器，フィールド競技用距離表示マーカ，記録用机・椅子，競技者用長椅子，テント，ビーチパラソル，ハンドマイク，ほうき，手旗，チョーク，競技者表示用ペグ，距離目標線テープ（距離に応じて赤・黄色が必要），角度線用白色テープ，リボンロッドおよび止め金具，距離標識，防護網，吹流し，計測ピン，ライン引。

(7) ハンマー投

光波計測器または鋼鉄製巻尺，ハンマー，兼用サークル，ハンマー吊り台，囲い，炭酸マグネシウム入台，足拭きマット，雑巾，フィールド用成績表示器，フィールド用制限時間告知器，フィールド競技用距離表示マーカ，記録用机・椅子，競技者用長椅子，テント，ビーチパラソル，ハンドマイク，ほうき，手旗，チョーク

ク、競技者表示用ペグ、距離目標線テープ（距離に応じて赤・黄色が必要）、角度線用白色テープ、リボンロッドおよび止め金具、距離標識、防護網、計測ピン。

(8) やり投

光波計測器または鋼鉄製巻尺、やり、やり立て台、炭酸マグネシウム入台、雑巾、フィールド用成績表示器、フィールド用制限時間告知器、フィールド競技用距離表示マーカー、記録用机・椅子、競技者用長椅子、テント、ビーチパラソル、ハンドマイク、ほうき、手旗、チョーク、競技者表示用ペグ、距離目標線テープ（距離に応じて赤・黄色が必要）、角度線用白色テープ、リボンロッドおよび止め金具、距離標識、防護網、吹流し、計測ピン、コーン。

用器具分担表（主なもの）

	用器具係にて 配置する用器具	当該主任審判員渡しの 用器具	共同で設置の 用器具
総務・総務員		机、椅子、旗	本部席
審判長		椅子、審判用警告カード（赤・黄）	
番組編成員		机、椅子、抽選器	大会役員席（アナウンサー）
アナウンサー		時計・双眼鏡、通信放送一式	大会役員席（番組編成員）
報道係		報道関係者制限ロープ、机、椅子、記録配布箱、報道に関するものすべて	
記録・情報処理員		机、椅子、雨天用覆い、事務用品等記録に関するものすべて	事務用品（庶務）
マーシャル（場内司令）		報道関係者制限ロープ、椅子、安全ロープまたはコーン、コーンバー、屑入れ	
医師		机、椅子、担架	救急箱（庶務）
競技者係	競技者用長椅子	机、椅子、掲示板、リレー用色テープ、はさみ	テント（監察員、周回記録員）
役員係		机、椅子	テント、湯茶（庶務、用器具係）
庶務係		机、椅子、事務用品	

表彰係		机, 椅子, 表彰台	お盆(庶務)
写真判定員		椅子, 望遠鏡, 写真判定に関するものすべて	
印刷係		印刷機器一式	
風力計測員		机, 椅子, 風力速報表示器, 風速計, 温湿度計, パラソル, 吹流し, 風力計測用曲走路標識(コーン), 時計, 通信機器	事務用品(庶務)
公式計測員		ノギス, 10kg はかり, 鋼鉄製巻尺, やり検定器, ハンマー検定器	
用器具係	ハードル(100mH, 110mH, 400mH), 障害物, 障害物競走・グループスタート代用縁石, 競技者用長椅子, スターティングブロック, レーンナンバー標識, コーナートップ用旗		
決勝審判員	フィニッシュポスト	机, 椅子(ビデオ関係), トラック競技速報表示器, フィニッシュタイマー, 折りたたみ椅子, 通信機(インカムなど)	テント(計時員, 記録・情報処理員, アナウンサー), 事務用品(庶務)
計時員		机, 椅子, 時計(主任が一括), 折りたたみ椅子	テント(決勝審判員, 記録・情報処理員, アナウンサー), 事務用品(庶務)
監察員	コーナートップ用旗, ラップ用旗, ブレイクラインマーカー	折りたたみ椅子, 通信機器(インカム), 監察マーカー, 黄手旗, (ラップ用旗, ブレイクラインマーカーの競技中の配置, 撤去)	
スターターリコーダー		折りたたみ椅子, 信号器, スタート黒板, 拡声器, スターター台, 時計記録板, 通信機器(インカム等)	雷管(庶務)

出発係	競技者用長椅子	スターティングブロック、バトン、スタート用警告カード(赤/黒、黄/黒、緑)、レーンナンバー標識、脱衣籠	
周回記録員		机、椅子、周回表示器(鐘付)、画板	記録用紙その他(庶務)
跳躍審判員	跳躍マット、走高跳用支柱、棒高跳用支柱(設置は担当審判員)、電光掲示板、テント、ポール置台、競技者用長椅子	机、椅子、高度計(走高跳、棒高跳)、炭酸マグネシウム入台、距離測定器、距離標識、成績表示器、位置表示器、制限時間告知器、踏切板、粘土板、バー、距離表示マーカー、手旗、ハンドマイク、粘土、チョーク、ほうき、ビーチパラソル、吹流し、白色テープ、リボンロッド	
投てき審判員	電光掲示板、砲丸返送台、用具置き台、テント、競技者用長椅子	机、椅子、炭酸マグネシウム入台、距離測定装置、距離標識、成績表示器、制限時間告知器、足留材、兼用サークル、距離表示マーカー、競技者表示用ベグ、足拭きマット、手旗、ハンドマイク、チョーク、ほうき、コーン、防護網、ビーチパラソル、吹流し、白・黄色等テープ、リボンロッド、投てき用器具	囲い、ガード(公式計測員、用器具係)
競歩審判員		競歩警告用円板、失格用円板、警告掲示板	

## スタートラインを延長する場合の注意点

参加人数の多い中長距離種目では、スタート直後の接触・転倒を防ぐために、3000m競走(歩)以上の種目ではグループスタートを行うことを推奨している。1500m競走においては、1レーンから競技者を並ばせてしまうと、3・4レーン辺りからスタートする競技者と接触する可能性が高まるので特に注意が必要である。この問題を回避するためには、腰番号の多い競技者から順に外側から並べるようにすると良い。特に走路と同じ全天候舗装(素材・厚さ)であることを条件として、曲走路の外にスタートラインをはみ出して引くことが認められており、

本連盟の検定のもと、スタートラインが延長されている競技場においては、有効に活用していただきたい。

# 招集所審判長

## 1 任務

招集所審判長は必要に応じて1名以上任命され（第125条1）、以下の任務を負う。

本連盟の指定した競技会には招集所審判長をおく。

### (1) 監視責任

招集が競技規則・競技注意事項によって正しく行われているかどうか（遵守）を監視し、その結果について責任を負う（第125条2）。

### (2) 技術的な問題の処理

招集所で起こった全ての技術的問題（規則に違反したかどうかの問題を含めて）について、適切に処理し決定する。また、競技運営に関する異議もしくは抗議を裁定する（第125条2,4）。

### (3) 規則にない事項

競技規則や競技注意事項に明らかに規定されていない事項についても、的確に処理し決定する（第125条2,4）。

### (4) 本連盟が主催・共催・後援する競技会や広告協賛を付した競技会におけるスポンサー広告保護について

競技者が着用する衣類やバック等についても、的確に対応する。（競技会における広告・商標，競技会における広告および展示物に関する規程）

## 2 権限

招集所審判長は、第125条により以下の権限を有する。

### (1) 欠場の裁定，および失格

次の競技者を、欠場したものと裁定し処理し、また規則に違反した競技者を失格させる権限を持つ。

- ① 招集完了時刻に遅れた場合。
- ② リレーのオーダー用紙提出時刻に遅れた場合。
- ③ リレーのオーダーを不正に編成して提出した場合。
- ④ その他、規則や競技注意事項に違反した場合。

### (2) 警告と除外

- ① 不適当な行為をした競技者に警告を与えたり、当該競技から除外したりする権限を持つ。警告は黄色のカード、除外は赤のカードを示すことによって競技者に知らせる。警告や除外の事実は記録用紙に記入する（第125条5）。
- ② 競技場所、ウォームアップエリア、召集所、コーチ席も含めた競技に関連する場所で競技者以外の者がふさわしくない行為や不適切な行為をしたり、競技規則に違反した助力を行ったりした場合、（競技ディレクターがいる場合は相談の上）警告を与え、除外することができる（第125条5）。

### 3 実施要領

#### (1) 競技開始前

##### ① 競技注意事項等の確認

プログラムに記載されている競技注意事項および申し合わせ事項（監督会議があった場合はそのときの決定事項）を確認し、競技運営が円滑に行われるように準備する。

- ② 競技者係主任の任務を確認させるとともに、競技者係の役割分担を徹底させる。
- ③ 招集場所とそこで使用する機器・器具の準備状況を点検し、落ち度のないように整えさせる。もし準備に支障をきたすようなことがあったら、ただちに総務・技術総務と連絡をとり、競技開始前に処理させる。
- ④ 混成競技が行われる競技会においては、事前に混成競技審判長と役割について十分打合せをしておくことが望ましい。

#### (2) 競技中

- ① 招集が競技規則・競技注意事項によって正しく行われているかどうか（遵守）を監視する。〔競技種目、組別、招集開始時刻、ナンバーカード（ビブス）・ユニフォーム・スパイク・商標（バッグ・シャツ）、助力に値する所持品の有無などの点検・確認、招集完了、誘導等〕
- ② 規則に違反する行為があった場合について、適切に処理し決定する。また、競技運営に関する異議もしくは抗議を裁定する。

## リレーメンバーの登録と交代

リレーメンバーの登録と交代に関する規則が変更になってから久しいが、未だにメンバーの組み方の可否に関する問い合わせがあるばかりでなく、規則違反による失格事例も少なくない。

提出されたオーダー用紙のチェックに関わる審判部署（競技者係や TIC）においては、規則違反のオーダーが提出された場合には瞬時に指摘して再提出をさせるなど、大きなトラブルに発展しない確認・指導システムを設定しておくべきである。

**1. 最初のラウンドからリレーメンバーに登録していない競技者が出場できる。**

最初のラウンドに出場できるのはリレーに登録した競技者以外に、その競技会の他種目にエントリーしている競技者であれば出場できる。（ただし、後述の4.遵守）

**2. 予選に出場した4人からすべての作戦が始まる。**

交代とは「一度出場した競技者が他の競技者と代わること」であるので、リレーに登録していない競技者が最初のラウンドに出場する場合は交代ではない。従って、最初のラウンドで出場した4人が基本となり、以後すべてのラウンドを通して2人以内の交代が可能である。（ただし、後述の4.遵守）

**3. 一度出場した後で交代した競技者でも再びメンバーに戻ることができる。**

以前は、一度出場した後で交代した競技者はチームに戻ることができなかったが、現規則では可能であり、しかも復帰は新たな交代数に加算されない。

例えば、予選を通過した後、メンバーを2人交代して準決勝も通過したが、決勝までの間に何らかのアクシデントが発生して走れない競技者が出てしまった場合、以前の規則では新たな交代は許されないので決勝を棄権するしかなかったが、現規則では、予選の時に走った競技者であれば新たな交代数には加算されないので、再びメンバーに戻って決勝に臨むことができる。

**4. 全ラウンドとも、リレー登録者が2人以上含まれていなけ**

ればならない。

上記の如く、メンバーの組み方は多様化したがる、どのラウンドにおいても出場する競技者4人のうち少なくとも2人はリレーに登録している競技者でなければならないことに十分留意しなければならない。

#### 5. 一度提出したオーダーは差し替えできない

オーダーの提出は、各ラウンドの第1組の招集完了時刻の1時間前までである。一度提出されたオーダーはまだ締切時刻前だとしても、差し替えることはできない。ただし、他の種目に出場して怪我をしたり、熱中症等で体調を崩した場合、医師（医務員）の診断があれば変更が可能である。その場合、出場選手の変更のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。

### 同一所属団体が複数のリレーチームを エントリーしたときのメンバー変更

各陸協が主催する競技会のリレー種目では、同一所属団体が複数のチームをエントリーすることを認めている場合が多いが、「同一所属団体であればチーム間にまたがるメンバー変更は認められるか？」との議論があり、本連盟への問い合わせも多い。

これに対する本連盟審判部の見解は「リレーのチームはそれぞれが独立しており、たとえ所属団体が同じであっても、チーム間にまたがるメンバー変更は認められない」と統一している。

しかしながら記録会等の小規模競技会では、できるだけ多くの者に競技会出場の機会を与えてやりたいという配慮から、4人ぎりぎりのメンバー構成で多くのチームをエントリーする団体もあり、チーム間にまたがるメンバー変更を一切認めないとすると、当日何かの事情で誰かが出場できなくなった場合はそのチームの全員が出場の機会を失うので、何とかしてやりたいという要望もある。

そうした競技会での最終判断は主催者側の決定であり、上記の本連盟見解を基本としながらも主催者があらかじめリレーのメンバー変更に関するローカル・ルールを設定して、申し込み時に周知徹底しておけば問題はない。

ただし、最初のラウンドでチームが組めなくなったメンバーがどこかのチームに加わることを認めたとしても、前のラウンドに出場して敗退したチームのメンバーを勝ち上がった他のチームに加えることは認めるべきではない。

# 競技者係

## 1 任務

- (1) 競技注意事項に定められた競技者招集の規定に基づき、出場者の出欠および競技にさしつかえない準備の状況を点検し、速やかに競技場所に誘導し定刻に競技できるように配慮する（第136条）。
- (2) 参加確認が終了した競技者名を、コンピューター処理を行う競技会ではコンピューター端末に入力し完了する。コンピューター処理を行わない競技会では、流し記録用紙に記入して、手早く関係役員に配布する。
- (3) 参加確認が終了した競技者を適切な時刻に競技場所まで誘導する。
- (4) 解決の問題が発生している場合は、問題を招集所審判長あるいは競技者係主任に委ねる。

## 2 実施要領

- (1) 競技会の規模に応じて以下の項目について、招集方法を決めておく。
  - ① 招集場所
  - ② 招集完了時刻
  - ③ 招集方法（複数組の場合は、1組単位の招集が望ましい）
  - ④ 2種目以上兼ねている時の招集方法
  - ⑤ 各種申請紙の提出および確認の方法（リレー・オーダー用紙、2種目同時出場届、欠場届など）
  - ⑥ 点検・確認事項
  - ⑦ 混成競技の招集方法（つぎの種目への間隔は最小限30分を確保する）
- (2) 招集進行計画（確認事項）
  - ① 競技種目
  - ② 組別（組数が多い場合は数組に分けて実施）
  - ③ 競技時刻
  - ④ 招集開始

- ⑤ ナンバーカード(ビブス),ユニフォーム,スパイク,商標(バッグ, シャツ)などの点検, 確認
- ⑥ 助力に係る所持品の有無の点検, 確認
- ⑦ 招集完了
- ⑧ 誘導経路～待機場所, ピット
- ⑨ 誘導出発, 到着時刻
- ⑩ 流し記録用紙(コンピューター入力)
- ⑪ 担当班

〈進行計画表作成例〉

・ 招集開始	トラック	30分前
	フィールド	40分前
		(棒高跳 70分前)
・ 集合・点検	トラック, フィールド	招集完了 4～5分前
・ 招集完了時刻	トラック	20分前
	フィールド	30分前
	(棒高跳	60分前 砲丸投 20分前)

### (3) 混成競技の招集

混成競技では競技が継続して進行するので, 両日の第1種目, 十種競技では第1日目100m, 第2日目110mハードル, 七種競技では第1日目100mハードル, 第2日目走幅跳だけは一般の種目の招集方法と同様に行う。

混成競技係は, 各日第2種目以降は, 競技注意事項の定めにより混成競技者控え室または現地で招集に準ずる手続きを行い, スタートリストを配布する。

## 3 留意点

- (1) 誘導は迅速に行う。



- (2) 誘導経路は、バックストレート外側を通り（極力ホームストレート側の通路を避けて）、最後にトラック、フィールドを横切って競技場所に到着させる。



- (3) 競技会の規模によりトラック競技においては、役員に余裕がある場合、1組ごとに誘導する。
- (4) スタートリスト

コンピューターで処理する場合は、出場者・欠場者を入力し、各部署が確認できるようにする。

以下は、コンピューター入力を実施しない競技会の例である。

① トラック競技

スタートリストは、予選においては競技開始10分前までに配布を完了する。

配布先（例）

競技者係控／総務／担当総務員／トラック審判長／アナウンサー／出発係（リレー4枚）／決勝審判員主任／計時員主任／写真判定員／電光掲示係（施設がある場合）／本部記録／情報処理員／監察員主任（リレー4枚）／報道係／周回記録員（800m以上）

② フィールド競技

スタートリストは、招集完了後速やかに配布を完了する。

配布先（例）

競技者係控／総務／担当総務員／アナウンサー／フィールド審判長／フィールド審判員主任／フィールド審判員記録担当（2枚）／風力計測員／本部記録／情報処理員／報道係

③ 決勝（参加競技者が24人を超え予選を行った場合）

番組編成員から編成用紙を受け、速やかに配布を完了する。

④ 欠場、追加、2種目以上出場している場合

欠場の印は、赤線で明瞭に抹消する。また、追加の際は、ナンバー・氏名・所属を記入する。他の種目に出場している時は、

〇〇出場中と明記する。「2種目同時出場届」がある場合は配布、受領を行う。

- ⑤ リレーのオーダー用紙の提出時刻は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに提出(第170条11)。

また、用紙は招集所に用意する。競技注意事項に明記しておく。

- (5) ナンバーカード(ビブス)、ウェア、スパイクシューズ、バッグなどの点検

競技者の点呼と同時にナンバーカード(ビブス)が胸・背・腰に確実に且つ、脱落しないように付けられているか、スパイクシューズ、ユニフォーム、および持ち込む荷物についてルールに抵触していないかを確認する(第143条、第144条、競技会における広告および展示物に関する規程)。

① 服装

全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は、ランナーの誤りをなくすために、同一のユニフォームを着用する。(短パン - スパッツの違い等は許容範囲)

② 商標の取り扱い

特に、Tシャツやトレーナー、ベンチコート、バッグなどには規程に抵触する大きさ、数量のものがあるので、持ち込む場合にはテープで隠すなどの処置をする。(競技会における広告および展示物に関する規程)



大会のロゴマーク等の入ったステッカーを使用した例





スパイクの検査

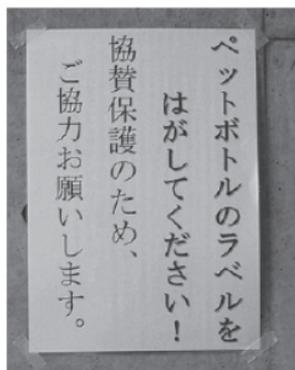
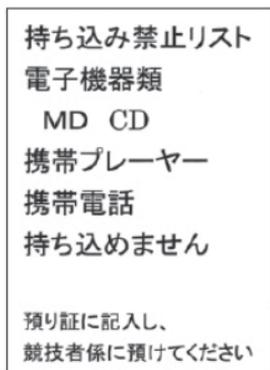
- ④ ナンバーカード（ビブス）
- (a) 競技中、胸と背にはっきり見えるように2枚のナンバーカード（ビブス）を付ける。ただし、跳躍競技の競技者はどちらか1カ所でもよい。（第143条7）
  - (b) 配布された形で着用する。切ったり、折ったり、たたんだりしてはならない。（第143条9）
  - (c) 長距離種目では、風通しの穴をあけてもよいが、数字や文字の部分に穴を開けてはならない。（第143条9）
  - (d) 写真判定装置を使用する競技会では、腰ナンバー標識を付けさせる。（第143条10）
  - (e) いかなる競技会であろうと、競技者は自分のナンバーカード（ビブス）その他の標識を着用せずに参加することは認められない。（競技規則143条8）
  - (f) 競技中にナンバーカード（ビブス）が外れないように、競技者がナンバーカード（ビブス）をユニフォームに結着する際、確実に且つ、脱落しにくく付けられているか、ナンバーカード（ビブス）の4隅のそれぞれ2ヶ所に安全ピンを通し競技中にナンバーカード（ビブス）が外れないよう注意する。

また、競技中上着で腰ナンバーが隠れることのないように注意する。



⑤ 助力に係る所持品について(第144条)

携帯電話・トランシーバーなどの通信機器やビデオ装置・携帯音楽プレイヤーも競技場内に持ち込むことが禁止されているので注意を促すこと。申し合わせ事項によって一時預かる場合もあるので注意する。



- (6) 招集所以降は、競技場所という扱いとなるので、競技開始前であろうと競技者以外の者は進入することは許されないの注意すること。



- (7) 「第1招集」「第2招集」と区別する必要はない。完了時刻に招集所に来ていれば問題ない。
- (8) 招集完了時刻に遅刻した競技者の扱い

必ず複数の者、ウォームアップ場係の協力を仰いで呼び出しを行い、遅刻を出さない努力をすること。定刻になっても招集に来ない場合は欠場扱いとしてスタートリストを流す。招集完了時刻以降に招集所に来た場合は招集所審判長の判断を仰ぐこと。招集所審判長をおかない場合は、総務の判断を仰ぐこと。

## 持ち込み禁止品の取り扱い

第144条「競技者に対する助力」の中で、ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で所持または使用することを禁止している。特にフィールド内を着替えたり練習を繰り返すフィールド種目出場者に対する格段の配慮・注意が必要となる。

持ち込みを防ぐためにはいくつかの方策があるが、招集所付近にポスターを用意し、注意を促すのが効果的である。外国人競技者が出場する競技会ではイラストや写真で禁止品目を表示するとわかりやすい。

また、カバンの中の持ち物まで検査する必要はないが、全員が揃ったところで今一度注意を喚起しておく必要もある。学生が参加する競技会では、招集所付近まで同僚が付き添って来るのが常であるから、その人に預かってもらうように指示すべきである。

預ける関係者がいない場合は招集所で預かることになるが、その場合には保管場所の設置や預かり証の発行が必要となる。

また、携帯電話などではプライバシー保護のために本人にロックをかけて貰ったり、封筒を用意して競技者本人の手により厳封してもらう必要も出て来る。

万が一競技場内で発見された場合には、その場で回収して競技終了後に返却すべきであり、仮に使用していたとなれば、審判長により警告され、守らない場合には失格になることを勧告する。

お互いが気持ちよく競技に臨めるよう、マナーある参加を強く呼びかけたいものである。

# 役員係

## 1 任務

大会総務の直轄下で、以下の任務を担当する。

- (1) 競技役員、補助員の把握とその連絡
- (2) 役員の出欠整理、報告処理、公認審判員手帳の記入
- (3) 競技役員、補助員の食事、その他給与物の支給、休憩室の管理
- (4) 欠席競技役員に対する補充措置
- (5) 役員の集合解散の処置
- (6) 役員の服装のチェック

## 2 実施要領

- (1) 競技役員の出欠場所において、競技運営要領、プログラム等を配布し、審判員手帳を提出させ、出欠を確認し、役員原簿に記入する。
- (2) 総務に競技役員の出欠状況を報告する。
- (3) 欠席役員の補充については、総務、各係主任と協議する。
- (4) 役員の服装をチェックし、異装の者に対して注意を喚起する。
- (5) 競技役員の駐車場利用については、総務・総務員、駐車場係と連絡を取り、協力する。
- (6) 役員に食事、日当等を支給する。弁当については、空き箱、残飯等の回収・廃棄についても連絡し徹底する。
- (7) 役員の控室を確保し、管理する。
- (8) 補助員の扱いについて各係に依頼、協力を求める。
- (9) 雨天、荒天に備えて、競技役員用の貸し出し雨具を準備する。



## 3 留意点

- (1) あらかじめ競技役員に控室、任務につくときの出入経路を知らせる。
- (2) 競技終了後の措置について、あらかじめ連絡する。
- (3) 日当、雑費を交付するときは、交付要領を伝達しておく。

# 庶務係

## 1 任務

大会総務の直轄下で以下の任務を担当する。総務の片腕とも言える部署である。

- (1) 大会本部の開設運営をする。
- (2) 来賓，大会役員の接待をする。
- (3) 総務の担当する競技場施設の管理についての協力，および申込文書，印鑑等の管理を行う。
- (4) 競技会収支を取り扱う。
- (5) 競技会に必要な物品，記録用紙，プログラム，消耗品等の保管管理。
- (6) 役員係と協力して競技役員，その他の役員の弁当，支給物の受け渡しを行う。
- (7) 表彰資材の受け渡しを行う。
- (8) 参加競技者の受付，監督・コーチとの折衝を行う。
- (9) 対外関係者との交渉を行う。
- (10) 会議会場の設営をする。
- (11) 他の係に属さない事項を取り扱う。



庶務係の支給物受け渡し風景

特に規模の大きな競技会の場合は，会議場の手配，部屋や門の開閉，IDカードによる入場規制，警備・場内整備について会場管理係を設置し独立して任にあたらせることもある。

## 2 配置

担当別に班編成をする。

- (1) 来賓，大会役員の接待を担当（プロトコールが置かれる場合は，プロトコールと協力して）。
- (2) 競技役員，その他役員等の弁当，支給物の受け渡しを担当。
- (3) 参加競技者の受付，監督・コーチとの折衝を担当。

- (4) 競技会の収支を取り扱う担当。
- (5) 競技会に必要な物品，記録用紙，プログラム，消耗品等の担当。

### 3 実施要領

- (1) 競技会申込原簿ならびに，関係書類を整理しておく。
- (2) 競技会に必要な物品，消耗品等はあらかじめ各係主任と連絡をとっておく。
- (3) 抗議申立書，用器具借り上げ（持ち込み）申請書，同時出場届け等，諸書式をあらかじめ用意する。
- (4) 競技場管理者と連絡をとり，ゴミの回収について確認し各係に徹底を図る。



競技会に必要な物品の貸し出し

# マーシャル (Marshal : 場内司令)

## 1 任務

- (1) 総務と協同して許可された者以外は競技場内（ウォームアップ場係と連携してウォームアップ場も）に立ち入らないように整理する（第122条）。
- (2) 場内の完全な統制権をもち、役員とその競技に出場する競技者あるいは入場が正式に許可されている者の他は、誰も場内に出入りさせない（第133条）。
- (3) 主催者と報道機関があらかじめ打ち合わせた撮影のエリアを守らせる。このほかラジオ、テレビ中継のためにアナウンサーや記者を場内に入れることもあるので、主催者側が発行するマーク（ビブス、IDカード等）を付け、一般役員と区別する必要がある。
- (4) 好記録が出たときなど、取材のために無制限に記者がトラック、フィールドに入る事態を予測して、あらかじめ打合せをしたエリアを守らせる。
- (5) 観客、その競技に関係ない者、競技役員、大会役員で直接競技の審判をしていない者などは、場内に入れない。
- (6) 競技が終了した競技者をミックスゾーン（退場口）へ速やかに誘導する。
- (7) マーシャルの担当するエリアはトラック、フィールド、借用している競技場内施設であって、観客席は直接関係ない。また、腕章を付けて任務を明瞭にする。
- (8) 良好な競技環境の確保。
  - ① スタートライン付近では、待機競技者のスタート練習の規制
  - ② スタート時の集団応援等の自粛要請
  - ③ フィールド競技では、助力となる行為への注意のコントロールおよび助走路がトラックと交差する個所の安全確保
  - ④ 許可なく競技場内に入ってくるコーチなどの規制
  - ⑤ 許可なく競技場所を離れる者の規制
  - ⑥ 報道関係者の規制

## 2 配置

トラック種目	全国大会	地区大会	県大会	対抗競技会
スタートライン後方（待機競技者の混雑防止）	2	2	1	1
途中（競技実施重複度や傷害防止を考慮して）	1	1	1	
フィニッシュライン後方（退場経路の指示）	1	1	1	1
小計	4	4	3	2
フィールド種目	全国大会	地区大会	県大会	対抗競技会
跳躍助走路スタート地点付近，着地場所付近	4	4	2	
投てき各種目サークル付近，やり投スターティングライン付近，各種目角度線外（特にハンマー投）	1	1	1	
小計	8	4	2	2
合計	主任 1 12	主任 1 8	主任 1 5	主任 1 4

〔注〕フィールド種目においては競技実施重複度合いがはっきりしていないので，おおよその見当で人員を出してある。

## 3 実施要領

- (1) マーシャルの人数は競技会の規模の大きさ，競技実施重複度（特にフィールド競技）によって，増減をはからなければならない。軽快に動き，ルールや競技運営に熟知し，各方面に配慮できる人材をあてることが望ましい。全国的規模の大会では，13人程度は必要である。
- (2) 場内の統制方法は，あくまでも競技実施場所重点主義である。
- (3) マーシャルの役割分担は，主に
  - a) トラック，フィールド分割方式，
  - b) 競技場をいくつかのエリアに分けるゲートを中心とする方式，
  - c) 競技の行われている場所とゲートを対象とする方式
 などがあるが，競技の行われている場所（区域）を重点的に統制すべきである。
- (4) 統制区域
 

トラック競技では，

  - ① 各スタートライン付近
  - ② フィニッシュラインおよび同延長線付近

- ③ 競技前スタートライン待機場所中心
- ④ 競技終了後の競技場外への退出経路（フィールドと共通）
- ⑤ 障害物競走が行われている時の水濺付近

フィールド競技では、

- ① 各競技実施場所付近
- ② 棒高跳の助走路，着地場所
- ③ 競走種目と重複のおそれのある区域（やり投，走高跳と競走種目の関係）競技の進行を確認しながら任務にあたる。競技日程では重なる予定はなくても，進行の遅れ等によっては重なる場合もある。
- ④ 投てき競技の投てき物落下区域

#### 4 留意点

- (1) 一般的な対応方法（相手の立場を思いやり丁寧な対応をする）

マーシャルが注意しなければならない事項としてあげられるのは、対象が競技者・役員・監督・コーチ・観衆・報道関係者といった人であることから、親切丁寧に対応することである。過去の競技会において報道関係者と思わぬトラブルが起こったのも、そのほとんどが不適切な言動によるものである点に留意しなければならない。報道関係者もよりよい報道をするために仕事として取材しているので、運営側も競技運営に支障のない範囲で取材には協力することが必要である。したがって、行動を規制するときにはルールに従うこととお互いの立場を尊重して（してもらって）、話し合うようにしなければならない。

- (2) 競技場所を離脱する選手への対応

フィールド競技において、トラックを横切りトイレ，コーチとのコミュニケーションのため競技場所から離脱することについて，フィールド審判員と協力して試技順に影響が出ないように注意したい（第144条）。

また，審判員の許可を得ることなく，且つ伴わないで離脱した場合は警告の対象となり，悪質な場合は失格となるので注意する（第180条19）。

助力に対しては，速やかにできるだけ穏便な方法で処置する。

### (3) 取材協定方法

詳細については、報道系の項も参照されたい。また規制をするにあたっては、競技場の構造、競技会の規模、競技者のレベルに応じて、報道係、報道関係者および現場の審判員と協議のうえ、立入取材禁止区域（あるいは取材エリア）を設定するとよい。

（一般事項）

- ① トラック上からの撮影はしない。
- ② 夜間のフラッシュ使用の撮影は禁止する。
- ③ トラック種目の撮影は、第1レーン内側および第8(9)レーンの外側で、トラックの縁石からフィールド内は1m以上離れる。スタート地点の前後10m以上離れる。
- ④ フィニッシュラインは、取材エリア以外の場所は禁止する。
- ⑤ 特に競技役員から要請のあった場所（例：曲走路などスターター、リコーラーの立つ位置、監察員が監察するのに支障をきたす個所など）は禁止。
- ⑥ 競技場内練習時の注意喚起（フィールド審判員と協力して）。フィールド競技者と競技役員、報道関係者、トラック競技者との衝突防止。
- ⑦ フィールド競技は、正面からの撮影は競技運営上および危険予防のため禁止。競技の撮影は取材エリアから内側に入らない。
- ⑧ 投てき競技で風の影響で投擲物が流れる危険がある場所は、エリアを多少ずらす。砲丸投げ以外の競技のエリアは非常に広範囲であるので投てき物の行方には特に注意する。また、トラックから助走するやり投競技者（特に走者とやりの接触）について注意。
- ⑨ 競技者更衣室、シャワー室、および記録室や競技役員控室での取材は禁止する。

# ウォームアップ場係

## 1 任務

- (1) 全ての競技者が競技に臨む前に、安全に秩序ある練習が十分できるように場所を確保する。
- (2) 競技者係と連携し、競技者が招集場所にスムーズに移動できるようにする。

## 2 実施要領

- (1) ウォームアップ場のコンディションの保持・管理。
- (2) 秩序ある練習法，ならびに危険防止。
- (3) 練習に必要な器具，器材を確保する。

## 3 留意点

- (1) ウォームアップ場に入出りできる者について、競技注意事項に明記する。競技会の規模によっては、報道関係者、IDを持たないチームメイトも規制を受けることがある。
- (2) 定められた練習日程やトラックのレーン割り当てを守らせる。
- (3) 雨天，荒天時の対策と対応。
- (4) 競走路，助走路，投てき場の使用方法について，危険防止について周知徹底する。

### 審判員（ウォームアップ場係）



インフィールド内への  
横断を調整する役員

曲走路と直走路の交差付近に立ち、  
競技者同士の接触を注意している

- (5) 本部との連絡手段、競技者への招集時刻の連絡手段を確保する。
- (6) 競技者係と協力して、**ウォームアップ場掲示板と係控室**  
競技者の招集時刻厳守  
を呼びかける。

また、ウォームアップ場でも準決勝、決勝進出者の掲示を行うことに協力する。



#### ウォームアップ場における レーン割り当ての例

(直走路8レーン，曲走路6レーン)

##### 〈曲走路〉

1～2レーン：周回・タイムトライアル用

3～4レーン：流し・バトンパス用

5～6レーン：400mH用

##### 〈直走路〉

1～2レーン：周回・タイムトライアル用

3～5レーン：流し・スタートダッシュ用

6～8レーン：ハードル用

#### レーンの割り当て



\* 競技日程に応じ、特にハードル種目・リレー競技等が行われる場合に出場する選手がウォームアップを行う時間帯には集中するので、ハードルやバトンパスの練習に使用できるレーンをその時間帯に限って増やすなどして対応する方法もある。

ハードルのレーン  
を増設した例



# 風力計測員

## 1 任務

- (1) 第163条、第184条の規定に基づいて風向風速計を設置する。
- (2) 当該競技における風向および風速を測定し、それを記録する。  
その結果に署名した後、記録・情報処理員に報告する。
- (3) 競技進行中の気象状況についても観測する。

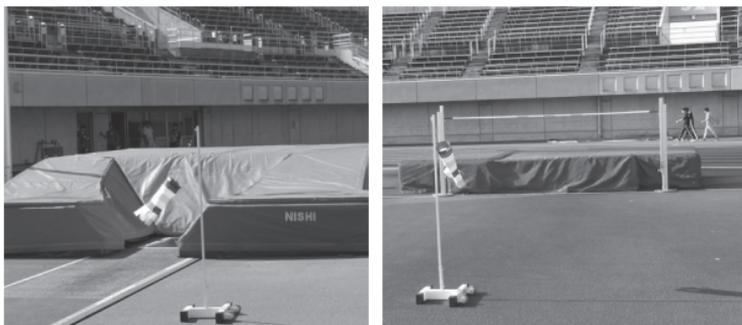
## 2 配置

- (1) トラック競技の場合、風向風速計は直走路の第1レーンに隣接して、フィニッシュラインから50mの地点で、第1レーンから2m以内に設置する。



- (2) 走幅跳、三段跳において風向風速計は踏切板から20m、助走路から2m以内の位置に設置する。
- (3) 風向風速計を設置する高さは、地上から1m22とする。
- (4) 計測員の配置は、当該競技の運営に支障のない位置で、かつ風向風速計に影響を与えない位置とする。風向風速の表示板は、当該競技の記録速報板と並んで見やすいところに配置することが望ましい。
- (5) 競技場の風向風速を知る目安として、トラック競技用風向風速計と定時気象観測用風向風速計のほぼ中間（100mH 6台目付近）に吹流しを設置する。
- (6) 競技者がおおよそその風向と風速を知ることができるように、すべての跳躍競技と円盤投・やり投においては、適切な場所に1つ以上の吹流し状のものを置く。砲丸投、ハンマー投では不要である。

## 吹流しを置いた例



### 3 実施要領

- (1) 観測，計測の結果は次の各係に連絡する。
  - ① トラック競技 記録・情報処理員
  - ② フィールド競技 跳躍審判員記録担当
  - ③ 定時観測 記録・情報処理員，アナウンサー
- (2) 新記録が出た場合，気象状況，風向風速の確認と証明を行う。
- (3) 風向風速の計測時間

#### トラック競技

200mまでの種目を計測する。

200mを除く種目では，スタートと同時に計測するが，200mにおいては，先頭の走者が直走路に入った時から10秒間計測する。

60m 5秒間

100m, 200m 10秒間

100mH, 110mH 13秒間

#### フィールド競技

走幅跳では踏切板から40m，三段跳では踏切板から35m離れた地点にマーカーを設置し，競技者がそのマーカーを通過したときから計測するが，これよりも助走距離が短い場合，助走を開始した時から計る。

走幅跳・三段跳 5秒間

### 4 留意点

- (1) 主任は，計測器が正確に設置されているか，作動するかどうかを点検する。

- (2) 記録の公認という観点から、風力速報表示器を利用して風力の記録を表示する。
- (3) 機械式の風速計の場合は追い風(+), 向かい風(-)の方向に注意する。

#### 機械式風力計

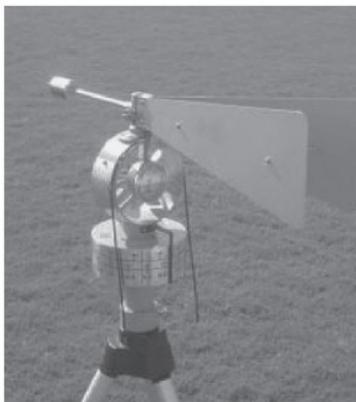
トラック内側ホームストレー  
トフィニッシュラインから50m  
地点に配置したところ



#### 中浅式風向風速計

- (4) アナログ式(中浅式)の場合は、メーターの目盛りの移動量と同時に、測定時間内に振れた角度も同時に観測し、風速換算表で走路(助走路)方向の分速になおす。

- ・方位磁石で東西南北をあわせる
- ・矢羽根の下、中央が風力計
- ・両側のひもは風力計のメーターのロックスイッチ



- (5) 定時気象状況の観測は、通常、正時(00分)に行く。慣例として競技開始時の気象状況も測定し発表している。
- (6) 定時気象状況の観測場所は競技場中央部ホームストレート側で第1レーンから2m以内に設置する。トラック競技の風力測定場所と違うので注意する。

また、風力の測定は気象学的には10分間の空気の移動量と定義されているが、陸上競技場では簡略化して、3分20秒(200秒)間測定し、秒速に換算するのを標準とする。

- (7) 乾湿計は地上から1m500の高さに設置する。競技場の気温湿度を代表すると思われる場所(ホームストレート中央付近のスタ

ンド下など日陰の部分が望ましい)で観測する。

測定値の有効数字については、使用する機器の精度に応じて読み取る単位を決める(0.1度単位でも0.5度単位でもかまわない)。



A・Bピット並行して設置されている例

### 超音波風向風速計



## 風速計の故障

多人数が参加する走幅跳や三段跳では2つのピットを用いて同時に予選を行うケースがあり、最近の国内競技会では2ピット同時進行で決勝を行う例も少なくない。当然跳躍審判員と風力計測員も2班編成にする必要がある。そんなとき風向風速計が故障して、予備の計器もないとなったらどうすべきであろうか？

当然2ピットを交互に跳躍させ、それぞれの風力を計測すべきなのだが、問題はその計器の設置場所である。たとえばトラック側が故障した場合、スタンド側においてある計器からトラック側の助走路まで2m以上離れてしまうため公認記録とならなくなってしまうのである。第184条11で助走路から2m以内に設置することになっているので、2つの助走路の間に置く必要がある。

ただし、電源からコードをどのように引いてくるかは工夫が必要である。延長コードが十分にあれば助走路の後方から回してこくことも可能であろうが、それができない場合、走高跳のスタンドを利用して助走路の上を通して2ピットの間で計測したという報告もある。

# 表彰係

## 1 任務

各種目の決勝において入賞した競技者を表彰するために、表彰される競技者を表彰進行計画に基づき表彰する。また、栄章授与式が行われる競技会ではその業務も担当する。

## 2 実施要領

### (1) 種目表彰

- ① 表彰進行計画(台本)を総務の承認を得て決定。
- ② 総務員(進行担当)、アナウンサー、報道係、ドーピングコントロール係等、関係役員とあらかじめ打ち合わせておく。
- ③ 表彰方法を競技注意事項等に記載し、競技者に周知徹底する。
- ④ 入賞した競技者は、入賞者管理係・ミックスゾーン係・マーシャル等に協力を求め、それぞれ控え室までの誘導方法を打ち合わせる。
- ⑤ 記録・情報処理委員と連絡を密にする。
- ⑥ 表彰用物品を確認する。

種目ごとに寄贈者が異なる表彰用物品がある場合には注意が必要。

- ⑦ 種目ごとの授与者、表彰予定時刻をあらかじめ決定し、表彰場所等に掲示・案内する。
- ⑧ 種目ごとに表彰カードを作成する。
  - (a) 種目
  - (b) 表彰する人(プレゼンター)、役職名
  - (c) 表彰される競技者名、所属
  - (d) 成績(新記録が出たときは明示する)
  - (e) その種目に寄贈されている賞杯名、寄贈者名など

### (2) 栄章授与式

- ① 受賞者への連絡方法を事前に確認し、出欠者の把握をする。
- ② 当日の受付場所・控室の確認、案内係等の手配を行う。
- ③ 授賞式の場所、手順を報道係、アナウンサー等関係部署間で協議し、共有しておく。

- ④ 授与式直前(30分程度)に出欠の最終確認を行う。

### 3 留意点

- (1) 表彰式典マニュアルを作成する。それに基づく表彰計画で係分担を作成し、十分打ち合わせておくこと。準備が整ったならば、表彰カードをアナウンサーに渡し、関係総務員(進行担当)の指示のもとに行動する。
- (2) フィールド内で行う表彰については、リハーサルをしてスムーズな進行ができる様にしておくこと。トラックを横切る様なケースは、特に注意が必要。
- (3) 表彰はトラック競技成績の発表後、競技の合間にできる限り行う。また、フィールド競技の進行にも十分な配慮が必要である。
- (4) 報道関係者が多く取材に入る大規模競技会では、あらかじめ表彰時刻をプレスセンター等に掲示して周知するなどの対応が求められる。
- (5) 大規模競技会では、インタビューやドーピング検査などの対象となる競技者が数多く発生するので、関係部署(入賞者管理、報道係など)との連携を密にし、表彰式を時間通りに実施できるようにする。
- (6) 表彰係主任が総務員(進行担当)と連絡をとって、タイミングよく競技に支障なく表彰する。フィールド競技の試技開始のタイミングなども留意する。
- (7) 表彰時の競技者の服装は競技会ごとに定める。服装等の決定をした場合は事前に関係者に周知し、特に商標には十分注意する必要がある。
- (8) 入賞者控の場所は、競技会の規模や実施種目数、決勝種目の集中度合いなどを考慮し、必要十分な広さを確保し、椅子などが不足することが無いように配慮して準備する。
- (9) 日本選手権混成競技、国体、U20・U19選手権など8名まで表彰される競技会では、従来型の全員が並んで入場するスタイルではなく、一人一人アナウンスで呼び入れ、ハイタッチで入賞者が相互に祝福し合うという形式で行われている。

## 表彰式での連携

賞状やメダルの準備が整い、入賞者も全員揃った。授与者と介添えの補助員の準備も完了し、いつでも表彰できる状態であるが、今一つ大事なことを見落としていないか？ そう、他の部署との連携である。

表彰は、勝者や入賞者に対して最大の賛辞を送るべき一大セレモニーである。大規模な大会では、表彰進行担当総務員が介することが多いが、アナウンサーや大型映像係などの協力なくしては行えない。

表彰は、通常トラック競技の合間に行われるが、トラック競技が10分ダイヤで運営されている場合、フィニッシュ後にリプレイ映像を表示し、1着の速報を伝えるのに1分かかる。また、次の組の出場者紹介に後半部分の2～3分が必要となるので、間の6分間が表彰実施に与えられた時間となる。ただし、その間に結果発表や、フィールド種目の出場者紹介、4回目以降の上位8人の紹介などが組み合わさっていくのが実際である。刻々と変わる状況の中で、何を最優先としてプログラムを組んでいくのか進行担当総務員、アナウンサーの腕の見せどころであるが、チーム全体の協力体制が整っていないとうまく成功しない。

せめて実施予定の2種目前には連絡をとりはじめ、担当者一同が臨機応変に対応できるようにしたいものである。

また、競技の進行を止めさせる必要はないが、正面スタンド前で行われる走幅跳や三段跳の跳躍審判員には、どのタイミングで表彰が入るか伝えておくべきで、競技者が表彰の間、直近での競技の中断を望むのであればそのように配慮することも必要である。ただし、最後の6回目に入ってから、特に最後の3人になってからの表彰は、競技に見入っている観衆にとっては興ざめとなりかねないので避けた方が賢明である。